

自
年
月
日

至
年
月
日

日独伊防共協定關係一件
防共協定強化問題

第

卷

外務省
記録

自
年
月
日

至
年
月
日

日独伊防共協定關係一件
防共協定強化問題

B
1
0
0
2-5

B-0057

極秘

防共協定ノ強化工作要領案

防共協定ノ強化ニ關シテハ別冊「日獨及日伊樞軸強化ニ關スル方

策案」ニ依ル

昭和二十一年五月十九日
五物金澤法政大
?

1.1.1.0 - 27 2075

B-0057

日獨及日伊樞軸強化ニ關スル方策案

一、判 決

帝國ハ速ニ獨逸及伊太利ト各個ニ協定ヲ遂ケ相互ノ締盟關係ヲ一層緊密化シ協定各國ノ對「ソ」威力及對英牽制力ヲ強化シ以テ當面ノ支那事變解決ヲ迅速有利ニシ且我東亞經綸ノ進展ニ資セシムルヲ要ス

之カ爲獨逸ニ對シテハ防共協定秘密附屬協定ノ精神ヲ擴充シテ之ヲ對「ソ」同盟ニ導キ伊太利ニ對シテハ主トシテ對英牽制ニ利用シ得ル如ク秘密協定ヲ締結ス

二、對 策

一、日獨同盟ノ締結

概ネ左記ノ内容ニ依ル

同盟内容案

(一)日獨兩國ハ現「ソ」聯政權ヲ以テ兩國々防上及世界平和保持上

許容シ難キ存在タルコトニ關シ共通ノ觀念ヲ有スルコトヲ確認ス

(二)第一案

「締約國ノ一方カ「ソ」聯ト開戦ノ已ムナキニ至リシ場合ニ於テハ他ノ締約國ハ一方國ニ對シ爲シ得ル限りノ援助ヲ與フルモノトス

第二案

「締約國ノ一方カ「ソ」聯ト開戦ノ已ムナキニ至リシ場合ニ於テハ他ノ締約國ハ直チニ「ソ」聯ト開戦シ日獨協力シテ之ヲ處理ス

「ソ」聯ト紛争ヲ生シ又ハ之ヨリ脅威ヲ受ケタル場合ニ於テハ相互爲シ得ル限りノ援助ヲ與フルモノトス」
之カ爲締約國ハ平時相互ニ「ソ」聯ニ關スル情報ヲ通報スルノ

S 1.1.1.0 - 27 2077

S 1.1.1.0 - 27 2076

B-0057

ミナラス締約國ノ何レカカ「ソ」聯ト戦争ノ危機又ハ紛争ヲ生シ或ハ之ヨリ脅威ヲ受クルニ至リシ場合ニ於テハ相互協力又ハ援助ニ必要ナル一切ノ事象ニ關シ協議ス

(三) 締約國ノ一方カ「ソ」聯及ヒ伊太利ヲ除ク第三國ト戦争又ハ紛争ヲ生シ又ハ之ヨリ脅威ヲ受ケタル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ相互ニ他ニ好意アル態度ヲ保持ス

(四) 本同盟ノ有効期間ハ五年トス

ニ、日伊協定ノ締結

概ネ左記ノ内容ニ依ル
協定内容案

(一) 締約國ノ一方カ獨逸外ノ第三國ト交戦スル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ相互ニ他方ニ最モ好意アル中立ヲ保持スルト共ニ爾他列強ノ第三國側參戰ヲ防止スルコトニ努ム

之カ爲締約國ノ何レカカ獨逸外ノ第三國ト戦争ノ危険ヲ生スル

ニ至リシ場合ニ於テハ他ノ締約國ノ執ルヘキ處置ニ關シ兩締約國ハ相互ニ協議ス

(二) 締約國ノ一方カ獨逸外ノ第三國ト紛争ヲ惹起シ又ハ之ニ依リ脅威ヲ受ケタル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ前項ノ趣旨ニ依リ相互ニ他ニ好意アル態度ヲ保持ス

(三) 本協定ノ有効期間ハ五年トス

S 1.1.1.0 - 27 2079

S 1.1.1.0 - 27 2078

B-0057

第九 日獨伊防共協定研究方針
昭和十三年七月十九日
五 相會議 決定
日獨伊防共協定ヲ強化スル方針ノ下ニ研究ス

- 二 諸政權ノ政策遂行ノ爲日支提携實現ノ基調タルヘキ主義ヲ確立シ
又本主義ノ温床タラシメンカ爲民衆團體ノ組織ヲ強化促進ス
- 三 共産黨ハ絶對之ヲ排撃シ國民黨ハ三民主義ヲ修正シテ漸次新政權
ノ政策ニ順應スルモノタラシム
- 四 宗教ハ日滿支提携ノ促進ヲ阻碍セザル限リ信仰ノ自由ヲ許容ス
- 五 學者ヲ招撫シテ之ヲ保護シ且儒教ヲ振興ス
- 六 實用科學ヲ振興シテ産業開發ヲ容易ナラシム

B-0057

極秘

日獨防共協定強化ニ關スル件 昭和一三、七、二六

防共秘密附屬協定ノ精神ヲ強化シテ對蘇攻守同盟ニ迄擴充セル日獨間ノミノ秘密條約ヲ締結ス

本條約ハ防共協定トハ取扱ヲ別ニス

防共協定、同附屬議定書ハ其儘之ヲ存續シ反「コミンテルン」統一戰線ノ形成ヲ容易ニス

秘密條約要綱

一、兩締盟國ハ蘇聯邦ノ脅威ヲ共同シテ排除スルノ必要ナルコトヲ確認シ蘇聯邦ノ脅威ニ因リ兩締盟國ノ一方カ蘇聯邦ト戰端ヲ開クニ至リタルトキハ其場所ノ如何ニ拘ラス他ノ一方ハ兵力ヲ以テ速ニ戰爭ニ

參加シ媾和モ亦雙方合意ノ上ニ於テナスコト

（日獨間交渉推移ノ情況ニ依リテハ「戰爭參加ノ時期及方法ニ就テハ當時ノ情勢ニ應シ兩締盟國ニ於テ協議ノ上決定スルコト」ヲモ考慮ス、此場合ニ於テ締盟國ノ他ノ一方ハ假令未タ兵力ヲ以テ戰爭ニ參加セサル間ト雖モ戰爭當事國タル締盟國ニ對シ爲シ得ル限りノ援助ヲ與フルコト）

二、兩締盟國ハ平戰兩時ヲ通シ蘇聯邦ニ關スル重要ナル情報ヲ交換スルコト

三、兩締盟國ハ蘇聯邦ノ脅威ニ對應スル爲平戰兩時ヲ通シ蘇聯邦及第三國ニ對スル宣傳及謀略中共同シテ實施スルヲ有利トスルモノニ付共

8 1.1.1.0 - 27

2382

8 1.1.1.0 - 27

2381

B-0057

同シテ之ヲ實施スルコト

四 作戰ニ關シ必要アルトキハ兩締盟國軍當局ニ於テ協定スルコト

五 兩締盟國ハ執レモ他ノ一方ト協議ヲ經スシテ他國ト本條約ノ精神ト

兩立セサル一切ノ條約ヲ締結スルコトヲ得サルコト

六 本條約ハ調印ノ日ヨリ直ニ之ヲ實施シ五ケ年間有效ナルコト然レト

モ右終了期間ニ至リ締盟國ノ一方カ現ニ蘇聯邦ト交戦中ナルトキハ

本條約ハ媾和結了ニ至ル迄當然繼續スルコト

S 1.1.1.0 - 27

2383

18-11.1.1 3

B-0057

極秘

日獨伊同盟案ニ對スル意見

昭和十三年八月八日

判 決

本提案ハ全面的ニ採擇スルヲ適當トス

理 由 (目 次)

一、情勢ニ對スル觀察

二、帝國現在ノ立場

三、各國ノ貢フヘキ義務

附、附屬協定

四、公表カ秘密カ

理 由

一、情勢ニ對スル觀察

現在 (二、^{少クモ}三年) 歐洲各國ハ戰爭ノ勃發ヲ希望シアラス極力之ヲ避ケツツアリ各國ニ就テ細說スレハ左ノ如シ

獨逸ハ現在軍備ノ充實ニ專念シアリテ昭和十四年末頃迄ニハ概ネ之ヲ終ルモノト觀察ス爾後經濟力ノ鞏化ニ努メ十七年頃迄ニハ對蘇戰ノ準備ヲ完クスルモノト見ルヲ得

總統以下主腦部討蘇ノ意志ハ牢固タルモノアリト雖充分ノ準備ナクシテ開戦スルコトヲ避ケツツアリ

伊太利亦自ラ戰爭ヲ求メアラス

英、佛ハ共ニ茲數年間 (二、三年間) 積極的戰爭遂行ノ能力ナク數

S 1.1.1.0-27

2385

S 1.1.1.0-27

2384

B-0057

年後ニ英ノ軍備整ヒタル場合ニ於テモ其軍備ハ寧ロ防勢的使命ヲ有シ、積極外交ノ支持タリ得ルモノニモ非ス亦之ヲ以テ歐洲大陸制覇ノ役割ヲ演シ得ヘシトモ思ハレス

然レ英國ノ現在及將來ニ於ケル外交政策ヲ觀ルニ其根基ヲナスモノハ所謂「遠攻近交」ニシテ歐洲ニ於テハ平和ヲ確保シ東亞及近東ニ於テハナルヘク積極的ナラントスルモノナリ

蓋シ航空ノ發達ハ英本國ノ國防的地位ニ大ナル變革ヲ與ヘ從テ國防力ノ支持ニヨル外交力亦大ナル變化ヲ受ケタリ、即獨空軍ノ倫敦ニ與フル脅威、伊空軍ノ地中海ニ對スル制壓トハ相俟チテ英國ノ歐大陸ニ對スル睨ミヲ著シク減少セリ今ヤ英國ハ倫敦防空ニ熱狂シアリ海軍ノ充實ニモ亦拍車ヲカケアリト雖而モ此地理的不利ヲ著シク補

ヒ得ルモノニアラサルコトハ明瞭ナリ

茲ニ於テカ英國カ近隣ノ諸國ト親善ヲ策シ以テ其脚下ヲ安全ナラシメ東亞近東ノ植民地、支那等ニ於テ既得權益保持ノ爲ニ積極政策ヲトラントスルハ理ノ當然ト謂ハサルヘカラス即英國當面ノ「對手」ハ獨伊ヨリモ寧ロ日本ナリ日本ト獨伊トノ關係ヲ離隔セシムルコトハ英ノ最も希望スル所ニシテ英ノ東亞積極政策ハ此場合ニ於テ容易ニ遂行シ得ヘシ、英ノ企圖スル外交的各個擊破ハ最も警戒ヲ要スルト共ニ日獨伊ノ強固ナル結束ハ却テ英ヲ追隨セシムルノ要道タルコトニ着目セサルヘカラス

眞經濟力ヲ以テスル對日抗爭ニ至リテハ我亦相當ノ打撃ヲ覚悟セサルヘカラサルモ英國亦相當ノ損害ヲ蒙ラサルヘカラス、「エチオピ

「ア」事件ニ於ケル「イタリー」ニ對スル制裁又ハ「スペイン」ニ於ケル英國ノ態度等ニ鑑ミル時英國カ決シテ本政策ニ徹底シ得サルコトハ明瞭ニシテ殊ニ我カ支那、印度等ニ於テ報復手段ヲ講スル時ハ英ノ打撃或ハ却テ大ナリト謂ハサルヘカラス
蘇聯邦ハ目下國ヲ擧ゲテスル攻勢作戰ノ能力ナク從テ爲政者ハ戰爭ヲ希望シアラス
然レトモ現在國內ニ充滿セル反「スターリン」分子ハ現狀打開ノ爲ニ戰爭ヲ希望シアリ
三、四年後ニ於テハ概ネ蕭條、蕭條後ノ波動不安ヲ整理除去シ外征ニ堪エ得ル状態ニ至ルヘシト思惟セラル
現下歐洲ノ禍機ヲ最も多ク包含シアル「チエク」ニ對シテモ獨逸カ

其處地ニ方リ外交上重大ナル過失ヲ犯ササル限リ戰爭ノ發生ヲ見ルコトハナカヘク而モ獨逸ノ爲政者ハ本問題ニ對シテ極メテ慎重ノ態度ト用意トヲ以テ好機ノ捕捉ニ腐心シアルヲ以テ之ニ基因シテ戰爭ノ發生ヲ見ルコトハ萬一ナカルヘシト觀測ス
日獨伊三國ノ結束ニヨリテ蘇、英、佛等ノ結成ヲ促スヘシトナス論ハ認識不十分ト謂ハサルヘカラス蓋シ英ハ蘇ノ混沌タル内情外交的不信等ヲ如實ニ見アリ、之ト搦手シ之カ協力ヲ求ムルコトハ實ニ其力ヲ倍加セサルノミナラス却テ危險ヲ包藏スルモノナルコトハ有識者ノ當然ニ自覺セサルヘカラサル所トス嘗テ軍事同盟ノ鞏化マテ提唱セラレシ佛蘇ノ間カ獨ノ奧國合併、對「チエリ」積極化等ニ際シテ何等刺戟的再燃状態ヲ現出セサルノミカ事實ハ却テ冷却シツツア

ルヤニ觀察セラル
勿論一時的ニ「テモクラシー」陣營ノ興衰スルコトハアリ得ヘキモ
實質的ニ其關係カ永續スヘシトハ信スル能ハス但日獨「ソ」ノ戰フ
ニ當リ英佛カ「ソ」側ニ加擔スヘキハ前項トハ別個トシテ其可能性
多シトナス

S 1.1.1.0 - 27 2390

B-0057

ニ帝國現在ノ立場

漢口ノ攻略ヲ以テ支那事變ノ終結ヲ豫想スルノ過早ナルハ説明ヲ要セサル所ニシテ「蔣」ニ對スル英、蘇ノ支持アル限り尙蔣ハ抵抗ヲ持続スルモノト思惟セラル

而シテ英國ヲシテ其支持ヲ斷念セシムル爲ニハ帝國カ如實ニ其武力ト占領地域ニ對スル組織力トヲ示シテ英國ヲシテ日本カ東亞ニ於ケル安定勢力タルノ事實ヲ認識セシムルヲ緊要トスルハ勿論ナリト雖

日本カ孤立ニ近キ状態ニアル間ハ英國ハアラユル手段ヲ以テ日本ノ大陸政策遂行ヲ妨害シ東亞ニ於ケル制覇ヲ斷念セシムル如ク努ムルコトヲ覺悟セサルヘカラス

S 1.1.1.0 - 27 2391

日本カ英本國ト近ク存在シ重大ナル關係ヲ有スル獨伊兩國ト最モ聲面ナル提携ヲ策シ以テ外交上ニ於テ確乎不拔ノ地位ヲ築クニ於テハ英國ヲ牽制シ其積極政策ヲ放棄セシムルノ效果アルハ斷シテ疑ハサル所トス

日支事變ノ解決ヲ速カナラシムル爲帝國ノ採ルヘキ策案ハ實ニ本全盟案ヲ指テ他ニナシ

蘇聯邦ハ歐蘇ニ於テ殊ニ深キ禍根ヲ包蔵シアリ「スターリン」政權ハ蘇滿國境事件ニ關聯シテ全面的ノ戰爭勃發ヲ極力忌避スヘシト雖其對內的關係ヨリ相當強硬ナル態度ヲ示ササルヘカラス

一方國內ニ充溢セル反「スターリン」分子ハ其希望達成ノ爲ノ唯一

S 1.1.1.0 - 27 2392

B-0057

ノ機會ハ「戦争」ナリト考ヘアリ
從テ彼等ハ恐ラク其對日開戦ノ輿論ヲ高調スヘシ（目下蘇新聞ノ對
日輿論カ低調ナルハ爲政者カ此氣分ノ擡頭ヲ恐レタルモノニヨルヘ
シ）

右ノ如キ情勢ニ於テ「スターリン」カ其國民ニ對スル統制ヲ失ヒテ
戦争ニ引操ラルルコト皆無ナリト謂フ能ハス、斯ノ如キ場合ニ於テ
モ獨伊カ強ク帝國ヲ支持スルノ態度ヲ堅持シ若シ蘇カ對日參戦スル
場合ニハ獨伊亦斷乎トシテ蘇ヲ膺懲スルノ氣勢ト用意トヲ示ス場合
ニハ「スターリン」亦之ニ牽制セラレテ日蘇戦ヘノ參加ヲ極力忌避
スルノ態度ニ出ツヘシ

而シテ萬一「ス」カ全面的參戦ニ決心スル場合ニアリテハ獨、伊ノ
參戦又ハ可及的援助ニヨリテ帝國ノ戦争遂行ヲ容易ニスルコトハ斷
チ俟タス

更ニ又一面事變持久ニ陥リ此間英、蘇、佛等ノ所謂「三國干涉」ヲ
受クヘキ最悪ノ場合ヲモ帝國トシテ考慮ヲ必要トスヘク斯ル事變ヲ
未然ニ防ク唯一ノ方策ハ三國樞軸ノ鞏化ヲ指テ他ニナシ

B-0057

三、各國ノ負フヘキ義務

本條約實行ノ爲ニ附屬協定ヲ必要トスルコト勿論ニシテ「參戰」ニヨリ各國ノ負擔スヘキ義務等ニ關シテモ附屬協定ニヨリ具體的ニ決定セラルヘキモノトス而モ時々實行セラルルコトアルヘキ協商ニヨリ其參戰ノ程度方法等モ議セラルヘキモノニシテ從テ情勢ノ推移、地理的關係等ニヨリ「參戰」ニヨリ各國ノ負フヘキ義務亦種々ニ變化スルモノトス

今現況ニ於テ各國カ參戰ニヨリテ負フヘキ義務ニ就テ一、二ノ例ヲ研究スレハ左ノ如シ

(1) 日蘇開戰ノ場合

獨逸

1. 北海、東海ノ封鎖制扼

2. 東省等ヲ基地トシ歐蘇ニ對スル爆撃

3. 接壤國方面ヨリスル軍需品輸送ニ對スル可及的妨害

4. 對蘇謀略ノ實施

(情勢之ヲ許セハ地上軍隊ヲ以テ越境攻撃)

伊太利

1. 西部地中海、黒海方面ノ封鎖制扼

2. 「バルカン」方面ヨリスル歐蘇ニ對スル爆撃

3. 我對蘇謀略ニ對スル援助

(四) 英伊開戦ノ場合

日 本

1. 英國東洋艦隊ノ撃破

2. 香港「シンガポール」ノ占領

3. 印度洋以東、海洋ノ制海權確保

右ノ如ク一概ニ「参戦」トイフモ現在ニ於テハ其武力行使ノ範圍ニ自ラ制限アリ、参戦ニヨリテ生スヘキ負擔ニ就テヨク情勢ヲ熟視シ其實體ヲ究ムル時本條約カ如何ニ得ル所多クシテ負フ所少キカニ想到シ得ヘシ

又現在最モ公算多シト思考セラルル日蘇戦ノ場合ニ帝國ノ享クル便

益ハ帝國單獨作戰ニ比シ遙カニ大ナルハ明瞭ニシテ又勃發ノ公算前者ニ比シ遙カニ小ナル英伊開戦ノ場合ニ我カ負擔決シテ大ナルモノニアラサルコトモ看過ヲ許ササルコトトス

S 1.1.1.0 - 27

2398

S 1.1.1.0 - 27

2397

B-0057

四、公表カ秘密カ

本條約ハ日獨伊三國カ防共ノ堅キ絆ノ下ニ確乎不慮ノ大旗ヲ掲ケテ
進マントスルモノニシテ平和裡ニ各々其國策ヲ遂行セントスル所謂
安全保障條約ニ外ナラス、カノ往時ノ獨伊ノ三國同盟ニ比スレハ
其戰爭勃發ノ可能性ニ於テ又地理的ニ之等ノ國カ對手國ニ對シ一觸
即發ノ關係ニアリシ等ト比較シテ全ク其趣ヲ異ニスルモノト謂ハサ
ルヘカラス

故ニ正々堂々ト之ヲ天下ニ公表シ既ニ其公表ニヨル外形的效果ニヨ
リテ第三國ヲシテ畏縮シ又ハ遠慮セシムルヲ策ノ得タルモノトス
特ニ我日支事變ノ爲ニ亦現在ノ滿蘇國境事件處理ノ爲ニモ之カ公表

ハ喫緊ノ事ニ屬ス

本條約ノ公表ニヨリテ英、米、佛、蘇等ヲ刺戟スルコトアルハ若干
之ヲ免ルヘカラス、然レトモ米ニ對シテハ更ニ他ニ手段ナキニアラ
ス、英蘇カ其本質上鞏固ナル結束ヲ持繼シ得ヘカラサルハ前述ノ如
キヲ以テ之ヲ以テ敢テ公表ヲ俾ル理由トナスニ足ラス

(附)

四、五年後ニ於テ英ノ軍備充實、蘇ノ國力回復セシ曉ニハ不利ナル
態勢トナルニアラスヤト危惧スル向ナキニアラサルモ此間日、獨、
伊共其有スル外交上ノ支授ヲ有效ニ適用シテ各々國防上有利ノ態勢

ヲ築ク、即獨ハ「チエク」ノ處理「ルーマニア」波蘭等ニ對スル工
作ヲ進メテ對蘇包圍ノ陣營ヲ完成シ、伊ハ北阿經營、地中海制覇ニ
更ニ邁進シテ對英牽制ノ地歩ヲ確保ス、帝國ハ對蘇對英強硬政策ヲ
持シ得ツツ以テ支那事變後ノ經營、對蘇戰備ノ充實ニ專念ス、之等
ノ力ヲ綜合力カ英人軍備充實等ニ勝ルハ極メテ明白ナル事實ト謂ハ
サルヘカラス

S 1.1.1.0 - 27 2401

B-0057

八月二十六日五相會議決定案

前文案

共產「イニターナショナル」ニ對スル日獨伊三國間ノ協力關係ヨリ三國間ノ友好的關係ノ増進セラレタルニ鑑ミ

共產「イニターナショナル」ノ國際的活動カ益々世界平和殊ニ歐洲及亞細亞ノ諸地域ニ於ケル平和ヲ脅カスニ至レル事實ニ鑑ミ

外務省

右協定ノ精神ニ基キ前記諸地域ニ於ケル共產主義的破壊ニ

對スル防衛ヲ強固ニシ且三國ニ共通ナル利益ノ擁護ヲ確保

スル爲左ノ通協定セリ

一締約國ノ一締約國以外ノ第三國ト外交上ノ困難ヲ生

セシ場合ニ於テハ各締約國ハ孰ルベキ協同動作ニ關シ

直ニ評議ヲ行フ

外務省

B-0057

二締約國ノ一カ締約國以外ノ第三國ヨリ挑發ニヨラサル脅威ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ脅威ヲ排除スル爲地ノ締約國ハ凡ソ政治的且經濟的ノ支援ヲ行フ義務アルモノトス

三締約國ノ一カ締約國以外ノ第三國ヨリ挑發ニヨラサル攻撃ヲ受ケタル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ之ニ對シ武力援助ニ就キ直ニ協議ニ入ル

外務省

終

備考

秘密協定ニ依リ與フベキ兵力的援助ノ條件、範圍、限度及實行方法ヲ明確且詳細ニ規定スルコトヲ要ス

外務省

B-0057

極秘

昭和十三年八月廿九日發電

陸海軍次長發大島、小島兩武官宛電報寫

一笠原少將持參ノ協定案ニ對シテハ陸海軍共其ノ趣旨ニ同意ナリ

左ノ條件ヲ以テ之ヲ採擇スルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ

(前文トシテ左記要旨ヲ附加ス

(前文案略)

外務省

(四) 第二條ノ「外交的」ヲ「經濟的」ニ改ム

(三) 第三條末尾ノ「ヲ行フ義務アルモノトス」ヲ「付キ直チニ

協議ニ入ル」ニ改ム

(二) 第二條 第三條ノ脅威及攻撃ナル字句ニ「排發ニヨラサル」ヲ冠ス

(一) 本協定ニ附屬スヘキ秘密協定ニヨリ與フヘキ兵力的

外務省

B-0057

援助ノ條件範圍限度及實行方法ヲ明確且詳細
ニ規定シ度ト意見ナリ

二當方ハ本協定ヲナルヘク速ニ締結スルノ希望ヲ有スル
ニ付獨測ヨリ速ニ正式ニ提案セシムル如ク取計ハレ度

外務省

陸電二三六号

極秘

昭和十三年八月廿九日發電

陸軍次官發大島宛電報寫

陸電第二三五號ニ關スル説明

一「前文案」ハ本協定カ現存防共協定ノ延長ニシテ主トシテ
蘇聯ヲ目標トスル趣旨ヲ明確ナラシメントシタル一案ニシ
テ英米等ヲ正面ノ敵トスルカ如キ印象ヲ與ヘサル様
用語上ニ注意セルモノナリ

外務省

B-0057

ニ「本文案」第三條、武力的援助、義務ヲ即時且無條件
ナラシメス又我方ノ意ニ反シテ純然タル歐洲問題ニ捲キ込
マルル如キ危険ナカラシムル爲兵力的援助ニ入ルニ先ケ
協議ヲ行フヲ建前トシタルモノナリ
ニ本協定ハ趣旨ニ於テ防禦的性質ヲ有セシムル爲脅
威及攻撃ノ排發ニヨリサル場合ニ限ルニトセリ

外務省

四 尙案文ニ關シテハ目下更ニ銳意研究中ナリ

外務省

B-0057

B.1.0.0, J/x2-5

防共協定強化問題

B-0057

七月

一九三八年一月大島駐独大使館附武官カ「ゾンネンブルグ」ノ別墅ニ「リツベントロップ」ヲ新年ノ挨拶ニ往訪セル際「リ」ヨリ具体案ハ提示セザリシモ私見トシテ條約其ノ他何等カノ方法ニ依ル日独關係ノ強化方ヲ希望セリ大島ハ本件ヲ陸軍參謀本部ニ電報セル処同年六月頃參謀本部主任部ヨリ傳書使便ニ托シ參謀本部全ノ意見ニハ非ザルモ同主任部ノ研究試案ナリトシテ蘇聯ノ攻撃ニ対スル防禦同盟ニ關スル二種ノ案ヲ大島ニ送附シ來レリ、次ア七月「リ」外相ハ「リ」ハ同年二月外務大臣ニ就任セリ「リ」ノ夏期休暇ニ赴ク前日大島ハ政府情報交換ノ爲「リ」ヲ往訪セル際直接參謀本部主任ノ試案ニ触ルルコトナク日独ガ蘇聯ヨリ攻撃セラレタル際何等カノ行動ニ出ヅル前ニ相互ニ協議スルコトヲ約スル或ル種ノ協定ヲ締結スルコトニ關シ「リ」外相ノ意向ヲ尋ねタル處「リ」ハ考慮ヲ約シテ別レタルガ一兩日シテ「リ」ヨリ大島ノ來

外務省

日独協定強化問題

外務省

B-0057

訪ヲ求メ「リ」ノ私見ナリト前置シテ、大島ノ案ノ趣旨ニハ同
 意ナルモ、單ナル協定ニテハ中途半端ニテ「ヒットラー」ハ原則的
 ニ之ヲ好マザルヘク、從テ之ヲ相互援助トスルコト及ビ本協定ノ對
 象ヲ蘇聯ノミナラズ一般的ノモノトシテ、ハ未ダ準備成ラザ
 レニ對シテ大島ハ日本ハ蘇聯以外ノ國ニ對シテハ未ダ準備成ラザ
 ルヲ以テ、金世界ヲ目標トスル相互援助協定ニマテ對テ、擴張大スル
 コトニ關シテハ日本ノ賛成ヲ得ルコト困難ナルヘント答ヘタル也
 「リ」ハ日本ニ兵力以上ノコトヲ要求スル考ヘニハ非ザルヲ以テ
 相互援助ノ細目ハ本條約ト別個ニ協定スルコトトセバ可ナルヘキ
 モ本條約自体ハ平和維持ヲ目的トスル以上可成強力ナルヲ有利ト
 信ズル旨答ヘ之ニ關スル日本陸軍ノ意向ヲ知リ、タキ旨希冀シ且ツ
 機密保持ノ爲本件ニ關シテハ電報往復ヲ避ケ特別ニ人ヲ東京ニ派
 遣シ得ザルヤト尋ネタリ、仍テ大島ハ參謀本部ノ承認ヲ得タル上
 本件ニ關スル陸軍ノ意向ヲ知ラシメ、ガ爲七月末當時伯林滞在申ナリ

外務省

シ笠原少將ヲ飛行機ニテ帰朝セシメタリ
 之ヨリ獲日本ハ前年末ニ於ケル独逸大使ノ日支和平斡旋失敗ノ結
 果一月十六日一國民政府ヲ對手トセズ「ノ歴史の聲明ヲ發シ支那
 事變ハ新ナル段階ニ入ルコトトナリタルガ、支那事變ノ長期化並
 ニ之ニ伴フ蘇聯ノ進出ノ危險ニ對シテ外交的措置ノ一トシテ、
 年五月初旬頃ヨリ陸海外三省事務當局間ニ於テ日独伊三國ニ於ケ
 ル政治的提携ノ強化ニ關シテ夫々別個ニ研究ヲ開始シ居タリ、(其
 ノ間五月徐州會戰アリ、七月十一日張鼓峰事件勃發セリ)其ノ結
 果トシテ七月十九日ノ五相會議ニ於テ一独逸ニ對シテハ防共協定
 ノ精神ヲ補充シテ之ヲ對蘇軍事同盟ニ導キ伊太利ニ對シテハ主ト
 シテ對英事柄ニ利用シ得ル如ク秘密協定ヲ締結ス「トノ方針ヲ決
 定セリ、次テ八月十二日李道外相ヨリ外務事務當局ノ立案ニ照ル
 日独相互援助條約案要綱及英伊中立及防共條約案要綱ヲ五相會議
 ニ提出セル也、蘇聯ニ對シテハ日独伊三國ヲ一本ノ條約ヲ

外務省

七一五
五相會議

B-0057

外務省

結ぶ案ヲ考慮シ居レリトノ情報アリトシテ本件審議ヲ他日ニ譲リ
 タキ旨提議セルヲ以テ先ツ本件審議ヲ延期スルコトトセリ
 八月初メ、並原ハ東京ニ到着シ、独側提案ヲ陸軍首脳部達ニ手置外
 相ニ説明セル処、參謀本部ハ改メテ本件ヲ手置外相ニ傳ヘ、手置外
 相ハ更ニ之ヲ五相會議ニ付議セリ、右独側提案ノ要旨（有國軍已
 ハ）
 第一條 締約國ガ第三國ト外交上ノ困難ヲ生ジタル場合ニハ各締
 約國ハ孰ルヘキ範圍動作ニ関シ直ニ評議ヲ行フ
 第二條 締約國ガ第三國ヨリ脅威ヲ受ケタル場合ニハ右脅威ヲ排
 除スル爲他ノ締約國ハ凡ユル政治的且ツ外交的支援ヲ行フ義務
 ヲ有ス
 第三條 締約國ガ第三國ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニハ他ノ締約國
 ハ之ニ對シ武力援助ヲ行フ義務ヲ有ス
 ノ三ヶ條ヨリ成ル一般的日独伊防禦同盟ナリキ

外務省

五相會議開催ニ先立チ八月二十五日手置外相ハ至急右独側提案ニ
 對スル外務事務當局ノ意圖ヲ求メタルヲ以テ外務省トシテハ同日
 深更ニ至ル迄研究審議ノ結果右独側提案ニ對シテハ之ニ前文ヲ附
 シ本協定ガ防共協定ノ延長ニ過ザルコトヲ明カニスルコト及本文
 ニ関シニ、三ヶ所ノ修正ヲ應スニ於テハ適當リ軍部限リノ意見ト
 シテ独側ニ回答スルモ、蓋支ナカルベントノ結論ニ達セリ仍テ手置
 外相ハ右外務事務當局ノ意見ヲ持チテ翌八月二十六日ノ五相會議
 ニ臨ミタルガ、右五相會議ノ結果有田外相ノ手配ニ依レド
 (1) 本件独側提案ナルモノハ正式外交経路ニ依リテ帝國政府ニ達シ
 タルモノニ非ザルヲ以テ、外務大臣トシテハ之ヲ軍ナル情報
 ニ過ザルモノトシテ應キ置クコト
 (2) 本件ハ適ニ查察警備大使ヲ遣フ政府ノ正式交渉ニ應スル應ニ據
 ニ於テ措置スルコト
 (3) 本件提案ノ趣旨ニハ一定ノ條件ヲ附スルニ於テハ陸海軍トシテ

B-0057

ミ列強ニ対スル政治的脱ミヲ利カシ独ノ國際的地位ヲ強化センガ爲ノ外交的措置トシテ、單ニ蘇聯ノミナラズ英佛等ヲモ対象トスル一般的同盟條約ヲ希望セル趣八月二十六日ノ五相會議ニ於テハ未ダ交渉當初ノコトニテモアリ、詳細ノ点マテ明確ナラシムルコトナク、独側ノ一般的提案ヲ漠然ト「防共協定ノ延長」ナル解釋ノ下ニ採擇セルトコロニ曖昧ナル点ヲ殘シ、將來ノ進歩者間ニ於ケル誤解ノ種ヲ播ケルモノノ如シ、從テ其後交渉ノ進歩ニ伴ヒ事態ヲ明白ナラシムル必要ニ迫ラルルニツレ、各人夫々自己ノ立場ヨリ異レル解釈ヲ下シ然レモ八月二十六日ノ五相會議ノ決定、從テ又出先トシテハ中央政府ノ決定ナリト主張シ事態ヲ紛糾セシムルニ至レルモノナリ、有田外相ノ手記ニ依レバ右五相會議ノ決議及案文自体後ニ成リテ見レバ異ナレル解釈ヲ爲サシムル余地ノ存セル模様アリ又陸海軍次官ヨリ出先陸海軍武官ニ對シ發セラレタル電報ノ書方ニモ明確ヲ欠クモノアリタルモノノ如

外務省

ノ同意ヲ内示シ差支ヘナキモ案文ノ作成ニ當リテハ慎重研究ノ上相當ノ變更ヲ爲スヲ要スルコト
 (四)本件協定ハ他ノタテ防共協定ノ延長ニシテ右趣旨ヲ達成スヘカラザルコト
 トノ解釋ノ下ニ外ノ務省側意見ニ基キタル或ル種ノ修正ヲ加ヘ独側提案ヲ採擇セル趣ナリ右五相會議ノ決定ハ陸海軍次官ヨリ夫々出先陸海軍武官ニ對シ軍部ノ内意トシテ電報セラレタルト共ニ三十一日午五時外相ヨリ東郷大使ニ電報セラレタリ
 二
 右八月二十六日ノ五相會議ノ決定ナルモノカ爾後ノ本件交渉ノ経緯ニ於ケル陸海外三省間及中央ト出先トノ間ノ協議ノ基トナリタルモノナリ、即チ其後協議ノ中心トナリタル点ハ第一段階ニ於テハ本協定ノ対象ヲ蘇聯ニ限定スルヤ否ハ蘇聯以外ノ第三國ヲモ対象ニ含ムヤノ問題ナルガ故トシテハ當時ノ緊迫セル歐洲情勢ニ應

外務省

B-0057

シ更ニ笠原少將ヲ備朝後宇垣外相（笠原ト細成關係アリ）ニ報告
セル際岡大臣ハ独創提案ニ異議ナキカ如キ口吻ヲ洩ラシタリトモ
傳ヘラレ笠原少將ノカ職ニ兼任セル際日本政府ニ於テハ独創提案
ニ異議ナキ旨大島ニ報告セリトノコトナリ
右ニ関シ極東國際軍事裁判ニ於テ檢察側ハ左ノ如キ大島宛陸軍電
ヲ提出シ居レリ

陸軍二三三三三號

「笠原少將持參ノ協定案ニ對シテハ陸海軍共其ノ趣旨ニ同意ナリ
左ノ）條件ヲ以テ之ヲ採擇スルコトニ意見ノ一致ヲ見キ

イ、前文トシテ左記要旨ヲ附加ス
（前文案略）

ロ、第二條ノ「外交的」ヲ「經濟的」ニ改ム

ハ、第三條末尾ノ「ヲ行フ義務アルモノトス」ヲ「ニ付キ直チ
ニ協議ニ入ル」ニ改ム

外務省

ニ、第二條第三條ノ脅威及攻撃ナル字句ニ「挑発」ニヨラザル
ヲ冠ス

ホ、本協定ニ所屬スベキ秘密協定ニヨリ與フベキ兵力的援助ノ
條件範圍限定及実行方法ヲ明確且詳細ニ規定シ度キ意見ナリ

ニ、当方ハ本協定ヲナルベク速ニ締結スルノ希望ヲ有スルニ付独創
ヨリ速ニ正式ニ提案セシムル如ク取計ハレ度

（極東國際軍事裁判檢察側文書三二六九號法廷証三五二四號）

陸電二三三六號ニ關スル説明

「前文案」ハ本協定ガ現存防共協定ノ延長ニシテ主トシテ、蘇
聯ヲ目標トスル趣旨ヲ明確ナラシメントシタル一案ニシテ英米
等ヲ正面ノ敵トスルカ如キ印象ヲ與ヘザル機用語上ニ注意セル
モノナリ

「本文案」第三條ノ武力的援助ノ義務ヲ速時且無條件ナラシメ
又我方ノ意ニ反シテ純然タル歐洲問題ニ捲キ込マルル如キ危

外務省

B-0057

險ナカラシムル爲兵力的援助ニスルニ先テ協議ヲ行フヲ事前トシタルモノナリ

三、本協定ハ越旨ニ於テ防禦的性質ヲ有セシムル爲脅威及攻撃ハ概テ免ラザル場合ニ限ルコトトセリ

四、尙ホ案文ニ關シテハ目下更ニ鋭意研究中ナリ

（一）極東國際軍事裁判檢察側文書三二七一号法廷証三五一五号）又大島ノ訊問調書ニ依レバ八月二十六日五相會議決定後大島ハ陸軍ヨリ陸軍及日本政府ノ意向トシテ

（イ）締約ノ國ガ挑発ニ依ラズシテ攻撃セラレタル場合相互ニ援助ス

（ロ）但シ之ガ対象ハ蘇聯ヲ主トシ其ノ他ノ國ヲ兼トス

（ハ）前文ニ歐亞ニ通スル條約ナルコトヲ明カニシテ未ク除クコトヲ明カニス

（ニ）本件交渉経緯ヲ東郷大使ニ報告スルト共ニ成可ク速ク本件交渉ヲ正式ノ外交経路ニ復シ独ヨリ日本ニ對シ速ニ正式提案ヲ爲

外務省

サシムル機取附フコト

トノ越旨ノ電報ヲ受領シ、且ツ九月二十日頃柏林ニ兼任セル並原モ同趣旨ノコトヲ大島ニ報告セル趣ナリ

仍チ大島ハ右陸軍ノ意圖ヲ「リ」外相ニ傳ヘタル処、「リ」ハ独側トシテモ疑ノ提案ハ非公式ノモノニシテ未ダ内部ノ意見モ纏リ居ラズ、伊太利側ニモ話シ居ラザルヲ以テ、暫ク猶予ヲ希冀セリ

尙聯合軍ガ独逸ニ於テノ押收セル一九三九年四月二十六日付「リ」ツペントロツフ「リ」オット」大使宛電報ニ於テ「リ」ハ本件ニ關シ左ノ如ク述ベ居レリ

一九三八年夏大島將軍ハ当時未ダ大使館附武官ナリシガ、日本陸軍ノ考ヘニ依レバ日独伊三國ハ全般の防禦同盟ヲ締結スベキ期ニ到達セリトノ情報ヲ提供セリ

彼ハ右同盟條約ノ内容トシテ左ノ如ク述ベタリ

（1）三國ノ中ノ一國ガ政治的難局ニ陥レル場合三國ハ協議ヲ開ク事

外務省

B-0057

(2) 三脚ノ中ノ一脚カ他ヨリ脅威セラレタル場合、政治的、経済的援助ヲ與ヘルコト

(3) 三脚ノ中ノ一脚カ挑発スルコトナクシテ他脚ヨリ攻撃セラレタル場合之ニ援及支援ヲ與ヘルコト

(極東國際軍) 事裁判所法廷証五〇二号

(註) 右大島ノ申出ニ關シ極東國際軍事裁判所ニ於テ檢察側ハ八月二十六日五相會議決定前ニナサレタルモノナリト主張セルガ、右ハ弁護側ノ反駁セル如ク「リ」ノ措辭ノ不足ニ依ルモノニシテ、八月二十六日五相會議決定後陸軍ノ訓令ニ基キテナサレタルモノト認メラル

次テ同年十月八日大島武官ハ東郷大使ニ代リ駐独大使ニ任命セラレタルガ、十一月初旬「リ」外相ヨリ独獨試案(内容不明)ヲ提示シ索レルヲ以テ大島ハ直ニ之ヲ外務省ニ電報セリ

一方東京ニ於テハ八月二十六日ノ五相會議決定後外務事務當局ニ

外務省

於テ独獨ヨリ正式提案アリタル場合ニ進スル爲日本側提案ノ作成ニ取掛リ略々成案ヲ得タルヲ以テ陸軍事務當局ニ連絡シ關セザル第一回協議会ヲ開催セルガ軍部側ニ於テハ外務當局作成ノ案ハ重大ナル誤解ニ基キテ立案セラレタルモノナリト爲シ以テ外務省側ノ督促ニ拘ラズ協議会開催ニ應ゼザリキ

十月末宇垣外相ニ代リ有田外相トナレルガ、岡大臣ノ手記ニ依レバ同外相就任後關係各大臣ニ就キ八月二十六日五相會議ノ決定ニ關シ糾シタル処宇垣前外相ノ諒解セルトコトニ於テハ右五相會議ノ決定ハ防共協定ノ強化ニシテ蘇聯以外ノモノヲ対象トスルガ如キハ毛頭考ヘズ又其ノ趣旨ニ於テ内奏セリトノコトニテ近衛總理米内海軍、池田大藏ノ各大臣モ亦明白ニ蘇聯ヲ対象トスル防共ノ強化ニシテ英佛等ヲ対象トナスモノニハ非ズトノコトナリキ唯陸相ノ考ヘテ確メルコトハ其ノ時期ト方法ニ關シ慎重ヲ期シ居タリ

外務省

B-0057

然ルニ十一月二日入り大島大使ヨリ前記独創提案ヲ電報シ越セル処
十一月十一日ノ五相會議ニ於テ陸軍ハ從來ノ態度ヲ變更シ板垣陸
相ヨリ右独創提案ニ對シ速ニ日本側對策ヲ決定シテキ旨提議セリ
之ニ對シ有田外相モ同意セルカ、其ノ際有田外相ハ自分ノ大臣就
任後五相會議ニ於テ本件ヲ論議スルハ初テナルカ將來ノ誤解ヲ防
カンカ爲子メ本協定ノ性質ヲ明ニ致シ度シト述ベ自分ノ開タトコ
ロニ依レバ本協定ハ防共協定ノ強化ニシテ蘇聯ヲ對象ト爲スガ英
佛等ヲ對象トスルモノニ非ズトノコトナルカ左様諒解シテ差支無
キヤト札シタル処近衛總理、米内、池田兩大臣ハ之ヲ肯定セルモ
板垣陸相ハ自分モ其ノ通りト諒解シ居ルカ例ヘバ佛蘭西ガ赤化シ
タルカ如キ場合ニハ本協定ノ對象トナルモノナルヘント述ベタル
ヲ以テ有田外相ヲ始メ各大臣モ之ヲ了承セリ、仍テ有田外相ハ右
五相會議ノ内容ヲ独伊大使ニ電報セリ、大島ノ官署供進書ニ依レ
バ之ヨリ後前記独創提案ニ對シ外務省ハ不取敢本案ハ支那事變ノ

外務省

解決、對蘇防衛ノ強化、日本ノ外交的地位ノ改善ニ資スベキト石
三島ノ提案ナルカ目下政府ニ於テ具体的對策考究中ナルヲ以テ決
定次第電報スベントノ趣旨ノ回答ヲ發シタル趣ニシテ出先トシテ
ハ獲ノ八月二十六日五相會議決定ニ關スル報告ト併セ考ヘ日本政
府ハ原則的ニ独逸案ニ賛成ナリトノ印象ヲ得タル趣ナリ
(註)右一石三島云々ノ電報ニ關シテハ有田外相ハ其ノ事實ヲ否
定シ居ルカ、宇佐美駐独大使館參事官(一九三八年十一月
ヨリ一九四〇年五月マテ)モ極東國際軍事裁判所ノ官署供
進書ニ於テ外務省ヨリ右趣旨ノ電報ヲ受領セル旨應言シ居
レリ
然ルニ其後前述ノ如キ十一月十一日五相會議ノ内容ニ關スル電報
ヲ接受セル)ヲ以テ大島ハ電報ヲ以テ右十一月十一日五相會議決
定中英佛等ノミニテハ對象トナルモノニ非ズトノ点ハ自分ガ武官
時代陸軍ヨリ接受セル果次ノ電報ト相異スルコト大ナル機微メヲ

外務省

ルカ新ノ如キ主要國策カ僅カ二三ヶ月ニシテ變更セララルルハ全ク瞭解ニ苦シムトコロナリトノ意見ヲ申進越セリ之ニ対シ外務省ニ於テハ「本件ニ關スル國策ハ終始一環防共ニ限定セラレ居リ何等變更セラレタルニ非ズ、茲ニ訓令シタル案ニテモ英佛等ニ対シ大ナル説キヲ利カシ有効ナル政治的效果ヲ收メ得ヘシ」トノ趣旨ノ同電案ヲ起草シ之ヲ十二月初旬ノ五相會議ニ附議セルトコロ板垣陸相ハ「八月二十六日五相會議ノ決定ハ蘇聯ヲ主トスルモ蘇聯トシテ英佛ヲモ対象ト爲ス趣旨ニシテ蘇聯以外ニ対スルモノヲ除外セルモノニ非ズ十一月十一日ノ五相會議決定モ同趣旨ナリ」トノ主張ヲ固持シテ譲ラズ同日ノ五相會議ハ右意見対立ノ備何等成案ヲ得ズシテ散會セラレタリ

一方十二月ニ解朝セル笠原ハ五相會議ニ於テ柏林ノ模様ヲ報告ヤルカ之ニ依リ大島モ陸相ト同趣旨ノコトヲ独側ニ申入レ居ルコト明カトナレリ

外務省

斯クテ五相會議ハ一大難關ニ達シ開催不能ノ状態ニ陥リ政局ノ不安ヲサヘ招来スルニ至リ遂ニ独側提案ニ対スル対策ハ年内ニハ決定セラレズニ新年ニ持越サレ昭和十四年一月三日ノ近衛内閣總辭職ニ至レリ

(註) 通敵ノ事情ニ關シ水戸日記昭和十三年十二月十七日(土)ノ項ハ左ノ如ク述ヘ居レリ

「正午華族會館ニテ晝食ス、一時半頃ヨリ四時半頃迄近衛公ト政局内閣ノ進退等ニツキ協議ス、日独防共協定強化ニツイテ從來五相會議等ニテ定メタル方針ト異リ英佛ニ対シテモ軍事同盟的ノ協定ヲ爲サントスルノ意向大島駐独大使方面ニアリ、既ニ独進當局ニモ申入タルヤノ模様アリトノコトエテ大ニ憂慮セラレ是等ノ事情ヲ綜合スレバ尙一層辭職ヲ決行スルコトノ速ナルヲ要スル旨方説セラル、之ヲ取速テ時期方法等ニツキ斷ヲ爲ス。」

外務省

B-0057

此ノ間十二月ニ独備ヨリ非公式ニ三國同盟條約案文ヲ提示シ來レ
 リ其ノ要旨ハ概シテ大島ヨリ独備ニ申入レタルトコヨト同趣旨ナル
 ガ更ニ右ノ外主要ナル点ハ(1)單独不講和ヲ條文中ニ加フルコト(2)
 期限ヲ十年トスルコト(3)外務大臣會議ヲ設ケルコト(4)宣傳ノ爲メ
 委員會ヲ設ケルコト等ナリ當時外務省トシテハ右(1)(2)ノ点ニハ
 賛同シ兼シテタルガ就中外務省側カ難点トシタルハ独備カ謀議ノミ
 ナラス英佛等ヲモ本條約ノ対象ニ含マシムルコトニ解シテ右案
 文ヲ作成セリト思ハルル点ナリキ

三

伊太利ニ関シテハ一九三八年九月頃メニソ連會議ノ際独備ヨリ
 「ムツソリトニエ」ニ対シ提案論議シ、更ニ十月末一リ
 ツベシト「ムツソリ」ノ羅馬訪問ノ際伊太利ニ本協定加盟方交渉セリ
 之ニ対シ「ムツソリ」ハ趣旨ニ於テハ同意ナルモ協定締結ニ
 関シテハ未ダ時期熟セリヤ否ヤ疑問ナリトシテ考慮ヲ約シ其ノ後

外務省

何等ノ回答ナカリシヲ以テ同年末「リ」外相ハ大島大使ニ対シ大
 島ヨリ改メテ伊太利側ニ加入斡旋方希望セリ當時日本側ニハ駐伊
 大使居ラザリシヲ以テ大島ハ本件ニ関スル外務省ノ承諾ヲ得タル
 後十二月半羅馬ニ赴キ「ムツソリ」ト會議シ決定加入方意思
 セル處「ムツソリ」ハ趣旨ニ於テハ同意ナルモ伊太利トシテ
 ハ全國民カ喜ンテ之レヲ速フルノ時期ヲ選ビタキニ付暫ク待タレ
 タントヲ要ノ數個ニ対スルト同趣旨ノ回答ヲ與ヘタリ

然ルニ「チアノ」日記ニ依レバ翌一九三九年一月一日「ムツソリ
 」ニ「ハ」チアノ」ニ対シ最早西歐諸國トノ衝突不可避ナルヲ以
 テ之ニ對シ伊太利ノ國力ヲ誇示センカ爲本協定加盟ヲ決意セル旨
 ヲ語リ一月中ニモ協定ノ成立ヲ希望セリ仍テ翌二日「チアノ」
 ヲリ「リ」ツベシト「ムツソリ」ニ對シ不取敢電話ヲ以テ長ノ独備提案
 ヲ受諾スル旨回答セル處「リ」ハ大イニ喜ビ日本側ニ於テ一月
 中ニハ準備完了スベシト

外務省

B-0057

次テ一月十一日ヨリ英伊國交調整ノタメ「チエンバートン」英首相
 及「ハリワアツタス」同外相相携ヘテ伊ヲ訪問シ「ムンソリエ」
 首相及「チアノ」外相トノ間ニ英伊会谈行ハレタルカ伊側ノ氣象
 薄ノ態度ノ爲何等實質的成果ヲ收メズ伊側ハ却テ右会谈ヲ違シ英
 ノ対独恐怖感ヲ観取セルヲ以テ「チアノ」ハ益々三國同盟ノ必要
 性ヲ痛感シコノ武器ニ依リ伊太利ノ要求貫徹ニ資セント決意スル
 ニ至リタリ（「チアノ」日記、一九三〇九年一月十二日附）

外務省

B-0057

近衛ニ代リシ平沼首相ハ組閣ニ當リ有田ニ対シ本件協定ノ対象ハ之ヲ蘇聯ニ限ルヘキモノニシテ英佛等ヲ対象トスルガ如キハ遺憾ナリト思考セザル旨ヲ言明シ留任ヲ希冀セルヲ以テ有田ハ引續キ外相ニ留任セリ(陸海大臣モ留任)一方独備ハ一月初旬ニ至リ前年末非公式ニ提示セル三國同盟案ヲ正式ニ提案シ来タレリ、仍テ一月十九日五相會議ヲ開催シ前年末ヨリノ行詰リヲ打解セシガ爲有田外相ヨリ妥協案ヲ提示セリ其ノ要旨ハ前文ニ於テ本協定ハ「アジア」及ビ「ヨーロッパ」ニ於ケル共產主義的脅威ニ対スル防禦ヲ目的トスル旨ヲ明カニセル上、有田ノ記ニ依リバ

(イ)蘇聯ヲ主ナル対象トスルモ状況ニヨリ英佛等ヲモ対象トスルコトアルベシ

(ロ)武力援助ハ蘇聯ヲ対象トスル場合ハ之ヲ行フコト勿論ナルモ英佛等ヲ対象トスル場合ニハ之ヲ行フヤ否ヤ其ノ程度ハ一ニ状況

外務省

ニ依ル

(ハ)外部ニ対シテハ防共協定ノ延長ナリト説明スルコト

(ニ)前掲(ロ)ハ之ヲ秘密撤除事項トシテ協定ニ附属セシムルコト

右妥協案ニ対シ各大臣共之ニ賛成シ之ヲ採擇セリ仍テ有田外相ヨリ今回從來ノ政府ノ方針ニ變更ヲ加ヘタルハ實ニ不得巳ナル事情ニ基クモノニシテ此ノ上教訓ニ於テ如何ニ譲歩ヲ求ムルモ之レ以上變更ヲ許サザル國內事情アル次第ナルガ此辺ノ事情ヲ觀シテ出先大使ニ対シ説明撤除セシムル爲特使ヲ派遣スルコトヲ提案セルニ之レ亦各大臣ノ賛成ヲ得タリ

右ニ基キ外務省ヨリ伊藤通史公使、陸軍ヨリ原田一太佐、海軍ヨリ阿部勝雄少將ヲ派遣スルコトナレリ

仍テ有田外相ヨリ不取敢大島大使ニ対シ本件ニ関スル政府ノ方針決定セルヲ以テ右傳達ノ爲伊藤公使等ヲ派遣スル旨電報セル也

外務省

大島ヨリ政府決定ノ趣旨ノミニテモ電示アル様要請シ来レルカ、有田外相ハ秘密保持ノ必要上、又電報ニテハ充分意ヲ盡シ難キ故伊藤公使一行ノ到着ヲ待ツ様返電セリ

右一月十九日ノ五相會議決定ニ依リ、從來本件交渉経緯ニ於テ陸海外三省間並ニ中央及出先当局間ニ於テ論議セラルタル所謂對象問題ハ一應形式的ニハ解決ヲ見備約案ソノモノハ對象ヲ蘇聯ノミニ限定セザル一般の相互援助條約トナセルカ、日本側ニ於テハ新ニ秘密撤除事項^{「設ケ之依リ」}ヲ援助義務ノ内容ヲ對象國ニヨリ區別シ、蘇聯上蘇聯以外ノ國ヲ對象トスル場合ニハ武力援助ヲ行ハザルコト、第三國ニ對スル本件説明照會付テハ他他防共協定ノ延長ナリト説明スルコトトナシ、實際上本件條約ノ對象ヲ蘇聯ニ限定セントセリ、爾後ノ本件交渉経緯ニ於テ論議ノ的トナレルハ主トシテ右ノ二点ニ關スルモノナリ

五

外務省

伊藤公使一行ハ一月下旬東京ヲ出発二月下旬伯林ニ到着シ一月十九日五相會議決定ニ基テ政府ノ新ナル訓令ヲ手交スルト共ニ政府ノ意向ヲ詳細説明セリ

右訓令ニ關シ大島^ハ其ノ宣誓供述書ニ於テ伊藤公使持參ノ日本側提案ハ公表セラルベキ條約本文ニ於テハ相互援助義務ニ制限或ハ條件ヲ設ケザル一般の相互協議及援助條約ナレドモ之ニ對シ

(1) 独伊カ蘇聯以外ノ國ヨリ攻撃セラレタル場合ニハ其ノ國カ赤化セラレ居ラザル限り日本ハ武力援助ヲ行ハザルコト

(2) 日本ハ第三國ニ對シ本條約ヲ防共協定ノ延長ナリト説明スルコトノ二ツノ) 秘密撤除事項カ附屬シ居リ、之ニ關シ独伊ノ承認ヲ取付クル様訓令アリタル旨述ヘ居レリ

仍テ大島、白鳥兩大使トシテハ右政府ノ訓令ニ依レバ武力援助ヲ行フ場合ハ事實上蘇聯トノ戰爭發生ノ場合ニ限ララルコトナリ右ハ從來独伊側ニ申入レタルトコロト矛盾シ

外務省

B-0057

トロツプ「ハ尙三國協定ニ對スル日本側ノ同意ヲ確信シ居ルモ協定締結迄ハ尙二三週間ヲ要スヘント思考シ居レリ。

一九三九年三月六日

伯林ヨリノ報道ハ日本政府ガ三國協定ノ調印ニ異議ヲ申立テ居ルヲ確証ス。大島ハ詳報ヲ意圖シ居レリ。彼ハ内閣ハ必ズ崩壊スヘシト確言ス。然ラハ其ノ後ハ如何シヤムハ不明ナリ。乍然動搖常態ヲ神經過敏ニシテ且ツ時々刺々電話一本ニテ變化セラレ得ル歐洲政局ニ日本ノ如キ遠隔ナル國ヲ結ビツタル事ハ果シテ可能ナリヤ。

一九三九年三月八日

日本大使ト会谈ス。彼ハ「アソトリコ」ガ三國協定ニ關スル日本側回答ニ關シ報告セル趣ヲ確証ス。多數ノ擔保並ニ本協定ノ性格ヲ對該協定ニ限定セントノ意圖。回答ハ爾ル

外務省

伊備ハ新ル秘密政解事項ヲ受諾セザルヘシト思考シ三月四日連名ニテ調令附屬ノ條約案文中秘密政解事項ヲ削除セザル限り独伊備ハ調令之ヲ受諾セザルヘク右調令ヲ取次クコトハ何分ニモ良心ノ許サザルトコロナリトシテ政府ノ再考ヲ求メタリ

(註)

伊備特使持參ノ新調令ハ正式ニハ独伊備ニ申入レラレザリシモ独伊トシテハ右内容ヲ承知セルモノノ如ク之ニ對スル独伊就中伊太利ノ態度ニ關シ「チアノ」日記ヨリ必要ナル部分ヲ抜萃セバ左ノ通り

一九三九年三月三日

我々「ムツソリ」及「チアノ」ハ三國協定ニ關シ詳細論議ス。日本側ノ形式主義及煩雜ナル主張ハ新ナル躊躇ヲ惹起ス。一ムツソリ「ハ益々日本ヲ除外セル独トノ二國同盟ニ傾キツツアリ。日本ガ我等ト同盟セバ結局米ヲ西歐民主主義諸國ノ陣營ニ進ビヤルコトナルヘシ。」ムツソリ「ハ独伊同盟ノ促進方ヲ希冀ス。

一九三九年三月四日

彼「ムツソリ」ガ電報ニテ)会谈セル際「ムツソリ」

外務省

不満足ニシテ本協定締結ノ可能性ニ關シ幾多ノ疑惑ヲ惹起
 ス。大島並ニ白鳥ハ正式ノ傳達方ヲ拒絕ス。彼等ハ東京ニ
 對シ同盟條約ノ無條件採擇ヲ要求シ然ラザル場合ニハ辭職
 シテ内閣ノ崩壊ヲ招來セント意圖シ居レリ。決定ハ數日中
 ニ行ハルベシ。白鳥ノ意見ニ依レバ万一右決定ガ有利ニ行
 ハルレバ本協定ハ三月伯林ニ於テ調印セラルヘク然ラザレ
 バ本協定調印ハ無期延期トナルベシ。日本ノ購置速達並ニ
 其ノ全般の態度ハ余ヲシテ果シテ之ノ怯懦遲鈍ナル日本
 人ト一ダイナミック「ナル」フアシスト」及「ナチス」党
 員トガ實際ニ協力シ得ルヤヲ疑ハシム。

外務省

B-0057

伊藤使持参ノ訓令説明中ニ從來本件交渉中独伊ヲシテ日本
 ノ立場ヲ誤解セシメタル経緯アルヲ以テ日本トシテハ不得巳当初
 ノ立場ヨリ譲歩セリ云々トノ趣旨ノ語句アリタルヲ以テ大島ヨリ
 有田外相ニ対シ其ノ責任ノ所在ヲ明カナラシムル様電報セルニ三
 月末有田外相ヨリ特ニ何人ニモ責任ナシトノ四電アリタル趣ナリ
 新訓令ニ対スル大島、白鳥兩大使ノ意見具進ニ対シ有田外相ハ特
 使携行ノ新訓令ハ最早ヤ改變ノ余地無ク右案ニテモ独伊間ヲシテ
 受諾セシムル可能性アリト思考セルヲ以テ是非トモ右訓令ヲ執行
 スル様要請スル電報案ヲ携ヘ三月十三日ノ五相会議ニ臨ミタルカ
 陸海兩大臣ハ大島、白鳥兩大使ノ申出モアルコトナレバ既定方針

外務省

ハ輕クシテ變更スルヲ得ザルモ先方ノ希冀ニモ副フ様何等技術的
 變更ヲ加フル余地無キコトモ非ザルヘシトテ妥協案作成ヲ主張シ
 ナバマス結極平沼總理ヨリ關係各大臣ニ於テ今一應妥協案ヲ考ヘ
 次相會議ニ之ヲ持寄り研究スルコトトスヘシト提言シテ一先散會
 セリ其ノ後陸海外事務當局ニ於テ種々折衝ヲ重ネタルカ陸軍側ハ
 兩大使ノ意見ヲ丸呑ミニシテ秘密撤除事項全額削除スヘシトノ意
 見ナリシモノク如ク海軍側ハ秘密撤除事項第一(英佛等ヲ対象ト
 スル場合ノ武力援助ノ撤除)ハ之ヲ削除シ右目的ハ後日編目協定
 決定ノ際ニ之レガ達成ヲ計ルコトトシ又秘密撤除事項第二(対外
 的ニハ防共協定ノ延長ナリト説明スルコト)ハ之ヲ緩和シ日本ニ
 於テハ「コマンチアル」ヲ対象トスル如ク説明スルモ独伊ニハ各
 自國ニ都合良ク説明セントスルノ自由ヲ與ヘントスル妥協案ヲ考
 慮シ居タルモノノ如ク三月二十二日五相會議ヲ開催シ午時八
 時ヨリ翌朝午時迄討論セル結果「先般ノ訓令ヲ執行シテ

外務省

B-0057

多
ト
シ
テ

伊カ之ニ納得セザリシ場合」ニ於テ提出スル妥協案トシテ秘密解
 解事項ニ関シ左ノ如キ案ヲ採擇シ之ヲ西大使ニ電訓セリ

(1) 秘密解解事項第一ニ関シテハ独伊カ蘇聯以外ノ國ヨリ攻撃セラ
 レタル場合ニモ武力援助ノ義務ハ認ムルモ右義務ハ現在及近キ
 將來ニ於テハ有数ニ実施シ得ザルコトヲ明カニスルコト(陸軍
 案)

(2) 秘密解解事項第二ニ関シテハ「條約ハ條約文通リナルモ現代ノ
 世界情勢ニ於テ帝國ニ實際脅威ヲ與ヘツツアルモノハ共產一イ
 ンターナショナル」ノ破壞工作ナルヲ以テ帝國ニ關スル限り右
 以外ハ協定ノ対象トシテ念頭ニ置キ居ラズ」ト改メルコト(海
 軍案)

有田手記ニ依レバ大島白鳥兩大使ハ三月二十二日五相會議ノ妥協
 案)ニ基テ右訓令ヲ以テ政府ガ特使携行ノ方針ニ根本的變更ヲ加
 ヘタルモノトシ更何ハ措キテモ條約ノ成立ヲ絕對必要トシ之ガ爲

外務省

ニハ難キヲ忍ビ種々讓歩ヲモ許セザルノ趣旨ナリト解シ折衝ノ順
 序及方法ハ出先ニ一任アリタシト電請シ当初ハ独伊ニ對シ秘密解
 解事項ノ存在ヲ明示スルコトヲ交渉セル処四月三日「チアノ」
 ハ「本條約ヲ作ルニ當リ日本政府ニ於テ心理留保ヲ有セラルルヤ
 即チ万一歐洲ニ戰爭勃發ノ場合日本ハ独伊ノ側ニ立チテ戰爭ニ參
 加スルノ決意アリヤ」ト質問セルヲ以テ白鳥ハ「独伊カ英佛ト戰
 争スル場合日本ハ此條約ノ條項ニ基キテ独伊側ニ立チテ戰爭ニ參
 加スルコト勿論ナリ」ト言明シ又大島ハ同日「外相ガ一日
 本案ニ依レバ独伊カ蘇聯以外ノ國ヨリ攻撃セラレタル場合ニ於テ
 モ日本ハ原則的ニハ參戰ノ義務ヲ負フモノト諒解支無キヤ」ト
 質問セルニ對シ「兵力援助ノ範圍方法ハ場合ニ依リ異ルモ參戰ノ
 義務ニ關シテハ實見ノ通りナリ」ト言明セリ其ノ後独伊ハ秘密解
 解事項ノ存在ヲ知ルニ及ビ右秘密解解事項ヲ除ク爾余ノ日本側提
 案ヲ受諾スルト共ニ秘密解解事項ニ關シテハ元々日本ヨリ能力以

外務省

B-0057

上ノコトヲ要求スル意志ニハ非ザルヲ以テ締約國ノ責ヲヘキ義務
ノ範圍ハ秘密附屬議定書中ニ規定アル締結後ニ行ハルベキ締約國
間ノ協議ニ讓ルコトトセハ可ナルヘントノ意向ヲ以テ之ガ消除ヲ
要求セリ茲ニ於テ大島、白鳥兩大使ハ独伊側ノ所ノ如キ態度ニ盡
ミ秘密解除事項ヲ「ドロツプ」シ直ニ條約ノ成立ヲ計ルベキナリ
ト進言シ越セリ

外務省トシテハ秘密解除事項ナシノ條約成立ハ政府ノ方針ニ反ス
ルモノニシテ到底容認シ難シト爲スト同時ニ大島、白鳥兩大使ノ
独伊側ニ對スル參戰云々ノ言明ハ明ラカニ政府訓令ノ範圍ヲ逸脱
スルモノナリト爲シ此点ヲ是正スル後兩大使ニ訓令方主理セルカ
陸軍側)ハ右ハ兩大使ヲシテ徒ニ憤激セシムルノミナラズ假令右
言明カ言過ナリトスルモ一旦帝國ヲ代表スル大使トシテ言明セル
以上何トカ之カ尻拭ヲセザル可カラズト主張シ海軍側モ大體之ヲ
支持シ結局四月八日ノ五相會議ニ於テ種々論議ノ結果意向ハ日本

外務省

ノ參戰ノ義務ヲ否定セザルモ日本トシテハ參戰ノ意義ヲ極メテ廣
義ニ解シ兩大使ノ言明ヲ間接ニ取消ス趣旨ノ回電案(陸軍案)ヲ
採擇シ之ヲ發電セリ右訓令ハ

一帝國ノ重キヲ置ク地ハ秘密解除事項ニ揭ゲタル二点ニキテ殊ニ
武力援助ニ付テハ蘇聯ヲ相手トスル場合相互ニ全幅的援助ヲ爲ス
コトハ勿論ナルモ其ノ他ノ第三國ヲ對象トスル場合ニ於テハ條約
文ノ趣旨ハ武力援助ヲ行フヲ原則トスルモ帝國諸般ノ情勢ヨリ見
テ現在及近キ將來有效ニ之ヲ実施スルコトヲ得ズ(独伊側ガ希望
ヲ表明セル東洋ニ於ケル英佛ノ兵力ノ処分ノ如キ現在及近キ將來
之ヲ実行シ得ザル事情ナリ)ハコトニ點ニ關シ独伊側ニ誤解ヲ抱カシ
メ後日我方カ兩國ヲ欺キタルカ如キ結果トナルコトヲ未然ニ避ケ
ントスルモノナレバ是非右ノ點ヲ先方ニ徹底セシメ之ヲ何等カノ
文書トシ置カントスルニアリ然レドモ兩大使ニ於テ參戰云々ヲ言
明スル以上其ノ重要ニ付誤解ナカラシメ置クコト必要ナリ故テハ

外務省

帝國ハ参戦トハ協定第三條ノ「支持」及第三條ノ「助力及援助」ヲナスコトヲ意味シ且ツ第三條ノ「助力及援助」ノ内武力援助ニ関シテハ現在及近キ將來ニ於テハ有效ニ之ヲ実施スル能ハザル程度ノモノト解シ居ルコト（而シテ將來戰爭發生ノ形勢ヲ併セ考フルトキハ宣戦ヲ布告スル場合モアリ又當時ノ情況ニ應ズル如キ宣言乃至聲明ヲ行フニ止ムルヲ可トスル場合モアリ又何種ノ意圖表示ヲ行ハズ事實上援助ヲ與フルコトモアリ得ヘシ）ヲ先方ニ對シ明カナラシメ置クヘシ」トノ趣旨ナリキ

一註
 原田日記ヨリ右ニ關聯セル部分ヲ引用セバ左ノ通り
 ソレカラ十一日ノ夕刊ヲ見ルト、陸軍大臣カ二時頃カラ三時半頃マテ参内シテ居ルト云ウコトデアツタノデ、自分ハ一寸氣ニナツタカラ、十二日ノ朝早ク松平内大臣秘書官長ヲソノ

外務省

原田日記ヨリ右ニ關聯セル部分ヲ引用セバ左ノ通り
 ソレカラ十一日ノ夕刊ヲ見ルト、陸軍大臣カ二時頃カラ三時半頃マテ参内シテ居ルト云ウコトデアツタノデ、自分ハ一寸氣ニナツタカラ、十二日ノ朝早ク松平内大臣秘書官長ヲソノ

外務省

B-0057

外務省

自分カ此問題ニ就テ面白クナイト思召テ御出デニナル所ヲ、
陸軍大臣ニ導キトオ断シニナツタ。元來、出先ノ兩大使カ何
等自分ト關係ナク參戰ノ意ヲ表シタゴトハ、大元帥ノ権限ヲ
犯シタモノデハナイカ。斯ノ如キ場合ニハ恰モコレヲ支持ス
ルカノ如キ態度ヲ執ルコトハ甚ダ面白クナイ。又閣議無ニ違
脱セルコトヲ云フカ如キモ甚ダ面白クナイ。ト云フヤウナ意
味ノ御言葉ガアツタノデ、陸軍大臣ハ頗ル恐懼シテ退出シ、
武官長ノ室ニ行ツテ、「一体誰ガ委曲ヲ凡テ申上ゲタロウカ」
ト云ツテ憤慨シテ居ツタ云々

(極東國際軍事裁判檢察側文書三一五〇一)
三二一ノA、法廷証三七九八ノB

外務省

ト協議ノ結果、意見ガ一致イタシマシキ上ハ、既ニ事柄ハ済
ンデ居ルノデゴザイマスカラ、專新シク彼是オ叱言ノアルコ
トハ、却ツテ刺戟ヲシテヨクナイト存ジマスカラ、此際ハ腰
鼓峯ノ場合トモ益ク異ツテ居ルノデアリマスカラ、陸軍大臣
ヲ特ニ御召ニナツテオ叱言ヲ賜ルヤウナコトハ、オヤメニ
ナツタ方ガヨロシイト存ジマス。ト云ツテ、内大臣ノ氣持デ
ハ、兎ニ角結局ニ於テ事柄ハ纏ツタ次第ダカラ、マア、ソノ
儘エシテオ置キエナツタ方ガ好イト云フヤウナ意味ヲ申上ゲ
タ処ガ陛下ハ

「ソレナラソウシヨウ」

ト云フノデ、陸軍大臣ヲ特ニオ召シニナルコトハ思ヒ止マラ
レタ。

然ルニ偶然ニモ他ノ用件テ同日陸軍大臣ハ參内シテ事柄ヲ屬
ツタ。テ陛下ハオ叱言ト云フ意味デハナイケレドモ、平素御

B-0057

大島、宇佐美氏ノ直轄供通書ニ依レハ右訓令ハ參戰ノ意欲ヲ顯
 ノテ廣義ニ解シ、情報供通武部供給基地貸與等普通ノ觀念ニ於テ
 ハ到底參戰ト稱シ難キ場合ヲモ含メテ之ヲ參戰ト稱シ、之ニ關シ
 独斷ノ承認ヲ取付ケル豫命令シ來レルヲ以テ出先トシテハ強硬ヲ
 シテ納得セシムルニ極メテ困難ヲ感ジタル趣ナリ、其ノ結果有田
 平記ニ依レハ大島白鳥尙大使ハ「今ヤ本交渉ハ最後ノ段階ニ達シ
 協定ノ締結ヲ斷念スルカ又ハ我方ノ留保事項ヲ撤回スルカノ裁斷
 ヲ爲スヘキ時期ニ到達セリ」ト強言シ置ケリ
 仍テ有田外相ハ四月十四日ノ五條會議ニ於テ田中伊備ニシテ我方ノ
 案ニ應ゼザルニ於テハ不本意ヲ本件交渉ヲ打切ルモ亦不憚已旨
 提案セルカ陸軍大臣ハ強硬ニ之ニ反對シ何等カノ妥協案ノ結果ヲ
 希冀セリ

一社(原田日記ヨリ當時ノ情勢ニ關スル部分ヲ掲載ス)

外

其レカラ二十日ノ朝本戸ノ建ヲ行ツテ其後ノ様子ヲ聞ケト、本
 戸ハ前日總務ニ會ツテイロイロ話ヲシテ結果、總理自身カ恰度
 陸軍ト内大臣取ハ陛下トノ間ニ入ツテ、軍ハサマニツテ陣ム
 ヤウナ形ニツテ陣ムノヲ、總理ハ元來陸軍ノ云イ分ヲ是ナリ
 ト考ヘナリルヤウナ風カアルノヲ、例トカシテ陸軍カ今日漸策
 シテ陣ムヤウナ方向ニ落付ケキイ、ソレニハ内大臣アタリカキ
 ウ少シ自分健ト氣持ヲオンナジニシテ實ヒキイ、陣ツテ陛下キ
 其辺ニ強硬ヲ持ツテ敵キキイ、ト云フノカ總理ノ氣持キ、ソレ
 ニ一ツ自分(本戸)ニ關ニ入ツテ例トカシテ實ヒキイト云フノ
 カ主眼キアツタキ、ソレニ対スル本戸ノ態度ハ自分カキ考ヘ
 ルト如何ニモ不可解キアツタキ本戸ノ語ニ依ルト、元來防共協定
 ハ、本文ハ既ニ強硬可ニオツテ陣ムニモ向ラス、秘密協定ノ條
 分、即チ日本ハ此ノ協定ノ本質ハ「コミンテルン」ノ運動ニ對
 シテ、即チ「ソヴイエツト」ニ對シテノイテ目的トシテ陣ム

外務省

B-0057

ト云フ附屬ノ秘密協定ヲ廢止ハトシテシマヒキヤイ。ソレニ對シテ歐下ハドウシテモ調停カ出ナイ。テ、陸軍ハソレヲツテ本文ノ運用テ、結局俄伊カ方一先勝及ビソノ他ト取テ適合ニ日本カ卷込マレナイヤウニスレハ好イ、殊ニ、日本ハ陸軍トモ一殊ニ陸軍ハ自ラソノ満中ニ入ルコトハ絕對ニ避ケタイ、ト云ツテ爾ルノテアルカラ、秘密協定ノ部分ハトシテモ大丈夫ジヤアナイカ、ト云フノカ能シヤ何カノ考ヘテアル。

陸軍部陸軍事務局長陸軍省文書三一五〇
三二三号ノA法廷陸三七九九号ノA

茲ニ於テ有田外相ハ四月二十一日ノ五相會議ニ於テ「事實ニ照レハ救護ノ手段トシテ平沼陸軍ヨリ「セントラー」總統「ムソソリ」ニ「首相ニ直接電報ヲ送ル日本領ノ考ヘ方ヲ卒直ニ且詳細ニ述ブルト共ニ遺憾ナラ之以上妥協ノ余地無キ事情ヲ附言シテ爾等ノ政治的考慮ヲ便シ自分カラ「セントラー」大使ニ詳細説明ヲ行

外務省

ノ反響ヲ見ルヨリ外無カレヘシ」ト提言ナリニ本件交渉ニ關シテハ渡邊ヲ避ケル爲伯林、羅馬ニ於ケル交渉以外東京ニ於テハ敵「トメント」大使トハ接觸ヲ避ケ得ナリ」

(註)右ノ提案ノ概要ニ關シ有田外相ハ其ノ手記ニ於テ左ノ如ク述ベ居レリ

抑モ大島ハ武官時代カテ歐伊兩國トハ本國軍ニマイナハ技を差シテラニ關係ニアツタト想像サレタリ。ト云フカス元來三國同盟主義者ヲアルシ由島大使ハ歐伊例レノ國トモ別ニ國軍ハマイナハ技カツカカ矢張り三國同盟論者ヲアツタノヲ本國政府ノ意圖ヲ察シ同照新給ノ方ニ政府ヲ引キスヨコト云フ考ヘテアツタコトハ明テアツタ。

加之爾大使トモ當時軍部ニ陸軍ノ意圖カ三國同盟ニ熱心ナラフタノヲ陸軍ト相呼應シテ先引キテ政府ヲ引キスヨコト云フ考ヘテ政府ノ情ヲ押スト云フコトヲ本國領ノ無難ヲ許フタコト云フ

外務省

B-0057

略明 歐アアソタ、從テテ武力援助ヲ與フルコトヲ斷絶スル事
 由テ留保ヲ必要トシテ事情等ニツイテハ政府カ如何ニ命令シ
 ヤウト充分ニコレテ被檢査ニ傳フルコトヲ敢テシテカソト想
 像サレタノアア、如此狀況ヲハ政府カ如何ニ被檢査ノ政府ヲ東
 メヤウトシテモ被檢査ニ於テ斷解スル事無イノアア、能クテ
 政府ノ意圖ヲ相手ニ充分傳ヘルコトノ出来ナイヤウナ交渉ヲハ
 之レヲ更迭スルヨリ外ハ無イ訳デアルカ、當時ノ國內事情ハ之レ
 フ更迭スルルツ許サナカソタカラ自分ハ新ハ交渉者ノ頭ノ上ヲ
 飛ビ越ヘテ被檢査カラ被檢査へ直接呼ビ掛ケテ見ルヨリ仕方無イ
 ト考ヘテ展キノデアル

右外相ノ提案ニ對シ、當日ハ總理ヲ始メ、陸海軍各大臣モ賛成ヲ表セ
 ルカ二十三日ノ五相會議ニ於テハ、總理モ之ニ余リ賛成ヲ示メ、外
 務大臣亦今一週大島大使ヲシテ努力セシメ、カントナ前河ノ開會
 フ撤回ハ結局從來ノ訓令ト同趣旨ノ實現ヲ兩大使ニ務出スルコト

外務省

トナレリ

右兩電ニ對シ、兩大使ハ主要論議ノ進行ニ關シ、離談ヲ求ムルコト
 ヲ理由トシテ召遣ヲ要求スルニ至リ、陸軍部ニ於テハ再び秘密撤
 解事項ノ全面的解除ヲ主張セリ、仍テ四月二十五日二十七日二十八
 日トノ連日シテ五相會議ヲ開催シ、秘密撤解事項ノ全面的解除ノ開
 題ヲ論議セルカ、遂ニ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラザリキ

(註) 原田日記ヨリ、當時ノ情勢ニ關シ、部分ヲ引用セバ左ノ通り
 ソレカラ二十五日ニ五相會議カアツテ後、有田ノ話上一兩大使
 カラ、是ノ非召遣シナク、ト云フ要求カアツケソレニ對イテ
 前後処置ノ困難ヲ開イタ。尙ホ此ノ問題ハ、總理カ東京駐留ノ
 独伊兩大使ヲ通ジテ直接「ヒントラー」、「ムソソリーニ」ニ
 云ツテヤルコトニシテ、「ヘルリン」、「ローマ」駐留ノ日本
 ノ大使バ使ハナイコトニシテ、「ト云フコトデアツタ。

ソノ晩ニ興津ニ行ツテ、二十六日ノ朝山本次官ニ電話ヲカケル

外務省

B-0057

ト、山本大官ハ一見ニ角手ヲ懸シテ後、何レナリトモ地方ハ宜シイ、ト云フ態度ニ出ルコトカ必要ナリト云フナリト云フ、海軍大臣モ同様ナリテアツキ、ソレヲ手ヲ懸ス手段トシテハ、先期モ一寸云フキヤウニ、有田外務大臣ノ斷ニ依ルト一懸置及ビ外務大臣ハ東京艦隊ノ強引ノ大使ヲ遣シテ、懸置ハ艦隊的「ヒットラー」、一ムソソリーニ一呼ビカケ、外務大臣ハ兩端ノ外務大臣ト向フナ各論的ニ此ノ問題ヲ出ス、コウシテ最後マテ成立ニ努力ヲスルカ、若シ先方カソレヲモ日本ノ要求スル點ト懸置カアル場合ニハ、此ノ問題ヲ打切ル、不成立ニナツナセバムツキイ、ト云フコトニ五相會議ヲ決ツタ」ト云フコトデアツキ。

（編纂部豫軍事裁判檢察文書三一五〇一）
三二三ノA 後延証三八〇号ノA

ヨノ閣平沼總理ハ再ビ「ヒットラー」「ムソソリーニ」宛聲明ヲ

外務省

考慮シ始メタルカ、右四月二十八日ノ五相會議ニ於テ平沼總理ヨリ改メテ總理ノ「ヒットラー」「ムソソリーニ」宛聲明書案ヲ提示セリ。但シ右ハ政府ノ決心ヲ傳ヘ以テ從來ノ兩大使ノ交渉ヲ支授セントスルモノニシテ且「日本ハ中立ノ態度ヲ執ラズ」ト明記シアリタルヲ以テ右聲明ニ對シ外務大臣及海軍大臣ハ強硬ニ反對シ其ノ後約一週間、右問題ヲ中心トシテ關係軍大臣及其ノ他ノ關係間ニ種々ノ折衝行ハレタル結果五月五日（有田手記）ノ會議ニ於テ在京數伊大使ヲ通ジ左ノ如キ平沼總理ノ「ヒットラー」「ムソソリーニ」宛聲明ヲ傳達スルコトナレリ

（註）「右平沼總理ノ電報案ニ」關シ有田大臣ハ其ノ著書一人ノ目ノ廣ヲ見ル」ニ於テ左ノ如ク述ベ居レリ

「コレハ後ニ知ツタコトデアアルカ、總理ハ此ノ電報案ヲ陸軍省ヲ通ジテ予メ出先大使ニ内示シテアツタソウダ、然ルニ其ノ案カ五相會議ニ出ルト、上記ノヤウニ日本ハ中立ノ態度ヲ

外務省

執ラズ」トイフ部分ヲ削除サレシマツタノヲ、出先アハ當時一方ナラズ總理ニ不満ノ意ヲ表シタトノコトヲ。」(二二頁)

(声明書)

「ヒントラー」宰相閣下カ組織再建ノ大業並ニ正義ニ基ク國際平和樹立ノ爲努力セラレ居ル高キ英智ト鉄ノ如キ意志ニ對シ余ハ深甚ナル羨嘆ノ念ヲ抱クモノナリ

余モ亦帝國總理大臣トシテ同ジク平和ノ確立及道義ニ基ク東亞新秩序ノ建設ニ邁進シ居ルモノナリ

此ノ輝カシキ秋ニ當リ兩國間ニ存スル防共協定カ兩國ニ課セラレタル使命遂行ニ如何ニ有教ナルカヲ確信スルコトハ余ノ善トスルトコロナリ而シテ今日余カ防共協定ヲ強化シ且日独伊三國間ノ提携ヲヨリ緊密ナラシメンガ爲協定ヲ締結セントスルハ唯ニ打算の考慮ヨリ出ザルモノニ非ズ之ニ依リ兩國ノ共同使命ヲ認識シ道義ニ基ク世界平和ノ強化ニ貢獻セントノ希冀ニ基ク

外務省

モノナリ日独關係ノ強化ニ關シ余ハ假令独伊ノ一カ蘇聯ノ参加ナラズ又ハ數國ヨリ攻撃セラレタル場合ニ於テモ日本ハ独伊ノ側ニ立テ政治的經濟的並ニ可能ナル範圍ニ於テ軍事助の援助ヲ與フル確固タル決意ヲ有スルコトヲ確言ス然レバ日本ハ右協定ノ規定ニ從ヒ独伊ニ對シ軍事助の援助ヲ與フル用意ヲ有スト雖モ、帝國ノ現状ニ鑑ミ現在及近キ將來ニ於テ實際上独伊ニ有效ナル軍事助の援助ヲ與フルコト能ハズ情勢ノ變化ニ依リ之カ可能トナルニ於テハ喜ンテ右援助ヲ與フヘキコト論ヲ俟タズ余ハ上述ノ点ニ關シ独伊ノ明確ナル承認ヲ得ンコトヲ特ニ希冀ス更ニ帝國ノ直面セル國際情勢ノ爲日本ハ本協定發表ノ際行フヘキ説明振ニ關シ慎重ナル注意ヲ拂ハザルヲ得ズ之ノ点ニ關シテモ亦独伊ノ明白ナル同意ヲ得ハ幸ナリ

尙本協定ハ相互ノ信頼ニ基クモノニシテ聯カニテモ帝國ノ誠意ヲ疑フニ於テハ協定ノ真ノ基礎ヲ破壞シ協定ノ遂行ヲ不可能ナ

外務省

B-0057

ラシムルニ至ルヘキコトヲ附言ス
以上述ヘタルトコロハ道義的考慮ヨリ出テタルモノニシテ打算
的考慮ニ依リ左右セラルルモノニ非ズ余カ其ノ考ヘテ極メテ卒
直ニ破^抜断^打セシムルハ専ラ我々ノ努力ヲ満足スヘキ結論ニ導カントノ
眞等ナル希望ニ基クモノナリ

一九三九年五月四日

(極東國際軍事裁判所檢察側文書四〇四三号ノ
B及D附テ法廷証第五〇三号英文ヨリノ譯訳)

右声明書ノ到達セル当時「リッペントロップ」ハ「チアノ」トノ
「コモ」會談ニ出席ノ途次兩独「ヒットラー」總統ノ許ニアリキ
ル方直)ニ電報ヲ以テ大島ニ對シ日本ノ態度ニ關シ明瞭ヲ欠ク点
アルヲ理由トシテ右声明書ニ對スル不滿ノ意ヲ表スルト共ニ、独
ガ第三國ト戰爭狀態ニ入りタル場合日本ハ假令何等武力援助ヲ與
ヘズトスルモ、直ニ共ニ交戰狀態ニ入りタルモノト看做シテ可ナ

外務省

リヤト念ヲ押セルヲ以テ大島ハ之ヲ肯定セル趣ナリ

(註)交戰狀態云々ニ關スル大島ノ返答ニ關シ原田日記ハ左ノ如
ク述ヘ居レリ

サウスルト、全然コノ態度ノ「メツセージ」トモ關係ナク、
大島大使カラ公電カアツテ、二三日前一リッペントロップ」
外務大臣ガ「コモ」ニ居ル「チアノ」ニ會ヒニ行ク途中、「
メニエンヘン」カラ「ヘルリン」ノ大島大使ニ電報ヲカケテ來
テ、締結論ガ第三國ト交戰狀態ニ入ツキ場合ニ、ソレト同時
ニ日本ハ何等ノ武力援助ナクモ、強伊モ日本ノ武力援助ヲ
期待シテ居ナイ、又專ラ日本ハ武力援助ハ出來ナイ、ト云フ
ノハ益ク大島ニ直ニ共ニ交戰狀態ニ入ツキト見テ好イカ、
ト云フ大島ニ對スル質問アツタ。

其地テ大島大使ハ斷座ニ「然リ」ト答ヘタト云フ電報アツ
タ。

外務省

B-0057

臣ノ主張ヲ支持シテ、日本ハ何處マデモ今ノ大島カ「リッペン」トロツプ」ノ質問ニ答ヘヤウニ、締結國カ第三國ト交戦状態ニ入ツタ場合ニハ假令武力援助ヲシナクテモ、日本ハ交戦状態ニ入ツタモノト見ナヨイ、ト云フ主張ニ賛意ヲ表シテ居ル。

(編纂閣議軍事裁判檢察側文書三一五〇
号一三三四号法廷証三八〇一号ノ〇)

「チアノ」モ其ノ日記ニ於テ右声明書ヲ極メテ薄弱ナリト評シ不満ノ意ヲ表セリ

前述ノ如ク伊側ハ年初當時三國協定ニ積極的熱意ヲ示シ速カナル成立ヲ希望セルガ、其後日本側ノ消極的態度ヲ知ルニ及ビ次第ニ本件交渉ニ対スル熱意ヲ失ヒ寧ロ独伊兩國ノミノ提携強化ニ努力セリ(三月十日「リッペン」トロツプ」ハ予テ伊側ノ提案セル独伊兩國參謀本部間ノ聯絡樹立ニ関スル件ヲ承認セリ)

外務省

テ、有田ハソレニ就テ、前ニ「参戦」ト云フコトヲ出先ダケテ、独断ヲ申入レ、又再ビ茲ニ独断ヲ斯ノ如キコトヲ答ヘタト云フコトハ甚)ダ怪シカラシ、兎ニ角明日ノ午五相會議ヲ開クコトモナツテ居ルケレドモ、ドウモ平沼首相ノ考ヘガ中立ヲナク、何處マデモ支援スル態度ヲ執リタイ、ト云フ氣持ヲアルノデ、余極此ノ問題ハ面倒ダ、實ニ困ツタモシカモウ既ニ斯ノ如キコトヲ陸軍カラ向フニ云ツテヤツテイルニ違ヒナイノデ斯ノ如キテハ全ク外交ノ責任ハ執レオイ、困ツタモノダ」ト云フ有田外相ノ話ヲアツタ。

ソレカラ自分ハ無ツテ電話ヲ一應内大臣ニモシ、七日ハ自分ハ松平ト夕刻カラ横浜ニ食事ニ行ツテ居ルヲ幸甚度電報カカカツテ、外務大臣ガ「成ルヘク早ク會ヒタイカラ、來テクレ」ト云フノデ、夜九時頃カラ松平ト二人テ外務大臣ノ處ニ行ツテ五相會議ノ結果ヲイロイロ聞クト、ヤツバリ總理ハ陸軍大

外務省

B-0057

ナシキル

新ル情勢ノ下ニ五月五日前述ノ如キ平沼声明ニ接セルヲ以テ伊側ハ之ヲ極メテ薄弱ナリトシ六日ヨリ予定ノ如ク「リッペンントロツプ」ト「コモ」會議ヲ行ヒタル結果七日夕独伊軍事同盟ノ締結ヲ公表セリ

右独伊協定ハ五月二十二日正式ニ署名調印セラレタルカ之ヨリ「リ」外相ハ右独伊軍事同盟締結ト本三國協定トノ關係ニ關シ大島大使ニ対シ大要左ノ如ク語リタル趣ナリ（一九三九年五月十五日「リッペンントロツプ」第一號「オット」大使宛電報）

独伊兩國ハ西歐諸國ニ依リ宣傳ノ目的ノ爲展開セラレタル政治的活動ニ迅速ニ對抗センガ爲近ク軍事同盟締結ニ決定セルカ右ハ兩國ノ日本ニ対スル從來ノ政治的提携並ニ日独伊三國協定交渉ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非ズ独伊軍事同盟ト三國協定ノ平行的存在ハ實質的及技術的観点ヨリシテモ何等ノ困難ヲ伴フモノニ非ズ独伊軍事同盟ハ現在ノ三國協定ノ草案ヨリヨリ密接ナル關係

外務省

82

一方独軍ハ三月十五日「チエツコスロバキヤ」ニ進駐シ四月六日伊軍亦「アルバニア」進駐ヲ開始シ、歐洲情勢ハトモニ緊迫シ東レルヲ以テ独伊トシテハ速カニ強力ナル外交的措置ヲトルヲ要スルニ至レリ

（註）「チエノ」日記ニ）依レバ四月二十五日独側ヨリ日本側ニ於テ依然三國協定ニ対スル異議ヲ保持シ居ルヲ以テ右協定ノ署名ハ無期延期トナシタル旨ノ情報接測セルカ「ムフソリ」ニ「ハシバラク」前ヨリ日本ノ加入ヲ寧ロ有害無益ナリト看做シ居リタルヲ以テ却テ之ヲ欣ビタル趣ナリ

次テ「チエノ」ハ五月六日「コモ」ニ於テ「リッペンントロツプ」ト會議スルコトナレルヲ以テ四月二十八日白鳥ニ對シ近日中「リッペンントロツプ」トノ會議ヲ定ムレ居リ、且ツ英蘇ノ同盟ニ最早動カズ事突トナリ居レムニ付事變ハ愈々要シ日本側ノ明確ナル諾否ノ回答ヲ齎ラサレ度キ旨要求セリ

外務省

條項ヲ有スルモ右ハ益ク兩國ノ歐洲ニ於ケル特殊の地位ニ基クモ
ノナリ
抑々三國協定ノ締結カ斯クモ遲延セラレタルハ独伊ノ責ニ帰セラ
ルベキモノニ非ラズ万一三國協定ノ締結カ長期間延期セラルル場
合ニハ之ニ先立テ独伊協定ノ締結ガ必要ナルヤモ知ントハ余ガ屢
屢日本側ニ指摘シ來レル処ナリ独伊兩國ハ軍事同盟締結ニ當リ三
國協定成立ノ一日モ速カテラシコトヲ切望スルモノナリ唯此ノ際
附言致シタキハ從來本件交渉ニ対スル日本政府ノ態度カ羅馬及伯
林ニ於テ徐々ニ或ル種ノ懷疑ヲ生ジツツアルコトナリ最近「ムツ
ソリーニ」ハ結局日本側カ本件交渉ノ妥議ニ対シ積極的決定ヲ爲
スニ至ルヤ否ヤ不安ノ意ヲ表明セリ更ニ「ヒ」總統モ日本ノ態度
ハ諒解ニ苦シム旨此ノ二、三日余ニ繰返シ言明セリ日本ハ大體的
見地ヨリ見テ日本ノ政治的利害カ独伊ノ其レト一致シ居ルコトヲ
認識セザル可カラズ又戰爭ノ原米カ英佛ノ側ニ立テ參戰スルニ至

外務省

ルヤモ知レズトノ日本側ノ懸念ニ対シテハ本三國協定カ寧ロ米ク
戰爭ヨリ遠ザケルモノナルコトヲ指摘セザル可カラズ更ニ日本ノ
廉價ニ於ケル地位ノ確保ハ歐洲ニ於ケル独伊ノ西歐諸國ニ対スル
優位ニ依存スルモノニシテ西歐諸國カ独伊トノ戰爭ノ際日本ノ中
立ヲ期待シ得ズト考フルコトハ益ク日本ノ利益ト一致スルモノナ
リ
（陸軍軍務裁判所檢察側文書一三八二号）
（法廷証四八六号）
尙四月二十日「ヒツトラー」總統慶生日ノ祝賀会ニ於テ「リッペ
ントロツプ」外相ハ大島及白鳥兩大使ニ対シ本件日独交渉カ余リ
時日ヲ要スルニ於テハ独進ハ蘇聯ト手ヲ握ル必要ニ迫ラレルヤモ
知レズト内話セル趣ナリ
八
一方独側ヨリ平沼聲明ト相前後シテ所謂「ガウス」案「一ガウス」

外務省

B-0057

独條約局長駐独大使館宇佐美參事官、武内書記官等ノ作成セルモノ
 ノ一ヲ提議シ來レリ
 (註)「カウス」案ノ提出ニ關シ原田日記ハ左ノ如ク述ベ居レリ
 ソレカラ六日ノ朝早夕目白ノ有田ノ家ニ行ツテ話ヲ聞クト、一
 先日総理ノ「メツセージ」ヲ自分カ東京駐劄ノ独伊兩大使ニ渡
 シタノト入達ヒニ、「ヘルリン」駐在ノ飛佐美參事官カラ公信
 カアツテ、「ドイツ」ノ外務省ノ外務次官補ノ「カウス」ト云
 フ人カラ來テタレト云フノヲ行ツタ処カ、斯ウ云フ案ナラバ日
 本モ承知シテクレヤシナイカ、此ノ案ハ未ダ「リッペン」外務
 大臣ニ見セナイノヲ、外務大臣ハ果シテ何ト云フカ分ラナイケ
 レドモ、自分ノ私案トシテ内々見セル。ト云ツテ出シタモノヲ
 結局ソノ案ニ依ルト言葉ハ非常ニ遺憾シニ云ツテ居ルガ、日本
 ノ拒否シタ「ドイツ」ノ欲スル点ニ重キヲ置イテ、結局ソレヲ
 容レタ案「アール」ヲ有田外務大臣ノ話ニ一此案ノ出所ヲイロイ

外務省

口調ヘテ見ルト、ドウモ日本ノ陸軍カラ「アタツシエ」ヲ通シ
 テ「ドイツ」ノ外務省ニ出シタ案ラシイ、テ甚ダ怪シカラシ話
 ア、自分モカウ云フ陰謀ニ陰謀ヲ重ヌルヤウナコトハ逆モ責
 任カ執レン、困ツタモンダ」ト云ツテ居ツタ。其案ニ就テハ、
 別ニ具体的ナ内容ハ見セナカッタ。
 一九三九年五月十五日「ワイシゼツカー」外務次官發「オット」
 大使宛電報
 大使宛電報
 往電第百五十八号ニ於テ申述ヘタルノ文書實使限リノ情報トシテ
 電報ス。右文書ハ
 (一)左ノ三通ヨリ成ル「ドイツ」副政府日本副政府及「イタリア」
 副政府間協議及援助條約案
 (二)本條約
 (三)署名議定書

外務省

B-0057

大日本帝國政府
 ナチリア」國政府及
 「ドイツ」國政府ハ
 一九三六年十一月二十五日ノ共產「インターナショナル」ニ對
 スル協定締結以來、日本國、「イタリヤ」國及「ドイツ」國間
 ノ友好關係カ更ニ緊密化セル事實ヲ認メ、
 共產「インターナショナル」ノ國際的活動カ「ヨーロッパ」歐
 「アジア」ノ平和ヲ脅威スルコトヲ確信シ、
 右協定ノ精神ニ於テ、「ヨーロッパ」及「アジア」ニ於
 ケル共產主義的破壊ニ對スル防禦ヲ強化シ並ニ三締約國ノ共同
 ノ利益ヲ維護スルコトヲ決意シ、左ノ諸規定ヲ協定セリ
 第一條 締約國ノ一カ本條約ニ參加シ居ラザル一國或ハ數國ノ
 態度ニ依リ困難ニ陥リタル場合ニハ締約國ハ共同ニ執ラレ
 べき措置ニ付直チニ協議スベシ

外務省

（イ）秘密附屬議定書
 （ニ）條約ノ最終條文ノ前ニ挿入セラルヘキ三箇條約ト「ドイツ」國
 「イタリヤ」國間條約トノ關係ニ関スル新條約案
 （三）日本國大使ニヨリ署名ニ先立テ提出セラルヘキ外交上ノ質問ニ
 對スル日本國政府ノ説明ニ関スル覺書案
 （四）同様日本國大使ニヨリ署名ニ先立テ口頭ニテ爲サルヘキ公式声
 明案
 文書（二）（十三）（四）ニ對スル日本國政府ノ同意ハ未ダ得ラレ
 居ラズ
 前記文書ノ「アキスト」左ノ通
 （外務大臣發電ニ同意済）
 五月十五日二十三日發電
 文書 一
 （イ）日本國、「イタリヤ」國及「ドイツ」國間協議及援助條約

外務省

第二條 締約國ノ一カ本條約ニ参加シ居ラザル一國或ハ數國ニ依リ、挑発スルコトナクシテ脅威セラレタル場合ニハ他ノ締約國ハ脅威セラレタル國ニ対シ、右脅威除去ノ爲ニ政治的及經濟的支援ヲ與フルコトヲ約ス

第三條 締約國ノ一カ本條約ニ参加シ居ラザル一國或ハ數國ニ依リ挑発セラレザル攻撃ノ対象トナリタル場合ニハ他ノ締約國ハ援助及助力ヲ與フルコトヲ約ス

三締約國ハ右ノ場合前項ニ規定セラレタル義務実施ノ爲、必要ナル措置ニ付直チニ協議決定スベシ

第四條 本條約ノ正文ハ日本語、「イタリア」語及「ドイツ」語ヲ以テ之ヲ作成ス

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラレベク且五年ノ期間效力ヲ有スベシ、締約國ハ右期間満了前適當ナル時期ニ於テ將來ノ協力ノ形式ニ關シ瞭解ヲ達シテハシ

外務省

右記載トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正当ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

ニ於テ本條約三通ヲ作成ス

(四)署名議)定書

本日締結セラレタル條約ノ署名ニ際シ、各全權ハ下記ニ付キ一致セリ

(イ)本條約第二條及第三條ニ關シ、滿洲國ニ対スル脅威又ハ攻撃ハ一九三二年九月十五日日本國及滿洲國間ニ締結セラレタル議定書第二項ノ規定ニ依リ、日本國ニ対スル脅威又ハ攻撃ト認メラレハシ

(ロ)本條約第四條第二項ニ關シ、其ノ期間満了ノ時ニ於テ、第二條又ハ第三條ニ基テ支持又ハ援助及助力ガ尙繼續中ナル場合ハ本條約ハ右支持又ハ援助及助力ヲ必要トスル狀態ガ終了スル迄依然有效ナルベシ

外務省

B-0057

東セラルムコトナカハルヘシ

(一) 本秘密附屬議定書ハ締約國ノ同意ヲクシテハ公表又ハ第三國ニ通告セラルムコトナカハルヘシ

(二) 本秘密附屬議定書ハ本條約及署名議定書ト同一ノ有效期間ヲ有シ之等兩者ト共ニ不可分ノ一体ヲ形成ス

文書 二

目下交渉中ナル日本國、伊、太利國及独逸國間ノ協議及援助條約案中末尾第四項ノ前ニ次ノ如キ形式ノ新條項挿入セラルヘシ

「ドイツ」國政府及「イタリア」國政府ハ一九三九年五月二十一日署名セラルタル「ドイツ」國及「イタリア」國間友好同盟條約ハ右兩國ノ隣邦關係及其ノ「ヨーロッパ」ニ於ケル特殊ノ地位ヨリ生起セルモノニシテ本條約ニ依リ影響セラルムコトナク從テ本條約ハ「ドイツ」國ト「イタリア」國トノ關係ニ付テハ一九三九年五月二十二日附條約ガヨリ廣汎ナル義務ヲ含マザ

外務省

年 月 日

伯林ニ於テ

(一) 秘密) 附屬議定書

本日締結セラルタル條約ノ署名ニ際シ記名ノ全權又ハ下記ニ付キ一並セリ

(二) 本條約第二條及第三條ニ關シ、三締約國ノ権限アル官憲ハ條約實施後能ク限リ速ニ、紛争ノ如何ナル各個ノ可能性カ存在スルヤ及締約國カ地理的事情ニ應ジ如何ナル方法並ニ範圍ニ於テ相互ニ支持又ハ援助) 及助力ヲ與フベキヤニ關シ予メ検討スヘシ

(三) 締約國カ共同ニ實施スル戰爭ノ場合ニ於テ締約國ハ單獨ニ休戰或ハ講和ヲナサザルコトヲ約ス

(四) 第三國トノ現存ノ條約ニ基キ存在スル義務ニシテ本條約ノ規定ニ矛盾スルモノアル場合ニハ締約國ハ斯カハ義務ニ依リ拘

外務省

ル限度ニ於テノミ適用セラルヘキコトヲ日本國政府ト合意ノ上
宣旨ス

文書 三

覚

日本國政府ハ目下交渉中ノ「ドイツ」國「イタリア」國及日本國
間條約ノ締結後第三者側ヨリ本條約ニ關シ外交上ノ質問アリタル
場合ハ口頭ニテ左ノ意味ニ於テ説明スベシ

「本條約ハ純粹ニ防禦的條約ニシテ何等侵略的意圖ヲ有セス平
和維持ヲ確保スルヲ目的トス、本條約ハ從テ何事ニモ指向セ
ラレ居ラス

「歴史的ニハ本條約ハ三締約國カ近年「コミンテルン」ノ破壊工作
ニ対スル共同防禦ノ爲結合セル事實ヨリ生起セリ、現在ノ國際
情勢ニ於テ日本國トシテハ共產「インターナショナル」ノ策動
ニ依リ最モ脅威セラレ居ルコトヲ感ズルモノナリ、日本國政府

外務省

ハ從テ「ソビエツト、ロシア」ヨリ生ズル共產主義ノ此ノ策動
ヲ平和ニ対スル最モ緊切ナル脅威ト認ムルモノナリ
「本條約ノ締結國ノ一カ批發ニ依ラズシテ攻撃セラルル場合該國ニ
關シ生ズヘキ結果ハ本條約ノ條文ヨリ明瞭ナルベシ。第三國カ
締約國ヲ脅威又ハ攻撃セザル限り本條約ニ規定セラレタル支持
並ニ援助及助力供與ノ義務ハ實施セラルルコトナカルベシ

文書 四

本國政府ノ訓令ニ「基キ本使ハ閣下ニ對シ日本國カ本條約第三條
ニ於テ受諾セル援助及助力供與ノ義務ヲ軍事的關係ニ於テハ現在
及近キ將來制限セラレタル範圍ニ於テノミ實施シ得ヘキコトヲ諒
承セラレシコトヲ要請ス。將來爭宜ニ應ジ供與セラルヘキ軍事
助力ニ關スル詳細ハ秘密附屬議定書ニ規定セラレタル附議ノ際ニ
之ヲ讓ルモノトス

（極東國際軍事裁判所法廷証二六一九号別紙第
三及第四記錄二二五三九頁一、二、三、五〇頁）

外務省

B-0057

ト、一五相會議ハ午後二時カラ開カレテ海軍大臣ハ先ツサキニ
 「此處ニ出テ居ル」カウス」案ハ、コレハ本筋ノモノデハナイ
 ジヤアナイカ、五相會議ノ問題トシテ正シイ筋ヲ述ルナラバ、
 第一総理大臣ノ「メツセージ」ニ対スル正式ノ返事ガ未ダ「ド
 イン」カラナイジヤアナイカ、此返答ヲ督促スルコトガ先ツ第
 一ノ問題デアルニモ拘ラズ、此督促モシナイデ斯ノ如ク他ノ「
 カウス」案ニ彼是執着シテ居ルコトハ話シテ話シテ話シテ話シテ話
 ト申出)ケケレドモ誰モ何モ云ハナイデ再ビ又「カウス」案ニ
 就テ彼是云ツテ居ツ)ケ、テ、総理ハ、自分ノ「メツセージ」
 ニ対スル正式ノ返事ハ要ラナイ、モウ既に大島大使ガ「リッ
 ベン」外務大臣カラ、交戦状態ニ入ル、ト見テ好イカ、ト云ハ
 レタ時エ、然リ、ト答ヘタノデ、凡テ解決シテ居ル、結局歐羅
 巴ニ於テ英佛ト独伊ガ開戦シタ場合エハ、日本ハ直チニ交戦状
 態ニ入ルト認メタト見テヨイヤウナ口吻デアツタ

外務省

英文ヨリノ仮訳

(註) 有田手記ニ依レバ「カウス」案ニハ第一案及第二案ノ二ヤ
 リタル模様エシテ、本文中ニ掲載セル福東副陸軍軍務裁判所ニ提
 出セラレタルモノカ、ソノイズレナルヤ不明ナルカ、大島ノ官
 署供進書等ニハ唯「カウス」案トノミ稱シテ第一案第二案等ニ
 言及シ居ラズ且ツ大島ハ右裁判所提出ノ書証ヲ「カウス」案ナ
 リト認メ居ルヲ以テ、第一案第二案アリタリトスルモ大差ナカ
 リシモノト認メラル

九

右「カウス」案ニ対シ關係各省間ニ於テハ意見対立シテ容易ニ打
 解ノ途無ク五月九日ノ五相會議ニ於テ平沼總理ノ発言ニ基キ改メ
 テ陸海軍統帥部ノ意向ヲ尊重セル上協議スルコトトナレリ
 (註) 九日ノ五相會議ニ關シ原田日記ハ左ノ如ク述ベ居レリ

外務省

B-0057

ト解シ達支ナキヤ」トノ質問ニ対シ大島大使カ「其ノ通りナリ」ト返答セルコトヲ訂正セシメルコト

(四)外部)ニ対スル説明撰ニ関シテハ必ズシモ外交上ノ質問ニ限ラズ之ヲ外部一般ノ説明トシ且口頭ニヨル説明ト限定セザルコトヲ独創ニ納得セシムルコトヲ主張シ海軍大臣ノ同意ヲ得タリ(有田手記)

次テ五月二十日ノ五相会議ヲ経テ兩大使ニ対シ「カウズ」案ニ対スル日本側修正案(内容不明)ヲ電報セリ

(註)二十日ノ五相会)譯ニ關シ原田日記ハ左ノ如ク述ベ居レリ「早速陸海軍大臣ハ各個ニ總理ニ会フテソノ議ヲシテハノテ無異ニ二十日ノ午前九時カラ五相會議カ開カレテ、大体此ノ問題ハ以上ノヤウナ内容ヲモツタコトヲ決ツタガ體)類ハドウシテモ一リツベントロツプ」外相カ交戦状態ニ入ルト見テ好イカト云フタ時ニ大島大使カ宜シト云ツタコトヲ外務大臣カ取消サセヨ

外務省

(極東國際軍事裁判檢察側文書三一五〇号) 三二五号ノA法廷証三八〇二号ノA

右五相會議ノ後)陸海統帥部ニ於テハ同日直ニ會議ヲ開催セルカ交戦關係ニ入ルヤ否ヤノ点ニ關スル陸海軍ノ意見ノ相異ニハ極メテ深刻ナルモノアリ

連日會議ヲ続行シ妥協ニ努メタル結果五月十九日ニ至リ「英佛等蘇聯以外ノ國トノ戰爭ノ場合ニ独伊側ニ立ツコトハ当然ナルモ無條件ニ武力行使ヲ義務ツケラルルコトハ不可ナリ從ツテ對英佛戰爭ノ場合ニ於ケル武力援助ノ程度方法ニ就テハ細目協定締結ノ際及規定ノ情況ニ則シ決定スルモノナリ」トノ妥協案ニ達セリ(有田手記)之ニ對シ有田外相ハ

(イ)英佛ノキヲ對手トスル場合ニハ日本ハ中立ノ態度ヲ執ルコトモアル旨明カニスルト共ニ「一リ」外相ノ「日本ハ有力ナル武力援助ヲ爲シ得ザル場合ニモ交戦關係ニ入ル覚悟ヲ有スルモノ

外務省

B-0057

ウト云フノニ対シテ言フ左右ニシテ取消サセナイト云フヤウナ
 状態デアツタカ鬼ニ角陸海軍ノ間ノ意見モ徹底的ニ一致シタト
 云フノジヤナイカ、一應決ツテ直ぐ調令ヲ出スヤウナ様子デア
 ツタカラ外務大臣ハ一應陛下ニ内奏シテカラテナイトイカレダ
 ラウト云フコトヲ總理ニ注重シテ」云々
 デ、屢々五相会議ヲ大島大使ノ言葉ノ取消ヲ總理ニ要求シタケ
 レドモ總理ハアレテ宜シト云フヤウナ風ヲ結局前ニ云ツタ秘密
 諒解事項ノ第三、締結願云々ノ削除ト対外的ニ発表スル場合ノ
 言葉ノ修正ニ留）マツテ有田外相ガ念ヲ押シタ大島大使ノ一リ
 ツベントロツブ」外相對スル交戦状態ニ入ル云々ノコトハ取消
 サズニシマツタ、ト云フコトガ爾根ヲ覆シタ大キナ原因ニナツ

（極東國際軍事裁判檢察側文書三一五〇号）
 三二六号ノB法廷証三八〇三号ノA

外務省

五月二十日五相会議ノ決定ニ対シ大島大使ヨリ「五月二十日ノ調
 令ハ結局伊藤特使携行ノ調令ニ立返ルモノト認メザルヲ得ズ独
 ツシテ承諾セシムルコト不可能ナリ」ト電報越セリ独断トシテハ
 独カ蘇聯以外ノ國ヨリ攻撃セラレタル場合日本ハ当然ノ間有能ナ
 ル武力援助ハ爲シ得ズ且中立ヲ持スルコトモ有り得ベシトノ日
 本側主張ハ之ヲ諒解スルニ至レルモ唯日本カ右秘密諒解事項ヲ文
 書化セントスルハ之ヲ英米側ニ内示スル意向ナラズヤトノ懸念ヲ
 抱キ斯クテハ本條約ノ政治的効果ヲ減殺スベントノ危懼ヲ抱キ居
 リタルモノノ如シ

右大島大使ノ電報ニ対シ有田外相ハ「今次ノ調令ハ從來ノ方針ニ
 何等ノ變更ヲ加ヘタルモノニ非ズ平沼總理ノ意見ニ違ヘアル処ト
 何等變化無キモノニシテ独伊ノ対英佛戦争ノ場合無條件ニ武力行
 使或ハ宣戦布告ノ如キ措置ヲ執ルノ義務ヲ負フコトヲ不可トスル
 次第換言セバ右ノ如キ戦争勃発ノ場合日本ハ独伊例ニ立ツモ交戦

外務省

B-0057

關係係入ルヤ否ヤハ日本カ自主的決定ヲ爲ス迄未定ノ状態ニア
 ル次第ナル旨ヲ繰返シ説明セル電文案ヲ草セシメ二十三日夜沢
 田次官ヲシテ平沼總領ヲ往訪同意ヲ求メシメタルトヨロ總領ハ右
 エ同意ヲ與ヘズ自ラ策ヲ執ツテ陸軍側主張ヲ其ノ儘採用セル修正
 ヲ加ヘタル上更ニ有效ナル武力援助ヲ行使シ得ザルヲ理由トシテ
 之ヲ參戰ナリヤ否ヤト論ズルハ「アカデミカル」ナル議論ニシテ
 之ニ拘泥スル必要ナシ從テ大島大使カ戰爭參加ノ覚悟アリト聲明
 セルハ何等差支無シト電報スル據據案セリ茲ニ於テ事變ハ再ビ紛
 糾シ再度陸海軍部一致ノ明確ナル意見ヲ懸スルコトトナレリ
 (註)當時ノ情勢ニ關シ原田日記ハ左ノ如ク述ヘ居レリ
 ソレカラ二十三日ノ朝早ク山本次官ニ電話テソノ後ノ様子ヲ聞
 カウト思ツテ呼出シタル処カ山本次官ノ云フノニ何テモ閣大使
 郎チ白鳥、大島カラアノ案テハ取次ゲナイト云フテ蹴ツテ案々
 ト云フ話テアゾト同時ニ陸軍カラ文字ノ足リナイ処ガアルト云

外務省

ツテ案テ居ルノテ甚ダ怪シカラント思ツテ居ルト云フ断テアツ
 タ、ソレカラ有田外務大臣ニ電話テ話スト矢張り昨晚モイロイ
 ロ外務省テ相談シタカ結局向フノ要求ハ參戰ト云フコトニ解着
 スルノテ陸軍カラ云ツテ案々文字ノ足リナイト云フノハ結局參
 戰ヲハツキリサセタイ、ト云フノテ自分ハ逆モ同意ハ出来ナイ
 テ昨夜次官ヲ首相ノ處ニ使エヤツタケレドモ總領ハ陸軍ノ要求
 通りナホシタラ好イジヤナイカト云フノデコレモ矢張り參戰ト云
 フコトニシタイト云フ氣持ヲシイ、ソレカラ海軍大臣ト電話テ
 話スト海軍大臣ハ非常ニ憤慨シテ參戰トカ交戦状態ニ入ルト云
 ツタゴトヌラ甚ダ怪シカラシテ下ハ度々參謀本部ニモ陸軍大
 臣ニモ總領ニモ參戰ト云フコトニ就テ一許ヤン、ト云フテ居ラ
 レルニ拘ラズ、ソレト反對ノ行動ヲ執ル大使遣ヤ陸軍ヲ擁護ス
 ル總領ノ態度ハ非常ニ怪シカラント云フテ憤慨シテ居ラ
 (三二六号ノA法廷三三〇三号B)

外務省

B-0057

陸海軍當局間ニ於テハ引續キ協議ヲ重ネタル結果独伊ノ対英佛戰
争ノ場合日本ノ執ルヘキ態度ニ關シ左ノ如キ意見一齋ヲ見タリ
有田手記)

即チ右ノ場合日本ノ態度ヲ(1)意思(2)意思表示(3)行為ノ三般ニ區別
シ
(1)意思ニ)於テハ常ニ必ズ独伊備ニ組シ英佛ニ加ハルコトナレ
(2)意思表示ニ)於テハ宣戰布告、宣言、聲明、國交斷絶、又ハ宣言
ニテ武力ヲ行使スル等ノ内一若クハ二以上ノ形式ヲ用フルコト
アリ又ハ米ソ等カ未ダ態度ヲ表明セザル限如キ情況ニ於テ一般
情勢ト併セ考ヘ日本カ宣言ノ脅威ヲ以テ米ソ等ノ戰争參加
ヲ牽制スルヲ協約三國ノ爲有利トスル場合ニ於テハ何等ノ意思
表示ヲ行ハザルコトアリ意思表示ニ關シテ独伊備ト協議スルモ
ノトス
(3)行為ニ關シテハ帝國ハ其ノ現況ニ應ジ現在及近キ將來ニ於テハ

外務省

有效ナル武力援助ヲ行ヒ得ザルモノナルカ協定第二條ノ政治、
經濟上ノ援助及第三條ノ助力及援助ノ内武力行使ヲ除キタルモ
ノハ常ニ必ズ之ヲ行フ武力行使ハ開戰ノ初期ヨリ之ヲ行ヒ又米
蘇等カ未ダ其ノ態度ヲ表明セザルカ如キ狀況ニ於テ一般情勢ト
併セ考ヘ日本カ宣言ノ脅威ヲ以テ米蘇等ノ戰争參加ヲ牽制スル
ヲ協約三國ノ爲有利トスル場合ニ於テハ開戰當初之ヲ行ハズ戰
争ノ經過中ニ於テ之ヲ行ヒ又ハ戰争間之ヲ行ハザルコトアリ武
力援助ニ關シテハ独伊ト協議スルモノトス
右ニ對シ有田外相ハ六月六日ノ互相會議ニ於テ一蘇聯カ參戰セ
ザルニ米國カ參戰セルカ如キコトアリトスルモ一般情勢ト併
セ考ヘ日本カ宣言ノ脅威ヲ以テ蘇聯等ノ戰争參加ヲ牽制スル
ヲ協約三國ノ爲有利トスル場合ニハ何等ノ意思表示ヲ爲サザル
コトアリ又武力行使ヲ行ハザルコトアリト文書ヲ以テ明確ナ
ラシムルコトヲ主張セリ(有田手記)

外務省

B-0057

一英政府ハ大規模ノ戰國行爲進行中ナル支那ニ於ケル現狀ノ事
 態ヲ完全ニ承認シ、又斯ル狀態カ存続スル限り支那ニ於ケル日本
 軍カ自己ノ安全ヲ確保シ、其ノ勢力下ニ在ル地域ニ於ケル治安ヲ
 維持スル爲メ特殊ノ要求ヲ有スルコト並ニ日本軍ヲ審シ又ハ其ノ敵
 ヲ利スルカ如キ一切ノ行爲及ビ原因ヲ排除スルノ要アルコトヲ認
 識ス英政府ハ日本軍ニ於テ前記目的ヲ達成スルニ當リ之カ妨礙
 トナルヘキ何等ノ行爲又ハ措置ヲ是認スルノ意思ヲ有セス此ノ機
 會ニ於テ斯ル行爲及措置ヲ抑制スヘキ旨在支英兩國官憲及英國民ニ
 明示シ以テ右政策ヲ確認スヘシ

同日右共同声明發表ニ先立テ、平沼總理ハ記者團トノ會見ニ於テ
 今回ノ協定ハ北支ノミナラス支那全土ニ於ケル日英關係ヲ確スル
 原則ナルコト、英カ右原則)ニ從ヒ日滿支三國ノ相互關係ヲ確
 シ協力セバ東亞新秩序ノ建設ニ極大ニ裨益セザル範圍内ニ於テ英ノ在支
 權益ヲ認ムルモ可ナルコト、國內ノ排英運動ニ關シテハ從來非合

外務省

其ノ後種々ノ経緯アリタルモ總軍側ハ強固ノ主張ヲ容レ速カニ本
 協定締結方ヲ主張シテ讓ラズ爾後本件交渉ハ全ク行詰リトナレリ

此ノ間滿蒙地域一ノモンハン」附近ニ於テハ五月初旬以來屢々外
 蒙蘇聯軍ト對峙軍トノ間ニ戰鬪行爲繰返サレ居リタルカ、右事
 ハ時日ノ経過ト共ニ次第ニ減化スルニ至リ、一方中國ニ於テモ上
 海、天津、鼓浪嶼等ノ租界ヲ中心トシテ抗日「テロ」事件頻発シ
 殊ニ六月十四日日本軍カ天津英租界ヲ封鎖スルニ及ビ日英關係ハ
 頓ニ緊迫スルニ至レリ右天津事件ニ關シ七月十五日ヨリ東京ニ於
 テ有田「クレーギー」會議行ハレタルカ、日本トシテハ右事件ヲ
 契機トシテ日英外交ノ一般の調整ヲ計ラントセルモノノ如ク、天
 津英租界ニ於ケル具體的問題ノ善後ニ入ルニ先立テ、支那問題全
 般ニ關スル日英兩國ノ基本の態度ニ關シ論議ヲ重キタル結果七月
 二十二日左ノ如キ日英共同声明ヲ發表セリ

外務省

法ニ直ラザル限リ靜觀的態度ヲ持シ居リタルモ、政府ノ方針確定
 セル以上之ニ反スル運動ハ嚴重ニ取締ラザルヘカラザルコト、但
 シ今因ノ東京會議ハ防共協定強化方針ニ對シ及ボサザル旨談話セ
 リ然ルニ其ノ後現地軍代表ヲ加ヘタル一東京ニ於ケル現地交渉
 ニ於テ現銀引渡問題、法幣流通禁止問題等經濟問題ノ討論ニ移ル
 ヤ交渉ハ俄カニ難關ニ達シ八月十四日現地軍代表ハ連袂引揚テ
 敢行スルニ至リ日英會議ハ決裂ノ已無キニ至レリ
 他方防共協定強化問題ニ關シテハ陸軍側依然從來ノ強硬態度ヲ固
 持シ八月ニ入ルヤ若シ從來ノ陸軍側ノ要策ニシテ容レラザル場
 合ニハ陸軍大臣ノ辭職モ不巳然ル時ハ内閣ノ崩壊ヲモ招クニ至
 ルヘキ旨仄カシ始メタルカ八月八日ノ五相會議ニ於テハ右ノ如キ
 脅迫的風説ニモ拘ラズ陸相ノ主張ヲ容レザリシヲ以テ陸相ハ十日
 (有田平記ニ依レバ十一日)町尻軍務局長ヲシテ在京獨伊兩大使
 ヲ往訪セシメヨノ備エテハ辭職ノ不巳情勢ニアル旨ヲ傳ヘシメ

外務省

妥協案トシテ 陸相ノ一試案ヲ提示シ独伊ノ談歩ヲ求メシメタリ
 右ニ關シ極東國際軍事裁判ニ於テ檢察側ハ左ノ如キ独備文書ヲ提
 出セリ
 (一九三九年八月十一日附「オット」大使發独外務大臣宛電報)
 八月十日午居本使並ニ伊國大使ニ合同會見ヲ求メ來レル町尻軍
 務局長ノハ次ノ如キ陸軍大臣ノ口上書ヲ本使等ニ手交セリ
 一陸軍ハ八月八日五相會議ニ於テ同盟ノ爲奮闘セルモ六月五日
 ノ日本側提案以上何等ノ進出ヲ示サザリキ
 陸軍カ熱心ニ同盟締結ノ爲努力シ居ルハ
 一陸軍ノカ國民ニ對シ責任ヲ有シ居ル支那事變ヲ迅速且成功裡
 ニ終結セシメ
 二一般國民大衆ノ要策ニ應ヘ以テ現在ノ緊張ヲ緩和シ
 三英國トノ經濟的誘惑的ナル和解ノ方向ヘノ危險ナル反動ヲ阻
 止センガ爲ナリ

外務省

B-0057

右理由ハ極メテ切実ナルヲ以テ陸軍大臣ハ最後ノ手段トシテハ
許服ヲ請スベク決意シ居リ右ハ又殆ド確定のニ大島、白鳥ノ許
服ノツモ招來スヘシ斯カル行動ハ勿論同盟ニ對スル日本側ノ基
礎ヲ序々ニ改善スヘキモノノ當初ニ於テハ強烈ナル後退ヲ生ズ
ルヤモ知レズ然レドモ許服ヲ決意スル以外可能ナル方法ナシ
右決定ハ八月十五日ニ行ハルル予定ナリ

(中略)

内閣ハ再度六月五日ノ提案ヲ確固セルカ陸軍大臣ハ次ノ如キ相
互ノ譲歩ニ依リ迅速ナル締結ニ到達シ得ヘシト認ム
伯林及羅馬ハ日本大使ニ對シ六月五日ノ日本側提案ヲ左ノ條件
附エテ受諾可能ナル旨聲明ス
一兩國ハ宋文ノ背後ニ何等ノ心算留保無キコトヲ條件トスル
二日本側ニ於テハ補足的口頭聲明ヲ作成ス
然ラハ陸軍大臣ハ左記ヲ履行セシムル所存ナリ

外務省

一ニ關シテ本解説ニ對スル日本側ノ確證ヲ表明スルコト
二ニ關シテ本條約ノ確定書中ニ掲載セラルヘキ口頭聲明ヲ明確
ニ記述スルコト
町尻中將ハ八月十五日以前ニ右ヲ承認スルヨウ殆ド囑願的ニ
要請セリ海軍大臣ハ本使等ニ對スル右措置ノ事實ヲ外務大臣ヲ
經由セズシテ大島及白鳥ニ對シ通告スルモノナルヘシ

(注) 極東國際軍事會議(判檢察官提出ニ係ル)
法廷証二一九八号英文ヨリノ飯沢

(註) 右電報中ニアル「六月五日ノ日本側提案」ナルモノハ右國
手記ニアル六月六日ノ五相會議)決定月ノコトナルヘシト想像
セラル

尙右陸相ノ口上書ニ關シ右國大臣ハ其ノ著書一人ノ目ノ處ヲ見
ルニ於テ其ノ如キ「オット」大使ノ独政府宛電報ヲ引用
シ居レリ

外務省

B-0057

一同盟問題ニ善処スルヲ謀ルニシテ、陸軍大臣ノ意圖ハ決シテ独逸政府ヲ圧迫セントスルヲメテハナク、大体ニ於テ日英交渉ノ巧妙ヲ指導ニヨリ勝利ヲ制セントシテ、アイル宮廷、財界、海軍及ビ外務省等ニ対スル陸軍ノ國內ノ地位ノ最優ノ手続ヲ示シテ居ルモノト信ズル。然シ陸軍ハ同盟政策ノ主要ナ支持者デアルカラ、陸軍ノ内政上ノ地位ヲ支持スルコトハ我々ニハ極メテ重大ナ意義カアル。英領大使トノ緊密ナ協力ノ下ニ、日英會議ノ成功ニ全力ヲ傾注シテ、アイル外務大臣ノ諸計畫ノハ、独逸ノ讓歩ニヨリテ崩スコトカ出来ルデアリヨウ（二四頁）

右陸相ノ提案ニ対シ独逸側カラハ何等ノ回答ナカリシモノノ如ク其ノ後ノ五相會議ニ於テモ陸相ノ主張ハ依然却ケラレ日本側トシテハ實質上義ノ六月六日ノ五相會議決定ヲ一歩モ出デザリキ

（註）一九三九年八月十八日附「オット」大使宛独逸外務大臣宛電報

外務省

同盟問題ニ關スル國內政情ノ推移ハ引續キ變化無シ外相陸相間ノ妥協可能性ニ關スル新聞報道ハ無ナリ、最近ノ五相會議ニ於テハ六月五日ノ日本側提案ノ同盟案文ヲ何等ノ本質的變化ナシニ再度確定スルコトヲ外相ニ委嘱セリ、右案文ハ之ヲ關係各大臣ニ配付シ次回五相會議ニ於テ採擇セラレタル場合ニハ駐独伊兩大使ニ送付シ當該政府ニ文書ヲ以テ手交セラルヘシ陸相ハ右外相ノ目論見ヲ受諾不能ナリトシテ拒絶シ依然六月五日ノ提案以上ニ奉テ進メント主ノ強シ居レリ乍然陸軍省ヨリノ信ズヘキ情報ニ依レバ陸相ハ爾余ノ大臣ノ統一職權ヲ打破スルコト不能ナルヲ以テ其ノ辭職ハ不可避ナリト思考シ居レリ陸相ハ無條件同盟ヲ要求シ居ル青年將校ニ依リ支持セラレ居レリ

（極東國際軍事裁判檢察側提出ニ係ル）
法廷証二一九八号英文ヨリノ復訳

外務省

B-0057

一方独備ニ於テハ彼上ノ如ク本件交渉カ行詰リトナリ、日本ノ消極的態度ノ明白トナルニ伴ヒ次第ニ対蘇接近ヲ策スニ至レリ。蘇ニ一言セル如ク独備ノハ四月二十日「ヒットラー」總統誕生祝賀ノ宴席ニ於テ日本側ニ対シ本件交渉ノ遅延スルニ於テハ独蘇提携ノ必要ニ迫ラルルヤモ知レザル旨内話セル趣ナルカ、其ノ後独蘇ノ対蘇論調漸次軟化スルニ至リ、五月三日「リトヴィノフ」ニ代リ「モロトフ」ノ外務人民委員ニ就任後独ハ蘇聯ニ対シ独蘇經濟交渉再回ヲ申入レ先ツ經濟問題ニ於ケル協力ヲ再確立シタル後漸次政治關係ノ平常化ヲ計ラント企圖セリ、当時蘇備ハ英ト通商交渉ヲ行ヒツツアリタルカ、独備ノ提案ヲ受ケ歐洲情勢ノ緊迫ト視テ合セ首鼠兩端ヲ持シ居レリ、其後七月末独蘇經濟交渉再回セラレ、他面政治關係ノ平常化ニ關シテモ隨時独備ヨリ蘇備ノ態度打診ヲ行ヒツツアリタルガ、八月二日「リ」外相ハ「アスタコ

外務省

フ」蘇聯代理大使ト会谈セル際岡滿澤ニ進捗中ノ独蘇通商交渉ニ言及シ右ハ独蘇關係平常化ノ第一歩ナリト述ベ他國ノ内政不干涉及ビ相互ノ死活ノ重要性ヲ有スル權益ヲ向ケラレタル政策ノ放棄ノ二條件ノ下ニ独蘇ノ提携ハ可能ナルヘシト語り更ニ將來起ラントスル「ポーランド」事件ニ尋寄セテ蘇聯トノ間ニ「ポーランド」ニ關スル協定ヲ行ハントノ暗示ヲ與ヘタリ（尙其ノ際「リ」ハ日独關係ハ友好的且ツ良好ニシテ自分ハ日蘇關係ニ關シテモ独備ノ考ヘテ廣範圍ノ雷定條約ヲ有スル旨語りタリ）（一九三九年八月三日「リ」外相發蘇駐蘇「シュレーレンブルグ」大使宛電報）之ニ對シ八月四日「モロトフ」外相ハ「シュレーレンブルグ」大使トノ会谈ノ際從來ノ趣ヘ目ナ態度ヲ一變シ独蘇關係惡化ノ原因ハ（防共協定）定ノ締結（独ノ日本支持）独カ蘇聯ノ参加スル如何ナル國際會議ニモ参加セザルコトヲ繰返シ主張シ居ルコトナリト述ベ自分トシテハ独蘇關係ノ改善ヲ希冀シ居ル旨述ベタリ（一九三

外務省

B-0057

九年八月四日「シユールンブルグ」大使發「リ」外相宛電報
 斯クテ独蘇兩國トモ互ノ意圖打撃ヲ着々ト進メツアリタルカ
 此ノ間独蘇關係ハ急激ニ惡化シ來リ独ハ愈々最後の決断ヲ要スル
 ニ至リ、八月十四日「リ」外相ハ「シユールンブルグ」大使宛緊
 急電ヲ以テ「今ヤ独蘇兩國ハ「イデオロギー」ノ問題ヲ不問ニ附
 シ從來ノ対立關係ヲ終止セシムヘキコト（四兩國間ニハ概ノ意味ノ
 利害關係ノ衝突ナク、兩國ノ概ノ敵ハ資本主義的歐民主主義
 諸國ナルコト）（英ノ煽動ニヨリ惹起セラレタル独蘇關係ノ危機ハ
 独蘇關係ノ迅速ナル明確化ヲ必要ナラシメ居ルヲ以テ、「リ」外
 相自ラ總統ノ名ニ於テ「スターリン」ニ對シ總統ノ見解ヲ述ヘ
 爲莫斯科へ短期旅行ノ用意アルコトヲ「モロトフ」外相及「スタ
 ーリン」ニ傳達スル機調令セリ（一九三九年八月十四日「リ」外
 相發「シユールンブルグ」大使宛電報）
 「モロトフ」外相モ独蘇關係改善ニ關スル独側ノ申出ニ満足ノ意

外務省

ヲ表シ、八月十七日「シユールンブルグ」大使ニ對シ從來独ハ所
 謂防共協定ニ依リ反蘇國家群ノ統一戰線樹立ヲ策シ、日本ヲ特ニ
 執拗ニ引込マントセルヲ以テ、蘇聯トシテモ之カ防衛準備ニ重大
 ナル手段ヲトリ、侵略ニ對スル國家群ノ防衛戰線結成ニ參加スル
 フ余儀ナクセラレタリ、然シ乍ラ独ニ於テ蘇聯トノ誠意アル政治
 關係調整ヲ希冀スルニ於テハ蘇聯モ亦對独關係改善ノ用意アリト
 述ヘ其ノ具體策トシテ經濟協定ノ締結及ビ右締結後ニ於ケル不可
 侵條約又ハ一九二六年ノ中立條約ノ再確認ヲ申出テ更ニ「リ」外
 相ノ莫斯科訪問ハ独政府ノ熱意ヲ表明スルモノニシテ英ガ二流官
 吏タル「ス」トラング「」ヲ莫斯科ニ派遣セルト注目スベキ對照ヲ
 爲シ居レリト述ヘ終リニ事情ノ許スニ於テハ独側ニ於テ直チニ不
 可侵條約草案ノ作成或ハ中立條約再確認ノ準備ニ着手セラレ度旨
 希冀セリ（一九三九年八月十八日「シユールンブルグ」大使發「
 リ」外相宛電報）

外務省

B-0057

(四)「一リ」外相ハ既ニ数ヶ月前独蘇關係正常化ノ必要性ヲ大島ニ通報シアルヲ以テ今同ノ行爲ハ決シテ履耳ニ水ニハ非ズ

(六)独蘇不可侵條約ニヨリ独ハ日蘇關係ヲ斡旋シ得ル地位ニ置カレタリ独ハ若シ日本側ニシテ希冀スルニ於テハ蘇側ニ於テモ日蘇協定ヲ歓迎シ居ルトノ印象ヲ有シ居レリ

(五)現在ノ日本ノ第一ノ敵カ英國ナルコトハ明白アリ独モ亦蘇聯ヨリ英國ノ政策ニ依リヨリ大ナル脅威ヲ受ケ居レリ独蘇協定ハ日独双方ノ利益ニ役立つモノナリ

(四)独カ対日關係ノ調整ヲ辛強ク求メタル点ハ異論ナカルベク独ハ半歳ノ間日本ノ出方ヲ待リテ居リタルモノニシテ當時日本政府ハ優先権ヲ有シ居リタル次第ナリ、独蘇間ニ於ケル經濟交渉又ハ或ル種ノ政治交渉カ或ル期間行ハレ居リタルハ事實ナルモ不可侵條約締結ノ交渉ハ極メテ最近ニ於テ開始セラレタルモノニシテ「ポーランド」ノ脅威漫ナル態度ニ依リ独トシテハ今週

外務省

其後蘇側モ經濟協定成立ヲ俟タズ不可侵條約締結交渉ニ入ルコトヲ承諾シ數次ノ交渉ヲ経タル後八月十日日伯林ニ於テ独蘇經濟協定、次テ八月二十三日莫斯科ニ於テ独蘇不可侵條約ノ締結ヲ見ルニ至レリ

十二

独蘇不可侵條約ノ締結ニ先立チ八月二十一日夕刻一リツベントロツプ「ハーヘルクホーフ」ノ山莊ヨリ電話ヲ以テ大島ニ對シ不可侵條約締結ノ已ムナキニ至リタル旨通報セリ之ニ對シ大島ハ即座ニ右ハ防共協定ニ違反スル不信行爲ナル旨指摘セルカ「一リ」外相ハ理論ハシバラク措キ右ノ不~~已~~得~~得~~實情ヲ諒承セラルル様希冀セリ依テ大島ハ同夜更ニ「ワイツゼツカー」外務次官ヲ往訪シ右事情ヲ聴取)セル處「ワ」次官ハ

(六)独ハ日独友好關係カ問題トナルカ如キ何等ノ行爲ヲモ爲シ居ラズ且ツ今後モ日独間ノ友好關係ヲ維持センコトヲ希冀ス

外務省

中ニモ戦争ニ迫ヒヤラルルヤモ知レザルカ如キ切迫セル事態ニ
 立至リタル爲不~~得~~得今同ノ如キ行動ニ出テタル次第ナリ
 ト語リタリ(一九三九年八月二十二日独外務次官「ワイツゼンカ
 一」覚書、次官第六四四号)
 更ニ大島ハ「リ」外相ノ莫斯科出發前「ナンベルホーフ」飛行場
 ニ於テ同外相ニ對シ重テ口頭ヲ以テ独蘇不可侵條約ノ防共協定
 違反ナル旨指摘セリ(八月二十三日莫斯科ニ於ケル独蘇不可侵條約
 調印ノ際「リ」外相ハ「スターリン」ニ對シ若シ蘇聯政府ニシ
 テ希冀スルニ於テハ独ハ日蘇關係ノ調整ノ爲盡力スルノ用意アル
 旨述べタルカ「スターリン」ハ之ニ對シ日蘇關係ノ好轉ハ希冀ス
 ルモ日本ノ挑発ニ對スル忍耐ニハ)限度アリ若シ日本ガ戦争ヲ希
 望スルナラバ蘇聯ハ之ニ對スル準備ヲ有シ居リ敢テ戦争ヲ恐ル
 モノニ非ズ然シナカラ日本側ニシテ平和ヲ希冀スルナラバ大イニ
 結構ナリ、蘇聯ハ日蘇關係調整ノ爲独ノ援助ヲ考慮シ得ルモ右カ

外務省

蘇側ノ発意ニ依ルカ如キ印象ヲ日本ニ與ヘザルコトヲ希冀スル旨
 答ヘタリ
 尙其ノ際「リ」外相ハ「スターリン」ニ對シ防共協定ハ根本的ニ
 ハ直接蘇聯ニ對スルモノニ非ズシテ西欧民主主義諸國ニ對スルモ
 ノナル旨語リタルニ「スターリン」ハ突厥右協定ニ依リ英ノ小商
 人共ハ大イニ脅カサレ居レリト述べタリ(一九三九年八月二十四
 日「リッペン」ト「ロツプ」)「スターリン」「モロトフ」會議ニ關ス
 ル「ベンケ」覚書)
 一方東京ニ於テハ独蘇不可侵條約締結ノ報ニ接シ八月二十五日五
 相會議ヲ開催シ独蘇不可侵條約ノ締結ニヨリ日独伊協定ノ交渉ハ
 自然全般的ニ打切リトナリタルモノト瞭解シ其ノ旨独伊兩國政府
 ニ申入レ方出先ニ調令セルカ右ト同時ニ大島ニ對シテハ更ニ今回
 ノ措置カ防共協定秘密附屬協定ニ對スル重大ナル違反ナル旨ヲ指
 摘シ右ニ就キ独政府ニ嚴重ナル抗議ヲ提出スル旨文書ヲ以テ正式

外務省

B-0057

ニ独働ニ申入レ方訓令セリ
 右訓令ニ接シタル大島ハ早速抗議文ヲ作成シ「リッペントロツア」
 外相差支エアリテ会見不能ナリシ爲「ワイッゼツカー」次官ヲ往
 訪)シテ右抗議文ヲ手交)セントセル処同次官ハ今独ハ独被交渉
 エテ種テ重大ナル困難ニ立チ居ルヲ以テ暫ク本件抗議文ノ提出猶
 予方懇願セリ仍テ大島トシテハ「二度モ直接「リ」外相ニ口頭
 フ以テ抗議セル事情モアリ一旦「ワ」次官ノ懇請ヲ容レテ抗議文
 ノ提出ヲ差控ヘ且ツ東京ニ対シ、本件ハ余リ他人行儀ノ抗議エテ
 現在彼ハ其ノ死活ニカカル重大危)機ニ直面シ居ル際ニモアリ其
 ノ結果ハ日独關係ニ重大ナル影響ヲ及スコト必然ナルヘント認メ
 ラルル旨電報セリ
 之ニ対シ平沼内閣ハ翌二十八日総辭職決行ニ先立テ、今回ノ如キ
 明白ナル協定違反ニ対シ云フヘキコトヲモ云ハズシテ放置スルハ
 好マシキコトニ非ズ本件正式抗議ト將來ノ日独關係ヲ如何ニスル

外務省

ヤノ問題トハ全然別問題ニシテ其弊自体ヨリ直ニ日本カ独ヲ疎外
 スルノ政策ヲ執ルモノトハ断ズルヲ得ズ、何レニセヨ現政府ハ独
 ノ協定違反ノ点ヲ後日ノ爲明確ニ爲シ置カントスルモノナル旨ヲ
 述ヘ重ネテ訓令執行方ヲ電報セリ
 斯テ平沼内閣ハ八月二十八日遂ニ五相會議七十數回ノ後「複雜怪
 奇」ノ言葉ヲ殘シテ總辭職スルニ至レリ
 其後大島ハ独ノ被領侵入一段落ヲ俟テ九月十八日正式ニ八月二
 十六日付本件抗議文ヲ提出セリ、右ニ關シ「ワイッゼツカー」
 次官ハ左ノ如ク述ヘ居レリ
 (伯林 一九三九年九月十八日)
 日本大使ハ本日本官ヨリ狀勢ニ付詳細聽取シ、武内ノ訪問ニ付
 語り、波蘭戰ノ進展ヲ賀シタル上最後ニ聊カ氣運レンツツ八月
 二十六日附封書ヲ取り出シ右ニ關シ左ノ如キ會議ヲ行ヘリ
 衆知ノ如ク本官ハ八月末大島ニ對シ被辭不可侵條約ト日独間ニ

外務省

B-0057

旨附言スヘシ彼ハ釈明、特ニ法律の性質ノ釈明ハ好マシクナク
 又時宜ニ適セズト思考シ居レリ
 最後ニ本官ハ大使ノ見解ハ未知ノ如ク我方ノ見解ト一致セズ本
 官トシテハ本件ハ既ニ最後的ニ終了セルモノト思考スル旨述ベ
 タリサレド本官ハ今尙大島カ本件ヲ何等カノ形ニテ正式ニ終結
 セシムルヲ彼ノ義務ト見做シ居ル事案ニ対シ極遠外務大臣ノ注
 意ヲ喚起スルノ用意アリ大島カ明ラカニ本件終結ノタメ眞
 ナル努力ヲ續ケツツアル以上本官トシテモ大島ニ対シ右覚書ノ
 研究ヲ拒絶スルハ不当ナリト思考セリ

署名 ワイツゼツカー

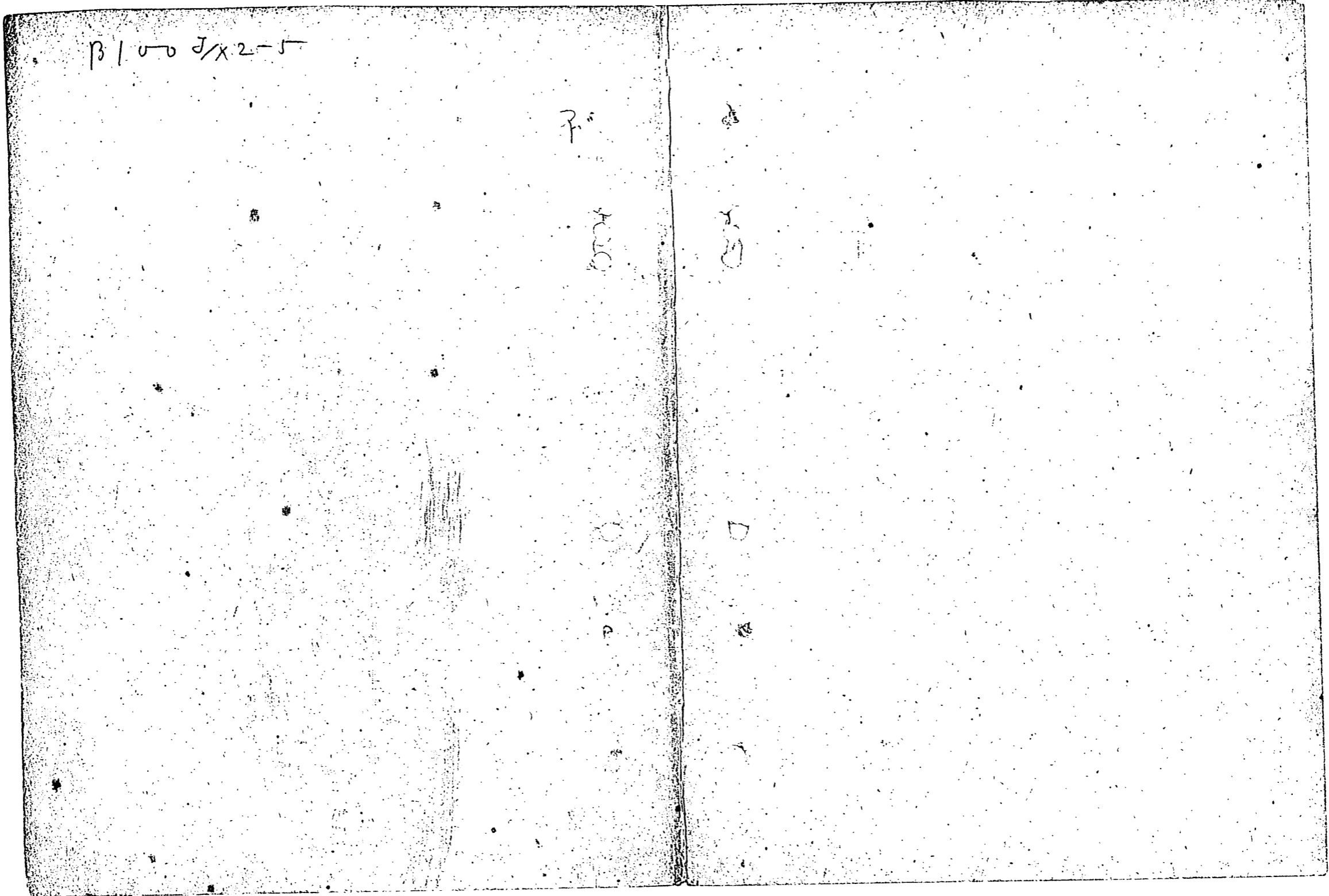
(極東國際軍事裁判檢察側文書)
 四〇五〇号法廷証五〇六号

外務省

於ケル秘密協定トノ矛盾ニ関シ日本政府ノ訓令ニ基ク嚴重抗議
 ヲ爲サザルヤウ説得セルカ、大島ハ当時ノ非常事態ニ於ケル極
 遠政府ニ対スル考慮ヨリ本官ノ忠告ニ從ヘリサレド政府ノ命令
 ニ正反對ノ行動ヲトルハ後トシテ不可能ナリシヲ以テ單ニ右命
 令ヲ遂行セル旨本國政府ニ打電セリ然乍ラ實際ハ大島ハ今日迄
 右措置ノ履行ヲ延期シタルナリ、其後彼ハ波蘭戰ノ終結ヲ待テ
 居タルカ最早現在ニ於テハ、殊ニ東京ヨリノ命令ヲ隨意軟化セ
 ルヲ以テ、右措置ハ左程重大ニハ非サルヘシト思考シ本官ニ対
 シ封書ノ覚書ヲ了知(「テイ・グ・ノート」)スル様要請セリ
 本官ハ右覚書ヲ一読セル処右ハ實際最早サシテ重要ナルモノニ
 ハ非ルカ、尙之ヲ公式ニハ非ズ單ニ個人的ニ「インフォメーシ
 ヨン」トシテ受領セリ大島ハ若シ近キ將來極遠外務大臣ト会見
 スルニ於テハ自ラ本件ヲ説明スベク望ミ居レリ其際大島ハ我方
 ノ判断ニ依リ本覚書ヲ我方公文書中ニ留メ置ク必要ナカルベキ

外務省

B-0057



B 100 J/X 2-5

7

5

5

5

5

B-0057

所謂防共協定強化問題ニ関スル有田前外務大臣手記
(曾注ヲ施セルモノ)

外務省

序

本書ハ所謂防共協定強化問題ニ関スル有田前外務大臣ノ手記ニ
対シ極東軍事裁判ニ於ケル大島被告ノ弁護團ニ於テ(内田、牛
場両氏)注ヲ施セルモノナリ、本書ノ中注トアルハ即之ナリ
昭和二十三年九月

総務局政務課長

外務省

B-0057

七月十九日
五相会議

昭和十三年九月初旬ニ外務省外交顧問ニナツタ時防共協定強化問題ニツイテ日独兩國間ニ非公式ナカラ或ル程度具体的ニ話合カ初メラレテヤルコトヲ知ツタ
事務当局ノ説明ニヨルト同年五月初メ陸海外三省事務当局ニ於テハ日独伊三國間政治的提携關係ノ強化ハ支那事變ノ迅速有利ナル處理上資スルトコロアルヘントノ見地カラ各別ニ之レガ研究ヲ始メ其結果トシテ七月十日ノ五相會議デハ
「独逸ニ対シテハ防共協定ノ精神ヲ補充シテ之レヲ對蘇軍事同盟ニ導キ伊太利ニ対シテハ主トシテ對英事變ニ利用シ得ル如ク秘密協定ヲ締結ス」
トノ方針ヲ決定シタ、ソコデ八月十二日ニ宇垣外務大臣カラ外務事務当局ノ立案ニ係ル日独相互援助條約案要綱及日伊中立及協防條約案要綱ヲ五相會議ニ提出シタトコロ板垣陸軍大臣ハ独逸側デハ日独伊三國ヲ一本ノ條約ヲ締ブ案ヲ考慮シテ居ルトノ情報カ有

外務省

ルカラ本件審議ハ之レヲ他日ニ譲リ度イト擧議シ一先ツ審議ハ延期セラレタ
ソウシテ居ル内ニ八月二十五日ニ宇垣外務大臣ハ独逸側カラ軍部ノ意圖ノヲ聞キニ來テ居ルト云フ案ヲ外務省ニ持ツテ來ラレ至急回答ノ要カ有ルカラ明日迄ニ之レニ對スル外務省ノ意見ヲ知り度イトノコトデアツタ、其ノ独逸側ノ案ナルモノハ(イ)締約國カ第三國ト外交上ノ困難ヲ生シタ場合ニハ各締約國ハ孰ルヘキ協同動作ニ關シ直チニ評議ヲ行フ(ロ)締約國カ第三國ヨリ脅威ヲ受ケタ場合ニハ右脅威ヲ排除スルタメ他ノ締約國ハ凡ユル政治的且ツ外交的ノ支援ヲ行フ義務アルコト(ハ)締約國カ第三國ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニハ他ノ締約國ハ之レニ對シ武力援助ヲ行フ義務アルコトノ三ヶ條ヨリ成ルモノデアル、外務事務當局ハ同日深更ニ至ルマテ研究審議ノ末独逸側ノ案ニ對シテハ前文ヲ附シテ協定カ防共協定ノ延長ニ過キササルコトヲ明カニスルコト及ビ本文ニツイテモ二三

外務省

B-0057

八月二十六日
ノ五相會議

ケルノ修正ヲ確スニ於テハ差当リ軍部限リノ意見トシテ独逸側ニ
回答スルモ差支ナカルヘシトノ結論ニ到達シテ依テ字通外務大臣
ハ外務省ノ意見ヲ持ツテ翌八月二十六日ノ五相會議ニ臨ミ右五相
會議テハ審議ノ結果(1)本件独逸案ナルモノハ正式ノ外交経路ニヨ
リテ帝國政府ニ達シタセノテ無イカラ外務大臣トシテハ之レヲ單
ナル情報ニ過ギザルモノトシテ懸キ置クコト(2)本件ハ速カニ在独
帝國大使ヲ通シ政府ノ正式交渉ニ移ス據陸海軍側ニ於テ措置スル
コト(3)本件提案ノ趣旨ニハ一定ノ條件附テハ陸海軍トシテノ同
意ヲ内示シ差支ナキモ案文ノ作製ニ當ツテハ慎重研究ノ上相當ノ
變更ヲナスコトヲ要ス(4)本件協定ハ飽ク迄防共協定ノ延長ニシテ
右趣旨ヲ逸脱スヘカラス等ノ諒解ノ下ニ独逸側提案ニ對シ外務省
側意見ニ基キタル或種ノ修正ヲ加ヘ五相會議決定トシテ之レヲ採
擇シタル⁽⁵⁾ソウシテ此趣旨ハ字通外務大臣ヨリ内奏セラレ又出先陸
海軍武官ニ對シテハ陸海軍次官ヨリ軍部ノ内意トシテ以上ノコト

外務省

(注) 独側提案ノ対象ハ明瞭ニ普遍的ノモノニシテ對「ソ」ト
限定シ非ズ、防共協定ノ延長ナリト称シテ此ノ案ヲ承認
セル所ニ矛盾アリ、陸海外相各々主観的ニ之ヲ解釈シ敢
テ論議ヲ重ネザリシ所ニ將來ノ禍痕ヲ生ゼリ

自ラ「イ」ニシアチ「ブ」ヲトツタモノナラ熱心ニナルモ
先方ノ提案ナラバ熱心ニナラズト云フ思想ニシテ協定締
結ノ必要ト云フコトヨリモ之レヲ繼母的冷キ眼ヲ以テ取
扱ヒタル傾アリ

外務省

B-0057

7
ガ電報セラレタ答又三十一日外務大臣カラモ東郷大使ニ電報セ
ラレタ(堀内外務次官ガ字垣外務大臣ヨリ聞キ得タルトコロ及十
一月末ノ五相會議ニ於テ當時独逸ヨリ帰朝シタル笠原少將ヨリ直
接聴取シタルトコロ等ヲ綜合スルニ元來日独伊三國同盟ノ話ハ独
逸側ノ発意ニ基クモノデハナクシテ突ハ大島武官ヨリ一リツペン
トロッフ」外相ニ最初申出テタモノトノコトデアアル即チ十三年一
二月ノ交伯林ニ於テ日独防共協定強化ノ話ヲ大島一リツペン
ト」聞ニシテ屠々際大島武官ノ方カラ三國同盟ノ考方(必ズシ
テ防共協定ノ延長ト云ヒ得ナイ)ヲ持出シタトコロガ「リツペン」
ハ數日ノ猶子ヲ乞ヒ「ピトフ」ニ相談ノ上ニテ大島ノ考方ニ開
意ヲ表明シ其後其ノ考方ノ基礎ノ上ニ双方案ヲ練タル結果七月ニ
入りテ独逸側提案トシテ公ニ日本側ニ示サレタモノノ由デアアル如
此当初ハ独逸側ノ案ト思ハレテ屠々モノヲ突ハ日本側ノ「イニシ
アチーブ」ニ基クモノデアアルガ大島ガ一武官トシテ單

外務省

8
独ニ如此重大ナル示唆ヲ独逸側ニシタモノデアロウカソレトモ中
央陸軍部ノ許可ヲ得或ハ其ノ指図ニヨツテ爲サレタモノデアロウ
カ何レニシテモ此舉ハ其後本件ヲ覆リテ幾多ノ紛糾ヲ生シタ其ノ
不可解ノ事象ヲ解釈スルニツキ有力ナル材料ト云フベキデアロウ)
八月二十六日ノ五相會議決定ガアツテカラ外務省當局ハ独逸側カ
ラ正式ノ提案ノアツタ場合ニ処スルモノ日本政府案ノ作成ニ取リ
掛リ略々成案ヲ得タノテ陸、海ノ事務當局ニ連絡シテ聞モナク第
一回ノ協議会ヲ開イタノデアツタガ軍部當局デハ、外務省作成ノ案
ハ重大ナク、誤解ニ基イテ立案セフレタモノトナシ、以來外務省側カラ
ハ督促ニ拘ラズ協議会ヲ開ヌウトシナカッタ(重大ナク誤解トハ何
ヲ対象トシテ英佛ヲ含ムカ否カノ点ナラン)(注)
以上ノ内或ル部分ハ自分ガ外交顧問兼任機關モナク聞キ得タルト
コロデアツタ、當時自分ハ大島武官ガ軍部ノ内意(八月二十六日
ノ決定)ヲ聞クト同時ニ政府ノ訓令ヲ持タナイテ独逸側ニ対シテ

外務省

B-0057

ノ

(注) 既ニ此ノ時重大ナル誤解ヲ生ジアリ、字通外相ノ二枚舌カ
此ノ因ヲ爲ス

外
務
省

9

B-0057

交渉ヲ開始スルヤウナコトハナカロウカト心配シタ、ソレニハ自
分トシテ相当ノ理由モアツタ政府案ノ確定前ニ仮令五相會議決定
トハ云ヘ尙充分ノ推敲ヲ要スル未熟ナ案ニ基イテ交渉ヲ開始スル
コトハ非常ナ誤解ノ基ヲ作り後日取り返シノツカヌコトナツテ
ハ大變ダト思ツタカフ同僚佐藤顧問ヲ通シテ宇垣外務大臣ニ
シ陸軍大臣カラ大島武官ニ正式訓令アルマデ交渉ハ進メルナト云
フコトヲ電報セシメヨウトシタ然シ結局陸軍大臣カラハ此点ニツ
イテハ何等電示セラレナカツタコトヲ後日ニ至ツテ承知シタノデ
アツタ

外交
カ月下旬顧問ヲ辭シタガ十月末ニ外務大臣ニ就任スルコトニナ
ツタノデ予テ心配ニナツテ居タ本件其後ノ経過ヲ眞ツ先キニ事務
當局ニ聞イテ見タノテアツタソノ云フトコロニヨレバ外務側カラ
ノ督促ニ拘ラス陸海軍側デハ依然トシテ政府案ノ審議ニ應ジナイ
トノコトデアツタ

外務省

当時自分ノ直感シタトコロデハ案ノ如ク重大ナル意見ノ相違ヲ誤
解カガ本件ヲ廻リテ存在スルノデハナイカト云フコトデアツタソ
コデ宇垣前外務大臣(堀田大使ヲ使者トシテ)ノ諒解シテ居ルト
コロヲ聞イテ見タトコロガ五相會議ノ決定ハ防共協定強化デアツ
テ蘇聯以外ノモノヲ対象トスルコトハ毛頭考ヘテ居ナカツタシ又
其ノ主旨デ内奏モシテアルトノコトデアリ近衛總理、米内海軍、
池田大藏ノ各大臣モ亦明白ニ蘇聯ヲ対象トスル防共ノ強化デアツ
テ英佛等ヲ対象トスルモノデハ決シテ無イトノコトデアツタ、只
解ラヌノハ板垣陸軍大臣ガ如何ニ考ヘテ居ルカト云フコトデアツ
タガ自分ハ陸軍大臣ニ之レヲ確メル時期ト方法トニハ慎重ナ態度
ヲ執ツタ

大島陸軍武官ハ十月下旬東郷大使ニ代ツテ駐独大使トナリ(大使
更迭ノコトハ宇垣外務大臣當時決定発令セラレタノダ)十一月ニ
入ルヤ同大使ヨリ独逸側ノ非公式提案(條約文ノ形式ノモノ)ヲ

外務省

B-0057

十一月十一日
五相会議

取次イテ來タノテアツタガ十一月十一日ノ五相會議ニ於テ板垣陸
祐ヨリ独逸獨提案ニ對シ速カニ日本政府案ヲ決定シタイト云フコ
トヲ提議シタ(陸海軍殊ニ陸軍側ガ本件政府案ヲ早日ニ承認セン
トシタ外務省ノ申出ヲ拒否シテ居ルノハ根本的ノ誤解ノ存在ト云
フコトカラテモ有ツタテアロウガ邪推ヲスレバ當時政府ノ空氣必
ズシモ陸軍側ニ有利ナラザルモノガ有ツタニ願ミ陸軍側ノ誤使ニ
甘ンズル大島武官ヲ大使ニ昇任セシメ其ノ手ヲ交渉セシムルニ如
カズト考ヘ大使更迭ノ計畫ガ實現セラルノヲ待ツタメデアツタト
モ見ラレヌコトハナイ大島大使ノ任命ハ宇垣大臣ノ時デアルガ此
ノ人學ガ如何ニ三國同盟問題ヲ紛糾セシメタルコトカ)ソコデ自
分ハ此ノ機會ニ於テ予テ疑問トシテ居ル陸軍大臣ノ本件ニ對スル
根本ノ態度ヲ確メ置カンモノト思ヒ一日本政府案ヲ速カニ承認決
定スルコトノ必要ハ外務省トシテ夙ニ之レヲ認メテ居ルノデアリ
二十六日ノ五相會議以後屢々陸海軍事務當局ニ集會ヲ求メタケレ

外務省

ドモ只一回ノ會合ガ有ツタノミテ其後ハ陸海軍ノ方テ會合ニ應ゼ
ズシテ今日ニ至ツテ居ルノデアルカラ陸軍大臣ノ提案ニハ自分ト
シテ固ヨリ何等異議ナシ只自分ノ就任後五相會議ヲ本問題ガ論議
セラルルノハ初メテデアルカラ將來ノ誤解ヲ防クタメ問題トナツ
テ居ル協定ノ性質ニツイテ明確ニシテ置キタイト思フ自分ノ宇垣
外務大臣等ヨリ開イテ居ルトコロデアハ本協定ハ防共協定ノ強化ヲ
アリ蘇聯ヲ對象トスルガ英佛等ヲ對象トスルモノデナイトコト
デアアルガ左様誤解シテ差支ナキヤト述ベタトコロガ池田、米内
ノ兩大臣ハ即座ニ其ノ通り間違ヒナシト答ヘ近衛總理モ亦自分モ
其ノ通り諒解シ居レリトコトデアツタ、ソコデ自分ハ尙ホ誤ツ
テ居ル板垣陸軍大臣ニ對シ其ノ所見ヲ求メタトコロガ自分モ其ノ
通りト諒解シテ居ルガ例ハ佛蘭西ガ赤化シタ場合ニハ此ノ
協定ノ對象トナルモノナラントノコトナリシニツキ自分ヲ初メ其
他ノ各大臣ヨリ其レハ其ノ通りナリト答ヘタ(注)

外務省

B-0057

13

(注) 協定ハ「コメンテール」ガ対象カ「副」ガ対象カ、「佛蘭
西カ赤化」云々ト諒解セリト云フ板垣モ板垣ナルモ又之ニ
同意スル他ノ閣僚モ馬鹿ナリ

外務省

B-0057

（白鳥二十二日二十
九日ロマニ着シ翌
年一月十日信任状ヲ
捧呈シタ）

此會議ニ於テハ結局八月二十六日五相會議ヲ決定シタ一本件協定
ハ飽ク迄防共協定ノ延長ニシテ右趣旨ヲ逸脱スヘカラストノ諒
解ヲ再確認シ本協定ハ蘇聯ニ対スルヲ主トシ英佛等ノミニテハ対
象トナルモノニ非ズトノ趣旨ヲ明確ニシタノデアツタ
自分ガ予テ非常ニ危懼シテ居タ本件協定ノ性質ニツイテハ此ノ
日ノ會議ノ結果トシテ五相トモ同一ノ意見デアアルコトヲ発見スル
ト同時ニ八月二十六日五相會議ノ諒解ヲ再確認スルコトニナツタ
ノテ非常ニ安心ヲシタ、ソコデ右ノ次第ヲ速カニ出先キニ知ラセ
テ置クコトガ何ヨリモ必要デアアルト考ヘテ外務省ヘ蘇ルヤ否ヤ在
独伊大使ニ打電方ヲ命ジタノデアツタ
宇垣外務大臣ノ時駐伊大使ヲ更迭シテ新ニ白鳥ヲ派遣スルコトニ
決定シ九月二十二日任命ヲ済シテ居タガ同大使ハ十一月二十二日
出發赴任シタ

外務省

相會議ノ決定中英佛等ノミテハ対象トナルモノニアラストノ点ハ
同大使ガ武官時代陸軍ヨリ接受セル累次ノ電報ト相違スルコト大
ナル諒解メラルルガ如キ主要國策ガ僅カ二三ヶ月ヲ變更サレ
ルトハ全ク諒解スルコトガ出来ヌトテ反対意見ヲ上申シテ來タノ
テ外務省デハ一本件ニ關スル國策ハ終始一貫防共ニ限定セラレ居
リ何等變ノ更セラレタルニアラス擬ニ調令シタル案ニテキ英佛等
ニ対シ大ナル諒解ミヲ利カシ有効ナル政治的効果ヲ收メウベシト
ノ趣旨ノ回電案ヲ起草シ之レヲ十二月初旬ノ五相會議ニ附議シタ
トコロガ板垣陸軍大臣ハ八月二十六日ノ五相會議ノ決定ハ蘇聯
ヲ主トスルモノ從トシテハ英佛ヲモ対象トスル主旨デアツテ蘇聯以
外ニ対スルモノヲ除外スルモノテハ十一月十一日ノ五相會議
ノ決定モ其ノ主旨ダト主張シタノテ陸軍大臣以外ノ各大臣ハ專
ノ意外ニ驚キツツテ交々陸軍大臣ノ主張ノ誤リナルコトヲ強ク主
張シタ然シ陸軍大臣ハ其ノ所説ヲ繰リ返スノミテ一向要領ヲ得ナ

外務省

B-0057

カッタノテ困惑セル空氣ノ下ニ当日ノ五相會議ヲ閉ヂタノデアツ
タ、自分ノ予ネ々々心配シテ居タ事ガ儼然表面化スルニ至ツタノ
デアアル

一体ドウ云フ訳ヲ如此場面ガ展開スルニ至ツタノデアロウカト云
フニ自分ノ想像スルトコロデハ

(イ)陸軍ヲハ少クトモ十三年ノ春頃カラ防共協定強化問題ニツキ大
島武官ヲシテ独逸側ニ接触セシメテ同タトコロガ独逸側カラハ
同盟ノ対象ヲ蘇聯ニ限ラス英)佛ヲモ含メヤウトノ対象ヲ出シ
テ來テ出先テハ独逸側ノ対象ヲ容レテ話ヲ進メテ來テ同タト想
像サレルコト即チ出先テハ独逸側ト大島武官トノ間ニハ政府内
部ニ於ケル話合ニ先テ又政府内部テ話合ガ初マツテカラモ其ノ
話合トハ別ニ英佛蘇ヲ対象トシタ同盟ト云フ話ガ勿論非公式デ
ハアルガダンダン進ンテ同タト想像サレル(注)

(ロ)所謂独逸側ノ提案ガ日本ニ傳達セラレタ頃(八月ダツタト云フ)

外務省

(注)此ノ話合ヲスル爲大島ハ軍部ヲ通シテ政府ノ内意ヲ確メハ
八月二十六日五相會議決定ニ基ク「政府モ同意」ナルコトヲ
承知シテ内交渉ヲ開始セルモノナリ勝手ニ話合ヒテ進メタ
ルモノニハ絶対ニ非ズ

外務省

B-0057

(英系文の脱意)

陸軍大臣ハ一タ星岡茶寮ニ於テ海軍大臣ニ對シ陸軍側ノ意見ニ賛成シテ独逸ノ側ノ提案ニ同意ヲ表センコトヲ求メ(海軍大臣ハ當時明白ニ其ノ考方ノ適當ナラサルコトヲ切言シタリト云フタ程デアル)

(一)八月二十六日ノ五相會議ニテ、防共協定ノ延長ニ外ナラサルコトガ明カニセラレテ決議トナリタルモノナルモ此決議ノ主旨ガ明白ニ下僚ニ傳ヘラレザリシ形跡アルコト(尤モ決議及案文自体ニモ後ニナツテ見レハ異ツテ解釈ヲナサシムル余地ガ存シテ居ツタ様デアアル)

(二)會議ノ決定ヲ出先ニ電報シタル陸海軍次官ノ電報ノ考方ニモ多少不明瞭ト云ヘハ云ヒウル点アリタルコト

(三)八月初旬独逸側提案ヲ笠原補佐官ガ持ツテ帶朝シタル際、速早ク宇垣外務大臣(網成關係アリトカ)ニ報告シタルニ岡大臣ハ独逸側案ニ異議ノ無イヤウナ口吻ヲ洩シタト云フ事實モアリテ笠

外務省

独逸三國同盟條約案ヲ提出ス(十一月)

原武官ガ再ビ独逸ニ短任シタル節、日本政府ニハ異議無キ旨ヲ大島武官ニ報告シタリトノコト

ソレハ兎ニ角板垣陸軍大臣ガ十一月十一日ノ五相會議ヲ確認シタル方針ニ異議ヲ申立テタル結果並ニ五相會議決定ト異ツテ意味ヲ大島大使ガ独逸側ニ説明シテ居ルコトガ判明スルニ達レ政府ハ一且決定シタ方針ヲ陸軍側意見ハ如ク變更スルカゾレトモ陸軍側ヲ説得シ出先大使ヲシテ独逸側ニ對シ其ノ説明ヲ訂正セシムルカハ伺レカヲ選バザルヲ得ナイコトニハツタソコヤ五相會議ハ開催困難ノ状態ニ陥リ政局不安ヲサヘ招來スルヤウニナツタガ結局此ノ回電案ハ年内ニハ決定セラレズニ新年ニ持テ達サレタガ此頃独逸ヨリハ非公式デアアルガ三國同盟條約案文ヲ日本側ニ傳ヘテ來タソレハ政府ガ義ニ大島武官等ニ電報シタトコロヲ土台トシタモノデハ有ルガ其レ以外ノ点ヲ主要ナコトハ單獨不講和ヲ條文中ニ加フルコトノ期限ヲ十年トスルコト、外務大臣會議ヲ常設スルコト、

外務省

B-0057

宣傳ノ爲メノ委員会ヲ設クコト等ヲアル當時外務省トシテ独逸案
 ニ俄カニ賛同シ舞ヲルト思ツタ点ハ單独不講和ノコトヲ條文ニ挿
 入スルコト、期限ヲ十年トスルコト、外務大臣會議ヲ常設スルコ
 ト等ヲアルガ最モ難点トシタノハ本協約ノ対象ヲ日本デハ蘇聯ニ
 限ラントシテ居ルニ反シ独逸獨チハ蘇聯ノ外英佛等ヲモ之レニ含
 マシムルコトニ諒解シテ此ニ案文ヲ作成シテ居ルト思ハル点デ
 アツタノデアル
 如此狀勢ノ下ニ近衛内閣ハ遂ニ一月三日ヲ以テ總辭職シ平沼内閣
 ノ成立ヲ見ルニ至リ自分ハ陸海軍大臣ト共ニ留任スルコトナツ
 タノデアル近衛公ハソノ辭職ノ弁ニ於テ一今ヤ事變ハ新段階ニ入
 リ、東洋水境ハ平和ヲ確保スベキ新秩序ハ建設ニ向ツテ主カヲ注
 ベキ時機ニ到達シマシムルニ此ハ新ハル事變ニ処スル爲メニハ
 新ハル内閣ハ下ニ新ハル庶政ハ構想工夫ヲ運ラシ以テ民心ハ一
 新ヲ図ルコトハ必要ナルヲ確信スルモノデアリマス然モ事變ニ相

外務省

平沼内閣

スベキ帝制不動ノ方針ハ露キニ畏クモ現斷ヲ仰イテ確立セラレテ
 居ルノデアリマス云々」ト云ツテ居ル然シ支那事變ノ責任ヲ漸感
 シテキル等ノ近衛公トシテハ事變ニ處ベキ帝制不動ノ方針ヲ確立
 セラレ汪兆銘トノ和平ノ話ヲ進シテキタアノ際辭職ナドトハ以ツ
 テノ外ノコトデ一段ノ勇氣ヲ振ヒ起シ身ヲ挺シテ事變ノ解決ニ當
 ルベキデアツタノデアル近衛公辭職ノ弁ハ全ク詭弁ヲ辭職ノ眞ノ
 原因ハ陸軍ノ三廳同盟主張ニ恐レヲナシタモノトイハネバナラナ
 イ
 一月二日平沼氏ニ組閣ノ大命下ルヤ同夜十二時平沼男ハ組閣本部
 ニ自分ノ來訪ヲ求メ其ノ留任ヲ求メラレタ其ノ際自分ヨリ所謂防
 共協定強化問題ナル困難ナ問題ノ存在ヲ告ゲ之レニ關スル閣内ノ
 意見ヲ求メタルニ同男ハ「此際トシテハ対象ハ之レヲ蘇聯ニ限
 ルベキモノニシテ英佛ヲ対象トスルガ如キハ適當ナリト思考セズ
 自分ハ(平沼男)此方針ノ下ニ善處シ若シ其考漏リニ行カヌコト

外務省

B-0057

37

アリトスレバ其ノ時ハ共ニ辭職スルヨリ外ナカルベシトテ自分ノ協力ヲ求メラレタ依テ自分トシテハ平沼男ノ決心如此シトスレバ留任シテ國家ノ爲メ最善ヲ盡スベキモノナリト信ジ留任快諾ヲ返答シタノデアツタ、独逸編ハ十四年一月初旬ニ至リ三國同盟案文ヲ正式ニ提議シテ來タ

如此狀況ニ立至ツタノテ本件ヲ如何ニ措置スヘキカハ自分トシテ一方ナラズ苦慮スルトコロデアツタ、陸軍編同盟意見ノ中心カ陸軍省參謀本部ノ中堅層ニアルコトハ疑無イトコロデアアルノテ直接之等ト面談シテ自分ノ意見モ述ヘ彼等ノ意見モ充分聴取シ其間何等カノ打開策ヲ発見シヨウトシタ、ソコデ一月十一、十三、十四ノ三夜ニ且リ陸軍省ノ影佐軍務課長、岩畔軍事課員參謀本部ノ稻田作戰課長、辰巳歐米課長ヲ官邸ニ招キ忌憚ナキ意見ノ交換ヲ行ツタ、自分ノ強化問題ニ對スル意見ハドウカト云ヘバ現在ノ日本トシテハ蘇聯對象以外ノ軍事同盟ハ不可、少クトモ時機尙早ヤ

外務省

一月十九日ノ五相會議
(新方針)

依ツテ一月十九日ノ五相會議ニ於テ陸軍大臣ヨリノ提案ニ對シテハ海軍大臣等ト共ニ之レニ反對シ意見對立シテ打開ノ途ニ窮シタル頃合ヒヲ見計セ前記(イ)ヲ秘密了解事項トシテ之レニ附加スルニ於テハ此場合自分トシテハ反對ヲ固執セザルヘキ旨ヲ述ヘタルニ各大臣トモ之レニ賛成シタノデアアル即チ當日ノ五相會議ヲ決定セラレタコトハ(イ)蘇聯ヲ主タル對象トスルモ狀況ニヨリ英佛等ヲモ對象トスルコトアルヘシ(ロ)武力援助ハ蘇聯ガ對象ノ時ハ之レヲ行フコト勿論ナルモ英佛等對象ノ時ハ之レヲ行フヤ否ヤ其程度ハ一ニ狀況ニ依ル(ハ)外部ニ對シテハ防共協定ノ延長ナリト説明スルコト(ニ)而シテ(ロ)ハ之レヲ秘密諒解事項トシテ協定ニ附屬セシムルコトト云フコトニナツタノデアアル

五相會議ニ於テ自分ノ提案ガ容ラレルト同時ニ自分ヨリ政府ノ方針ニ變更ヲ加ヘタルハ與ニ已ムヲ得ザル事情ニ基クモノヲ推選側ニ於テ如何ニ之レ以上ノ譲歩ヲ求メ來ルコトアリトモ普滿ノ

外務省

B-0057

伊藤公使一行ノ伯
林派遣(二月下旬出
發)
三月四日ノ大島、白
鳥兩大使ノ電報

場合ト異リ之レ以上ノ變更カ許サレザル國內事情アル次第ナルガ
此辺ノ事情ハ出先大使ニ對シ電報等テハ到底徹底セシメ難イカラ
特使ヲ派シテ親シク之レヲ説明諒解セシムルコトノ絶対必要ナル
コトヲ述ヘ之レ亦各大臣ノ贊成ヲ得タ、特使トシテハ外務ヨリ伊
藤公使陸軍ヨリ辰巳大佐海軍ヨリ阿部少將ヲ派遣スルコトト
ナリ一行ハ一月下旬東京ヲ出發二月下旬伯林ニ到着シテ訓令ヲ手
交スルト同時ニ政府ノ意圖等詳細ニ之レヲ傳ヘタノテアルガ兩大
使ハ三月四日連名テ訓令附屬ノ條約案文中秘密了解事項ヲ削除セ
ザル限リ独伊側ハ到底受諾ハセズ右訓令ヲ取次クコトハ何分ニモ
良心ノ許サナイトコロデアルトシテ政府ノ再考ヲ求メテ來タ
外務省チハ兩大使ノ申出ハ今更再考ノ余地ハ無イカラ其ノ主張ニ
對シ逐條的ニ説明ヲ加ヘ今次訓令ハ諸般ノ事情ヨリ之レヲ改竄ス
ルコトハ絶対不可能ナル計リテ無ク右案ニテモ独伊側ヲシテ受諾
セシメウルモノト考フル次第ヲ續述シテ訓令執行方ヲ申渡ルヘシ

外務省

二月十三日ノ五
相會議

トノ意見デアツタノチ其ノ趣旨ノ訓令案ヲ三月十三日ノ五相會議
ニ掛クタノデアツタ然ルニ陸海兩大臣ハ一月十九日ノ決定方針ハ
之レヲ動かシエザルノミナラズ已ニ右ノ方針ニヨツテ交渉スヘキ
旨訓令シテアルノデアルカラ兎ニ角一應先方ニ交渉スルコトハ絶
對ニ必要デアルケレドモ兩大使ノ申出モアルコトデアアルカラ独伊
側ニ於テ我方提案ニ應ゼザル場合ノ妥協案ヲモ此際考慮シテ併セ
テ訓令シテヤルコト然ルヘントノ意見ヲ述ヘタ、之レニ對シ自分
ハ一月十日日ノ決定ハ其當時五相會議ニ於テモ之レヲ述ヘ伊藤公
使携行ノ訓令中ニモ詳述シテアル通り特種ノ狀況ノ下ニ作成セラ
レタモノデアアルカラ妥協案ト云フ様ナモノヲ考ヘル余地ナク何等
カ別ニ案ヲ考ヘルトスレバ其レハ一月十九日ノ決定ヲ變更スルニ
外ナラヌト云フコトヲ述ヘ当初ノ如ク我方針ニテ押シテ行ク様兩
大使ニ訓令スルコト外ナシト主張シタルガ兩大臣ハ已定方針ハ輕
輕シク之レヲ變更スルコトヲエナイガ先方ノ希望ニモ副フ様何等

外務省

B-0057

三月二十二日ノ五
相会議(妥協案)

ガ一月十日ノ五相會議決定ニヨリテ變更ヲ余義ナクセラレテ不
満ヲ感ジテ居タトコロハ兩大使カラ強硬ナル反對意見(此ノ反對
意見ハ東京ノ空氣、氣持ガ出先ニ通セラレ出先ノ意見トシテ東京
ニ舞ヒ戻ツタトモ邪推スレハ出来ヌコトモナイ)ガ上申サレテ來
タノテ此機會ニ出來ウレバ一月十九日ノ決定ヲ議ヘシテ之レヲ其
ノ以前ノ狀態ニ還元セント企テテ居タト思ハレル又海軍デハ上層
ノ意見ニ係ラズ課長以下ノトコロニハ程度コソ異レ陸軍側ト感ジ
テ同ジクシテ居ル向モアツタ様テ外務省側ノ主張ハ中々ニ受ケ入
レラレナイ狀況ニアツタト云ヘル

コウ云フ狀勢ノ下ニ五相會議ハ三月二十二日午後八時カラ開催セ
ラレ翌朝午前零時半迄繼續セラレ陸海軍大臣ヨリ提出サレタ妥協
案ニツイテ種々論議ガ戰ハサレタ自分ハ如此妥協案ガ何レモ決定
方針ヲ多カレ少カレ變更スルノ結果トナルモノダト云ツテ力爭シ
タケレドモ容レラレズ遂ニ「先般ノ訓令ヲ執行シテ他伊ガ之レニ

外務省

納得セザリシ場合」ニ於テ提出スル妥協案トシテ秘密了解事項第
一及第二ニツイテソレソレ(A)案ヲ採用シタ

了解事項第一ニツキ

(A)ハ外務省案ニテ伊太利ノ參戰義務免除ヲ秘密諒解事項ニ附スル
案

(B)ハ陸軍案ヲ了解事項第一ヲ削除シ其ノ代リニ武力援助ノ義務ハ
認メルガ現在及近キ將來ニ於テハ有教ニ實施シエサルコトヲ明
カニスル案

了解事項第二ニツキ

(A)了解事項第二ヲ削除シ其ノ代リ協定全部ヲ秘密トスル案

(B)海軍案ヲ了解事項第二ヲ一條約ハ條約文通りナルモ現在ノ世界
情勢ニ於テ帝國ニ實際脅威ヲ與ヘツツアルモノハ共產一インター
ナショナルノ破壞工作ナルヲ以テ帝國ノ關スル限り右以外ハ
協定ノ対象トシテ念頭ニ置キ得ラズ」ト改メムトスル案

外務省

B-0057

白鳥ノ「チアノ」ニ對スル言明(四月一日)

(止ムヲ得ザル事情ニ出タモノダトハ云ヘ右妥協案ハ内容的ニモ
實ニ馬鹿々々シイモノデアアルバカリチ無ク如此妥協案ヲ容レタ
コトハ軍部殊ニ陸軍ニ引キズラレル第一歩トナツタノデアアル
兩大使ハ右妥協案ハ訓令ヲ以テ政府ガ特使携行ハ方針ニ根本的變
改ヲ加ヘタルモノトシ又何ハ措キテモ條約ハ成立ヲ絶対必要トシ
之レカ爲メニハ難キヲ忍ビ程々讓歩ヲモ許セザルハ趣旨ナリト解
シ折衝ハ)順序及方法ハ出先ニ一任アリト電請スルト同時ニ
直チニ自己ハ順序方法ニヨツテ交渉ヲ開始シタ即チ兩大使ハ秘密
了解事項ノ存在ヲ明示セズ之等了解事項ヲ除キタル我方條約案文
ヲ独伊側ニ提示シ白鳥大使ハ四月二日「チアノ」外相ノ「本條約
ヲ作ルニ當リ日本政府ニ於テ心理留保ヲ有セラルルヤ即チ万一歐
洲ニ戰爭勃発ノ場合日本ハ独伊ノ側ニ立チテ戰爭ニ參加スルノ決
意アリヤ」トノ質問ニ對シ政府ノ新訓令ヲ熟讀玩味シタル結果實
任ヲ以テ判然答フヘシトナ一独伊カ英佛ト戰爭スル場合日本ハ此

外務省

本島ノ「リッペン」ト
乙ニ對スル言明
(四月三日)

條約ハ條約ニ基キテ独伊側ニ立チテ戰爭ニ參加スルコト勿論ナリ
ト言明シ又大島大使ハ同日「リッペン」外相ノ日本案
ハ「締約國ニ對シ第三國ノ攻撃アリタル場合他ノ締約國ハ參戰ノ
義務ヲ負フモノナリト了解セルカ其ノ通りナリヤ」トノ質問ニ對
シ「兵力援助ノ範圍方法ハ場合ニヨリ異ルコト勿論ナルモ參戰ノ
義務ニ關シテハ實見ノ通り」ナリト言明シタ即チ兩大使ハ本省
ノ訓令ヲ勝手ニ曲解シ其ノ執行ヲ独斷專行シタノデアアル
独逸側)テハ一月初旬独逸側案ヲ正式提出シタコトハ既記ノ通り
デアアルノミナラズ四月初旬我方案ヲ提示スルヤ(兩大使ハ秘密諒
解事項ヲ先方ニ隱蔽シ居リタル故独逸側テハ当初ハ條文ノミダト
諒解シテ居タ)右ニ對シ種々ノ意見ヲ提出シテ居タノデアアルガ其
後秘密了解ノ存在ヲ知ルニ及ンテ其ノ態度ヲ一變シ自己ノ提出シ
居リタル案ヲ撤回スルノミナラズ日本側案ニ對スル種々ノ意見モ
之レヲ引キ込メ「ヒトラー」總統ノ裁斷ト云フコトヲ我方條約案

外務省

B-0057

13

21

(注) 之カ勝手ナ曲解カ否カカ大問題ナリ、参戦ノ義務ヲ貢フコ
 トト参戦スルコトトハ別
 義務ヲ貢ハズエ條約ヲ作ラントスルハ矛盾ナリ

外務省

3/

B-0057

0238

外務省ノ主張

文ヲ大体ニ於テ編香ミトシ伊側ヲ打合セノ結果日本案ヲ受諾スル旨ハ日 日兩大使ニ正式回答シテ來タ、ソウシテ兩大使カラハ独伊側ノ如此態度ニ顧ミテ秘密了解事項ヲ一ドロッパシ直チニ條約ノ成立ヲ計ルベキデアルト進言シテ來タ(日本側ノ出先ト独逸側トノ相談ニ基ク東京ヘノ攻勢ト見ル者カ有ツナモ彼方無イヤウナ狀況)

外務省トシテハ了解事項ナシノ條約成立ハ政府ノ方針ニ反スルモノニシテ到底容認シ難シトナスト同時ニ兩大使ハ独伊側ニ對スル參戰云々ハ言明ハ明カニ政府訓令ハ範圍ヲ逸脱スルモノハデアルトハシ此点ヲ是正スル機兩大使ニ訓令方ヲ主張シカハデアアルカ陸軍側ハ右ハ兩大使ヲシテ憤激セシムルモノデアアルシ又兩大使ノ云ヒ過ギナルコト勿論ナルモノ且帝國ヲ代表スル大使トシテ言明ヲナシタル以上政府トシテハ之レカ尻拭ヒヲシテヤラナクレバナラズト主張シ海軍事務當局モ大体之レヲ支持シ三省間ノ話合容易ニ察

外務省

四月八日ノ五相會議(兩大使ノ言明ヲ閣接ニ取消サンムル案)

ラズ如此シテ四月八日五相會議ヲ開クニ至ツタノデアアルカ種々論議ノ末參戰ノ意義ヲ当方限リ極メテ廣義ニ解シ兩大使ノ言明ヲ閣接ニ取消ス趣旨ノ回電案(此考方ハ陸軍側ノ提案)採擇サレ同日之レヲ發電シタノデアアル

(大使ノ訓令違反ヲ戒諭スルコトモ出來ナイヤウナコトハ突ニ慨歎ニ堪ヘナイトコロデ我レ作ラ不甲斐ナサヲ痛感スル電訓令中ニアアル參戰ノ意義ニ至ツテハ窮シタリト云フヘシデアアル)

右訓令ハ一帝國ノ重キヲ置ク所ハ秘密了解事項ニ掲ゲタル二点ニシテ殊ニ武力援助ニ付テハ蘇聯ヲ相手トスル場合相互ニ全幅的援助ヲナスコトハ勿論ナルモノ他ノ第三國ヲ対象トスル場合ニ於テハ條約文ノ趣旨ハ武力援助ヲ行フ原則トスルモノ帝國諸般ノ情勢ヨリ見テ現在及近キ將來有效ニ之ヲ實施スルコトヲ得ズ(独伊側カ希望ヲ表明セル東洋ニ於ケル英佛ノ兵力ノ処分ノ如キ現在及近キ將來之ヲ實行シ得ザル事情ナリ)トノ点ニ關シ独伊側ニ理解ヲ

外務省

B-0057

抱カシメ後日我方カ兩國ヲ欺キタルカ如キ結果トナルコトヲ未然ニ避ケントスルモノナレバ是非右ノ点ヲ先方ニ徹底セシメ之ヲ何等カノ文書トシテ置カントスルニアリ然レドモ兩大使ニ於テ參戰云々ヲ言明セム以上其ノ意義ニ付誤解ナカラシメ置クコト必要ナリ就テハ帝師ハ參戰トハ協定第二條ノ「支持」及第三條ノ「助力及援助」ヲナスコトヲ意味シ且第三條ノ「助力及援助」ノ内武力援助ニ關シテハ現在及近キ將來ニ於テハ有效ニ之ヲ實施スル能ハザルノ程度ノモノト解シ居ルコト（而シテ將來戰爭發生ノ形勢ヲ併セ考フルトキハ宣稱ヲ布告スル場合モアリ又當時ノ情況ニ應ズル如キ宣言乃至聲明ヲ行フニ止ムルヲ可トスル場合モアリ又何等ノ意思表示ヲ行ハス事案上援助ヲ與フルコトモアリ得ベシ）ヲ先方ニ對シ明カナラシメ置クベシト電示シタモノデアアル

四月八日ノ訓電ニ對シ兩大使トモ種々ノ論法ヲ以テ其ノ立場ヲ辯護スルト同時ニ勲伊側ノ希望ヲ答レテ速カニ協定ヲ成立セシメラ

外務省

四月十四日ノ五相會議（交渉打切案）

レンコトヲ進言シ一今ヤ本交渉ハ最後ノ段階ニ達シ協定ノ締結ヲ断念スルカ又ハ我方ノ留保事項ヲ撤回スルカノ裁斷ヲナスベキ時期ニ到達セリトシテ極言シテ來タ

自分ハ独伊ニシテ我方案ニ應ゼザルニ於テハ不本意ヲ本件交渉ヲ打切ルコトモ亦已々ヲ得ナイト思考シ此ノ趣旨ノ電報發出方ヲ四月十四日ノ五相會議ニ提案シタカ陸軍大臣ハ右ノ如キ電報ノ發出ニ強硬ニ反對シ而カモ何トカ打開ノ策ヲキヤト當惑ノ色ヲ示シタノデアツタ抑モ大島大使ハ武官時代カラ強硬側トハ本問題ニツイテハ拔キ差シナラヌ關係ニアツタト想像サレルノミナラズ元來三ノ國同盟主唱者デアアルシ白鳥大使ハ勲伊何レノ側トモ別ニ因縁ハツイテ居ナカッタガ矢張り三國同盟論者デアツタノヲ本國政府ノ意圖ヲ無視シ同盟締結ノ方ニ政府ヲ引キズロウト云フ者デアツタコトハ明瞭デアツタ

加之兩大使トモ當時軍部殊ニ陸軍ノ意圖ガ三國同盟締結ニ熱心ヲ

外務省

B-0057

四月二十一日ノ五
相會議(平沼總理
カラ「ヒトラー」ハ
ノ電報案)

アツタノテ陸軍ト相呼應シテ先引キテ政府ヲ引キズリ陸軍ハ後カ
ラ政府ノ聲ヲ押スト云フエトテ本問題ノ推進ヲ計ツタコトハ略々
明瞭デアツタ從ツテ武力援助ヲ與フルコトヲ躊躇スル理由ヲ留保
ヲ必要トシタ事情等ニツイテハ政府カラ如何ニ訓令シヤウト充分
ニ之レヲ独伊側ニ傳フルコトヲ敢テシナカツタト想像サレタノデ
アル如此狀況デハ政府方如何ニ独逸側ノ諒解ヲ求メヤウトシテモ
独逸側ニ於テ諒解スル訳カ無イノデアアル從ツテ政府ノ意圖ヲ相手
ニ充分傳ヘルコトノ出来ナイヤウナ交渉者ハ之レヲ交迭スルヨリ
外ハ無イ訳デアルガ當時ノ國內事情ハ之ヲ交迭スルヲ許サナカツ
タカラ自分ハ斯ル交渉者ノ頭ノ上ヲ飛ビ越ヘテ總理カラ總理ヘ直
接呼ビ掛ケテ見ルヨリ仕方カ無イト考ヘテ居タノデアアル
ソコデ自分ハ四月二十一日ノ五相會議ニ於テ專茲ニ至レバ最後ノ
手段トシテ平沼總理カラ「ヒトラー」陸軍及「ムソリーニ」首相
ニ直接電報ヲ発シ日本側ノ考方ヲ素直ニ且ツ詳細ニ述ブルト共ニ

外務省

遺憾乍ラ之レ以上妥協ノ余地ナキ事情ヲモ附言シテ兩者ノ政治的
考慮ヲ促シ自分カラモ「オット」大使ニ詳細説明シテ其ノ反響ヲ
見ルヨリ外ナカルベシト提言シタノデアツタ(本件ニツイテハ海
難ヲ避クルタメ伯林「ローマ」ニ於ケル交渉以外東京ニテハ故サ
ト「オット」大使トハ接触スルコトヲ避ケテ居タノデアアル)總理
ヲ始メ陸、海、藏各大臣何レモ名案ナキニ苦シミ居リタル際トテ
挙ツテ之レニ賛意ヲ表シタノデア二十三日ノ會議ニ案文ヲ提示シタ
ノデアツタ、然ルニ意外ニモ是ニ賛意ヲ表シタ總理ヲ乘氣ヲ示サ
ズ陸軍大臣亦今一應大島大使ヲシテ勢力セシメテ見タイトテ同夜
ノ同意ヲ撤回シタノデア(陸軍ノ一部ノ反対意見ノタメ急ニ態度ノ
變更ヲ見タモノト想像セラレテキタガ原田日記ニヨルト木戸ハ首
相カ「ヒトラー」ニ呼ビ掛ケテ直接折衝スルヨリモ大島エヤラシ
テモラキタイトイフ主旨ノコトヲ首相ニ述ベタトアル木戸之ヲ記
憶ナシト否定シテキルガ木戸ノ此ノ意思表示ハ悉ク陸軍ノ意圖

外務省

B-0057

四月廿五、廿七、廿八日ノ五相會議(留保事項全面的削除問題討論)

ヲ反映シテ屠ルモノト推察セラレル(「ヒトラー」、「ムツリ」ニ宛電報案ハ之レヲ見合ハセ結局前同ノ電報ヲ其ノ儘繰リ返ヘシタルニ過ギザル訓令ヲ發出スルコトニナツタ(如此事ノ無駄ナコトハ明)厥ナルニ拘ラズ其ノ無駄ヲ知リツツ無駄ナ事ヲシナケレバナラナカツタトコロニ當時ノ特殊事情カ存在シタノデアツタ)右訓電ヲ接受セル兩大使ハ案ノ如ク之レヲ執行シヤウトシナイ許リテナク却ツテ主要國策ノ遂行ニ關シ繼續ヲ來シタト云フコトヲ理由トシテ召還ヲ要求シテ來タ之レヲ見タ陸軍側ハ又モヤ我方ノ留保事項ノ全面的削除ヲ主張シ出シタ(兩大使ハ自分等ノ召還要求カ陸軍側ニ如此キ反響ヲ呼ビ起スベキコトヲ余期シ確信シテ要求シテ來タノデ無イト何人カ云ヒウルデアロウ、如此コトハ本件交渉ニ於テ常ニ繰リ返ヘサレタトコロデアアル)ソコデ四月二十五日、二十七日、二十八日ト連續シテ五相會議ヲ開催シテ留保事項ノ全面的削除ノ問題ヲ懸置ト

外務省

總理ノ電文案(日本ハ中立ノ態度ヲ執ラズ)

シテ論議ヲ盡シタカ議論ハ遂ニ一致シナカツタ其間平沼總理ハ自分提案ノ趣意トハ異ナリタル意味ヲ以テ「ヒトラー」(「ムツリ」ニ)兩氏ニ直接電報ヲ発スルコトヲ考察シ(自分ノ考ハ交)涉者ニ信ヲ置ケナイカラ重複ヲ厭ハズ今迄ノ交渉ノ経緯其他一切打チ明ケテ日本ノ考方ヲ兩巨頭ニ直接披露シテ其ノ最後のノ考慮ヲ求メントスルモノデアツタカ平沼總理ノ案ハ政府ハ決心ヲ傳ヘテ兩大使ノ交渉ヲ支援セントシタモノデアール、總理ノ考ノ如キ電報ヲ出シテ見タトコロデ何等ノ效果モ期待出來無イコトハ兩大使ニ政府ノ訓令ヲ忠實ニ実行シヤウトスル誠意カ無イコトカラ明瞭ニ顯取出來ルコトデアツタカ)二十八日總理カラノ案文ヲ五相會議ニ披露シタカ右案文中ニ「日本ハ中立ノ態度ヲ執ラズ」ト明記シ度イト主張シタ爲海軍大臣及自分カ強硬ニ之レニ反對シ問題ヲ更ラニ紛糾セシメタ其後一週間ハ此ノ問題ヲ中心ニシテ五相關係大臣及其他ノ關係間ニ種々ノ折

外務省

B-0057

ガウス案

衝カ行ハレタカ結局五月五日ノ會議ニ於テ在京獨伊大使ヲ通ジ平
沼總理ノ「メツセージ」ヲ「ヒトラー」、「ムツソリーニ」兩氏
ニ傳ヘ以テ大島白鳥兩大使ノ折衝ヲ支援スルコトトナツタ（無意
味ナコトノダ）⁽¹²⁾
此ノ頃獨逸側カラ我方留保ニ關スル獨逸側ノ妥協的試案所謂「ガ
ウス」第一案ナルモノヲ提議シ來リ次第第二案ナルモノヲ提議シ
テ來タカ何レモ妥協案ト銘ハ打ツテアルモノノ實ハ獨逸側從來ノ
主張ヲ一歩モ譲ツテ居ルモノテハナイノデアツタ然ルニ此案ヲ題
リテ之レヲ受諾セントスル陸軍側ト之レニ反對スル外務及海軍側
トハ間ニ種種ハ論争ヲ重テ居ル中八月二十三日、獨逸側ニ不可侵協
定カ成立シタカ本件交渉ハ自然全般的ニ打切リトナツタ茲ニ其
詳細ヲ述ブルコトハ余リニ繁雜ニ過ダ）ルヲ以テ之レヲ避ケルコ
トトシ只其ノ間ニ起ツタ重ナル出來事ニツイテ略述スルコトトス

外務省

（注）獨伊ハ「日本ガ秘密諒解ノ條件ヲ附スルハヨク諒解スル所
ナルモノ何故之レヲ文書トスルハ必要アリヤ」ト云ヒ「斯ク
強硬ニ之レカ文書化ヲ主張スルハ之レヲ英米側ニ内示スル
意向ナラズヤ」ト疑ヒ居レルモノナリ

外務省

B-0057

五月六日板垣陸相
ノ外相訪問(七時
間)

五月九日ノ五相会議
(統帥部ノ意見ヲ聞
クコトニナル)

「ガウス」第一案ヲ議題トシタ五月七日ノ五相会議ハ意見対立
ノママ散会シタカ本会議ニ於テ平沼総理ハ全面的ニ陸軍大臣ハ
主張ヲ支持シタ此ノ會議ノ前陸軍側ハ反対意見ノ各個擊破ヲ企
テタルモノト見ヘ板垣陸相ハ六日午後二時自分ヲ官邸ニ來訪シ
午後九時半マテ七時間半ニ亙リ本件承諾方ニツキ説得ニ力メタ
カ自ノ分ハ故ザト夕食モ出サズニ之レニ應對シ陸相ヲシテ迷ニ
其ノ目的ヲ達セシメナカッタ、此ノ前後陸相ハ海軍、大藏兩大
臣ヲモ訪問シタトノコトダ
三、五月九日ノ五相會議ニ於テモ意見ハ対立ノママチ打開ノ方法カ
ナカツタタメ總理ノ發言ニテ陸海軍統帥部ノ意見ヲ兼取シ其ノ
上テ五相會議ヲ開キ右統帥部ノ意見ヲ考慮ニ入レ協議スルコト
トナツタ(之レハ總理獨余ノ策ダツタト想像サレ或ル意味カラ
ハ名案ダツタカモ知レヌ)陸海軍統帥部ノ會議ハ同日直チニ開無
セラレタカ交戦關係ニ入ルヤ否ヤノ点ニ關スル陸海軍ノ意見ノ

外務省

相異ハ極メテ深刻ナモノカアツテ連日會議ヲ開催シタカ妥協ニ
達セズ幾度カ決裂ノ危険ヲ孕ンダノデアツタ然ルニ五月十九日
ニ至リ漸ク一案カ纏ツタ即チ一英佛等諸國以外ノ國トノ戰爭ノ
場合ニ独伊側ニ立ツコトハ当然ナルモ毎條件ニ武力行使ヲ義務
付ケラルルコトハ不可ナリ從テ對英佛戰爭ノ場合ニ於ケル武力
援助ノ程度方法等ニ付テハ細目協定締結ノ際及現案ノ狀況ニ即
シ決定スルモノナリト云フノデアツタ
陸海軍統帥部ノ話合テ纏ツタ上記ノ案ノ「ライン」チ「ガウス」
第一案ノ修正ヲスル場合ニハ自分トシテハ次ノ二ツノ点ヲ強選
御ニ對シ明確ニシテ置クコトヲ絶対必要ナリト考ヘタ即チ其ノ
一ハ英佛ノミヲ相手トスル場合ニハ日本ハ中立ノ態度ヲ執ルコ
トモアルト云フコトヲ明カニスルト同時ニ強ニ「リッペン」ト
「ツプ」外相カ大島大使ニ對シ「日本ハ有力ナ武力援助ヲナシ得
ナイ場合ニチ交戦關係ニ入ララル覺悟ヲ有スルモノト解シ得

外務省

B-0057

「ガウス」第一案ノ修正ト大島大使ノ態度

ナキヤ」ト質問シタノニ対シ「其ノ通りナリ」ト返答セルコトヲ訂正セシムルコトアリ其ノニハ外部ニ対スル説明振リニツイテハ必ズシキ外交上ノ質問ニ限ラズ外部一般ニ対スル説明トシ且口頭ニ依ル説明ト限定セザルコトヲ独逸側ニ納得セシメ置クコトデアツタ依ツテ自分ハ海軍大臣ニ対シテハ右ノ次第ヲ説明シテ予メ其ノ同意ヲ待タノデアツタ

五月二十日ノ五相會議ヲ経テ兩大使ニ「カウス」第一案ノ修正ガ電報セラレタ（独伊軍事同盟ハ廿二日柏林ヲ調印セラレ即日發表サレタ）カ右電報ヲ接受シタ兩大使カラ再ビ至急石澤方ヲ電報シテ來タ

外務省

右ニ対スル平沼總理ノ態度

等變化ナキモノニシテ独伊ノ對英佛戰爭ノ場合無條件ニ武力行使或ハ宣戰布告ノ如キ措置ヲ執ルノ義務ヲ負フコトヲ不可トスル次第換言）スレバ右ノ如キ戰爭勃発ノ場合日本ハ独伊側ニ立つモ交戰關係ニ入ルヤ否ヤハ日本カ自主的決定ヲナス迄未定ノ状態ニアル次第ナル旨ヲ繰リ返シ説明セル電文案ヲ草センメ二十二日夜澤田次官ヲシテ平沼總理ヲ往訪、同意ヲ求メシメタルトコロ總理ハ右ニ同意ヲ與ヘズ自ラ筆ヲ取ツテ陸軍側主張ヲ其ノ儘採用シタ修正ヲ加ヘタル上更ニ有效ヲ武力援助ヲ行使スルヲ得ナイカラト云ツテ之レヲ參戰チナイトカ參戰デアルトカ論ズルノハ「アカデミカル」ノ論議デアツテ之レニ拘泥スル必要ハ無イ從テ大島大使カ總理ノ意見ニヨリ戰爭參加ノ覚悟アリト述ベタコトハ何等差支ナキモノダト兩大使ニ申送ルコトヲ提議シタ

外務省

B-0057

再ビ統帥部ノ意見
ヲ徴ス(五月廿七
廿八日)

問題ハ再ビ紛糾シ結局再ビ陸海軍部一致ハ明確ナル意見ヲ徴ス
ハコトトハツタ
ソコテ陸海軍当局ハ五月二十七日二十八日ノ兩日ニ亘リ前後十
四時間協議ヲ重ネタカ結局「参戰」問題ニ付テハ意見ノ一致ヲ
見ルニ至ラナカッタ、然シ合議ヲ決裂サセテハ重大時局ニ際シ
面白カラズトノ考ガアツタモノト見ヘ右問題ノ核心ニ触レルコ
トヲ避ケツツ兎モ角兩軍部ノ意見一致ヲ見タ点ヲ拾ヒ集メ之
レヲ取纏メルコトトナツタ
四陸海軍ノ一致シタ点ヲ取纏メタルモノハ左ノ通りダ独伊ノ對英
佛戰爭ノ場合日本ノ執ルベキ態度ヲ(イ)意思(ロ)意思表示(ハ)行爲ノ
三ニ區別シ意志ニ於テハ常ニ必ズ独伊側ニ組シ英佛ニ加ハルコ
トナシ意思表示ハ宣戰布告、宣言、声明、斷交斷絶又ハ無言ニ
テ武力行使ノ中其一若クハ二以上ノ形式ヲ用キルコトアリ又
ハ米蘇等カ未ダ態度ヲ表明セザルカ如キ狀況ニ於テ一般狀勢ト

外務省

併セ考ヘ日本カ無言ノ脅威ヲ以テ米蘇等ノ戰爭参加ヲ牽制スル
ヲ協約三國ノ爲有利トスル場合ニ於テハ何等ノ意思表示ヲ行ハ
ザルコトアリ意思表示ニ關シテハ独伊側ト協議スルモノトス行
爲トシテハ帝勅ハ其ノ現況ニ鑑ミ現在及近キ將來ニ於テハ有教
ナル武力ノ援助ヲ行ヒ得ザルモノナルカ協定第二條ノ政治、經
済上ノ支持ノ第三條ノ助力及援助ノ内武力行使ヲ除キタルモノ
ハ常ニ必ズ之ヲ行フ武力行使ハ開戰ノ初期ヨリ之ヲ行ヒ又米蘇
等カ未ダ其ノ態度ヲ表明セザルカ如キ狀況ニ於テ一般情勢ト併
セ考ヘ日本カ無言ノ脅威ヲ以テ米蘇等ノ戰爭参加ヲ牽制スルヲ
協約三國ノ爲有利トスル場合ニ於テハ開戰当初之ヲ行ハズ戰爭
ノ經過中ニ於テ之レヲ行ヒ又ハ戰爭間之ヲ行ハザルコトアリ武
力援助ニ關シテハ独伊ト協議スルモノトスト云フノテアル(一)管
管シイモノテアル、解ツタヤウナ解ラナイヤウナモノダ(二)米蘇
參戰シ蘇聯參戰セザル場合日本ハ參戰スルモノナリヤ否ヤノ点

外務省

B-0057

ニ関シテハ依然意思表示ヲ回避シテ居ルノデアアル、故ニ自分ハ
 右ノ点ニ関シ爲念六月六日ノ五相會議ニ於テ一蘇カ參戰セザル
 ニ米國カ參戰シタルカ如キコトアリトスルモ一般情勢ト併セ考
 ハ日本カ無言ノ脅威ヲ以テ蘇等ノ戰爭參加ヲ牽制スルヲ協約三
 國ノ爲有利トスル場合ニハ何等ノ意思表示ヲナサザルコトアリ
 又武力行使ヲ行ハザルコトアリ」ト云フコトヲ文書ヲ以テ明確
 ナラシメテ置イタ

其後種々ノイキザツカアツタカ八月八日ノ五相會議ヲ陸軍大臣
 ハ至急無條件同盟ヲ締結スベシト強硬ニ主張シ海、外、蔵ノ各
 大臣ハ之レニ反對シ結局總理ハ意見一致セザルモノニツキ如何
 トモナシ難シト云フ意味ノ陳述アリ

此ノ五相會議前後ヨリ陸軍側ヲハ頻リニ要望ニシテ齊セラレザ
 レバ陸軍大臣ハ辭職スベク、辭職スレバ当然内閣ハ瓦解スベシ
 トナシ政變後ノ軍政ヲホノメカシテキタ、木戸内大臣キ此ノ風

外務省

説ニ基イテ八月四日板垣陸相ノ注意ヲ喚起シテキル、八月八日
 ノ五相會議ハ前述ノ如キ 迫的風説ニ拘ラズ陸相ノ要望ヲ容レ
 ナカツタノテ陸相ハ十一日歐尻軍務局長ヲシテ独伊大使ト会見
 セシメ辭職ノ已ムヲ得ザル形勢ニアリトテ辭職後ハ復シテキル

五如此種々ノ経緯ハアリタルモ要スルニ独伊側ハ無留保ノ同盟締
 結ヲ主張シ大島白鳥兩大使ハ日本政府ノ在外使臣タルニ拘ラス
 常ニ独伊側ノ主張ニ共鳴シテ日本政府ヲ引ズラントシ陸軍側亦
 アラユル機會ニ常ニ政府ノ方針ヲ独伊側希望ノ方向ニ變改セシ
 メムトシ技ニ外務及海軍ノ主張ト衝突シ終ニ政府トシテ出先ニ
 対シ適確ナル訓令ヲ發スルヲ得ザル内八月二十三日粘連ハ蘇聯
 トノ間ニ不可侵條約ヲ締結スルニ至ツタ

独蘇不可侵條約ノ締結ノ報ニ接スルト同時ニ政府ヲハ八月二十
 五日五相會議ヲ開キ独蘇不可侵條約ノ締結ニヨリ日独伊協定ノ
 交渉ハ自然全般的ニ打切リトナツタモノト了解シ此ノ趣旨ヲ精

外務省

B-0057

(注) 常ニ独伊側ノ主張ニ共鳴シタルモノニハ非ズ、日本側ノ最
初ノ出发点ニ於ケル過誤ヲ何トカ誤闡化シ行カントスル態
度ハ独伊側ニハ諒解シ得ズ、兩大使ノミナラズ日独兩政府
間ノ電報ノミヲ見ル時ハ独側ノ主張カ当然論理ニ適ヒ居ル
モノナリ

外務省

B-0057

伊兩國政府ニ申入方出先ニ調令シタカ之レト同時ニ大島大使ニ
 對シテ締造政府今次ノ措置カ防共協定附屬秘密協定ノ重大ナル
 違反デアルト云フコトヲ指摘シ右ニ付締造政府ニ嚴重ナル抗議
 ヲ提出スル旨文書ヲ以テ正式ニ抗議ニ申入方調電シタカ之ニ
 對シ大島大使ハ右ハ余リニ他人行儀ノ抗議ニテ現在締造力其ノ
 死活ニカカル重大危機ニ直面シテ居ル際ニモアリ其ノ結果ハ日
 独關係ニ重大ナル影響ヲ及ボスコト必然ナルベシト認メラルト
 テ反對意見ヲ電報シテ來タカ翌二十八日平沼内閣ハ總辭職ヲ決
 行スルニ先チ今回ノ如キ明白ノ協定違反ニ對シ云フベキコトヲ
 モ云ハズシテ放置スルハ好マシキコトヲハナイ本件正式抗議ト
 將來ノ日独關係ヲ如何ニスルカノ問題トハ全然別問題ニテ其ノ
 事自体カラ直チニ日本方独逸ヲ疎外スルノ政策ヲ執ルモノトハ
 斷ズルコトヲ得ナイ何レニセヨ現政府ハ独逸ノ協定違反ノ点ヲ
 後日ノ爲明確ニ爲シ置カントスルモノナル旨ヲ述ベテ重不才調

外務省

令執行方ヲ電報シタカ本件調令ハ遂ニ執行セラレズニ終ハツタ
 モノト認メラレム軍事裁判所ニ提出サレタ左ノ文書ニヨリ事
 ハ初メテ判明シタ

◎独外務次官「アスゼツカー」ヨリ
 「オット」宛電報（九月十八日）

大島大使ハ八月二十六日附ノ日本政府抗議文ヲ提出シタ、八
 月末余ハ日独秘密協定ト独ソ不可侵條約ノ矛盾ニツイテ抗議
 ヲセザルヤウ説得シタカ、大島ハ政府ノ命令ニ従ハザルヲ
 得ナイノヲ東京ニ對シテハ抗議セリト電報シ、突ハソノ抗議
 ヲ今日マテシナカツタノデアル

X X X X X

要スルニ本件ハ対独、伊交渉ト云フヨリ内閣内テノ論争、日本側
 内部ノ紛糾ニ終始シタモノト云フコトカ適當デアアル、如此醜態ヲ

外務省

B-0057

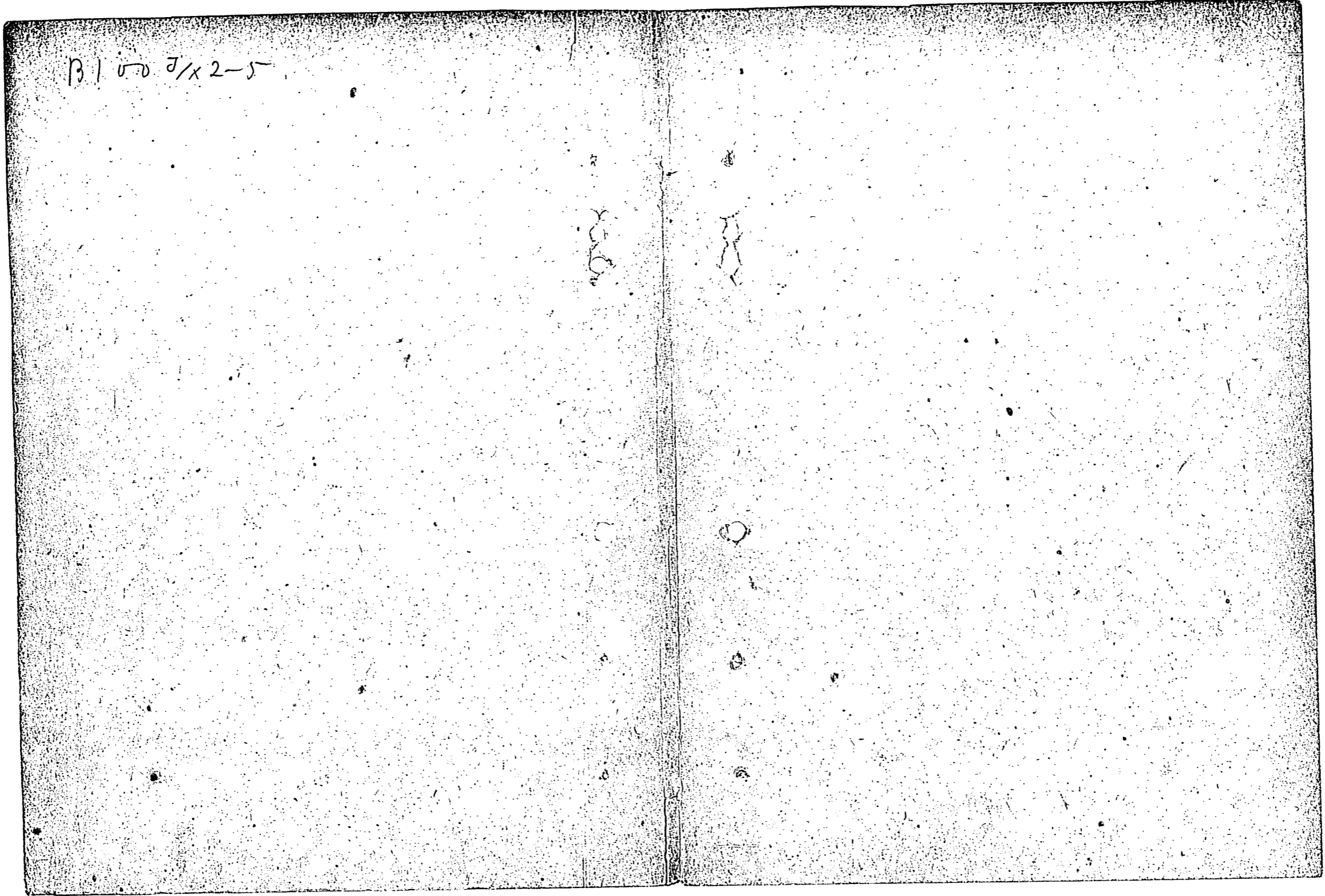
（注）「モスコ」ニ關印ニ行ツ「リ」ラ「ン」ムルホ「フ」ニ
捕ハテ独今同ノ措置カ防共協定附屬ニ違反スル旨指摘セル
ニ「リ」ハ今日法運輸ハ已メテ吳レト廉願セリ

外務省

生ズルニ至ツタ原因モ以上ノ手配ヲ見レバ自ラ察知出來ルコトト
思フ、外交ノ一元化カ如何ニ必要デアリ在外使臣ト外務大臣ノ一
体化カ圖）家ノ爲メ如何ニ必要デアアルカト云フコトヲ精感スルノ
デアアル
平沼總理ノ云ツタ「複雑怪奇」ト云フ言葉ハ歐洲ノ事態ヨリモ
寧ろ國內情勢ニツイテヨリ適切ナモノデアツタト云ヘヨウ

外務省

B-0057



B-0057 |